

- 基本計画の名称：竹田市中心市街地活性化基本計画
- 作成主体：大分県竹田市
- 計画期間：平成27年7月から平成32年3月まで（4年9ヶ月）

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

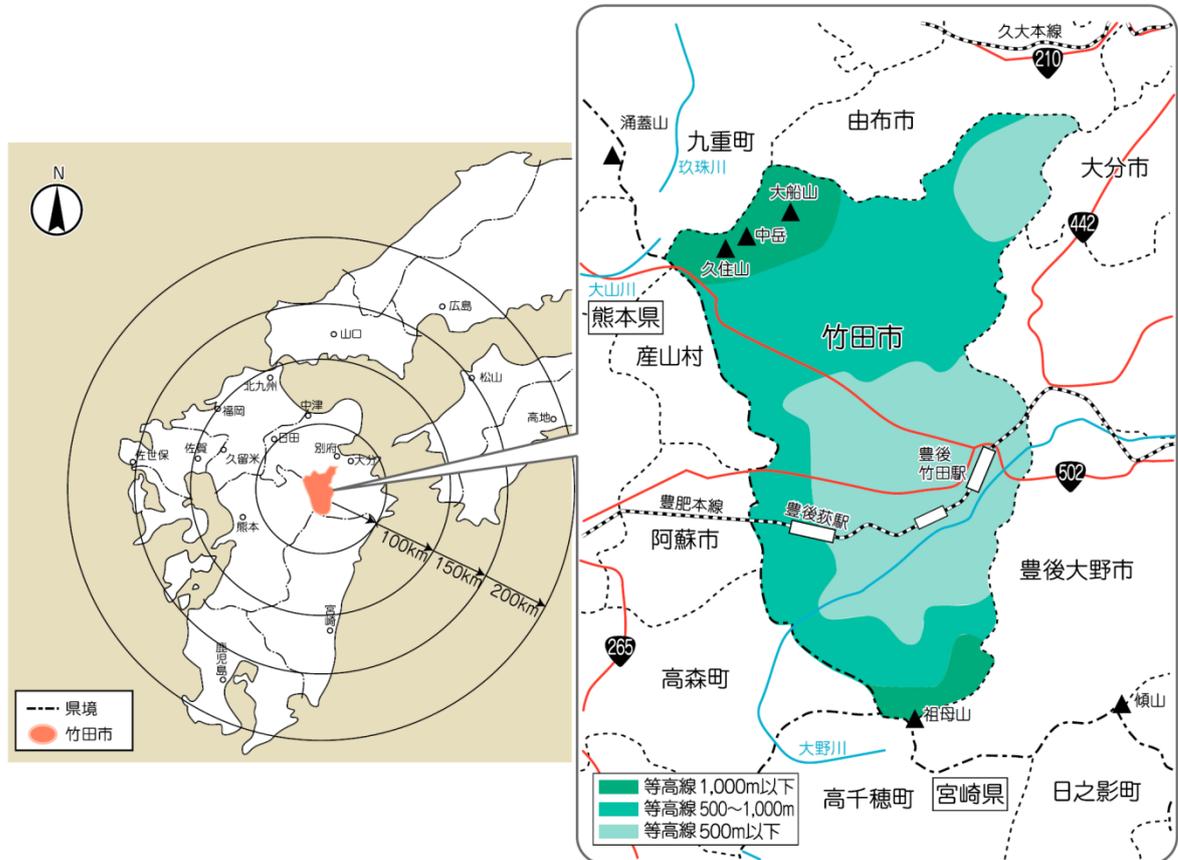
[1] 竹田市の概要

(1) 位置・地勢

竹田市は、大分県の南西部にあり、熊本県と宮崎県に接しており、九州のほぼ中央に位置する。周囲をくじゅう連山、阿蘇外輪山、祖母傾連山など九州を代表する山々に囲まれた中山間地で、大分県一の流路延長を持つ大野川源流を有している。一日に数万トンの湧出量を誇る湧水群が点在し、水と緑があふれる自然豊かな地域を形成する。

大地から湧き出る豊かな湧水は名水百選として全国的にも知られ、地域住民の生活用水として、農業用水として生活基盤を支えている。本市では、こうした大自然の恵みを活かした農業や観光が基幹産業となっている。

また、歴史的には奥豊後の中心地として栄え、政治や経済、文化、交通の要衝として発展してきた。市の中心部には、そうした時代を物語る岡城跡や武家屋敷等が現在に引き継がれている。

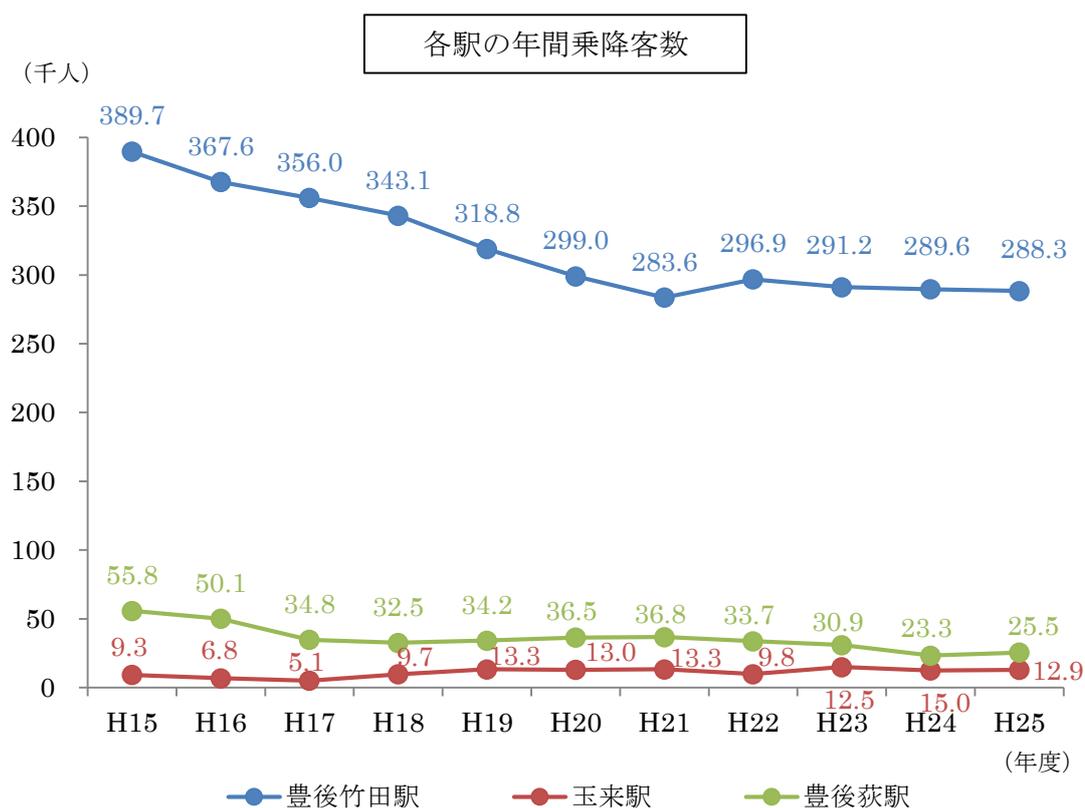


(2) 交通体系

本市の道路交通網の骨格は、国道 57 号が本市のほぼ中央を横断し、国道 442 号が竹田地域から久住地域を通り、熊本県南小国町へと縦断している。また、県道は、竹田直入線が竹田地域と直入地域を結び、久住地域と直入地域は庄内久住線で結ばれ、竹田地域と荻地域は高森竹田線で結ばれている。

鉄道は、JR 豊肥本線が国道 57 号に沿う形で市内を東西に横断し、豊後竹田・玉来・豊後荻駅の 3 駅がある。最も利用客が多いのは豊後竹田駅であるが、全体の乗降客数は減少傾向にある。

バスは、国道 57 号に熊本・大分を結ぶ高速バスが運行され、竹田市はこの中間点になっている。また、路線バスはおおよそ市内を網羅しているが、赤字路線では路線廃止が進んでいる。このため、市の事業として、路線バスを補完するコミュニティバスを運行し、周辺集落に居住する住民の外出機会の確保を行っている。



資料：JR豊後竹田駅

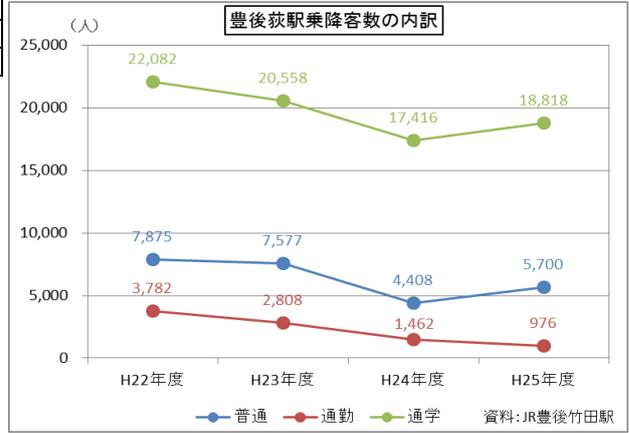
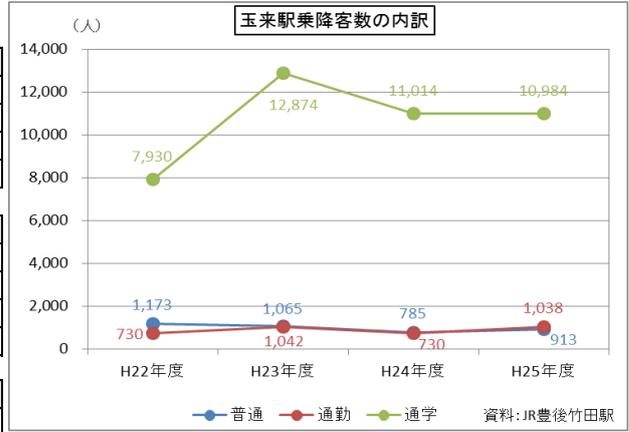
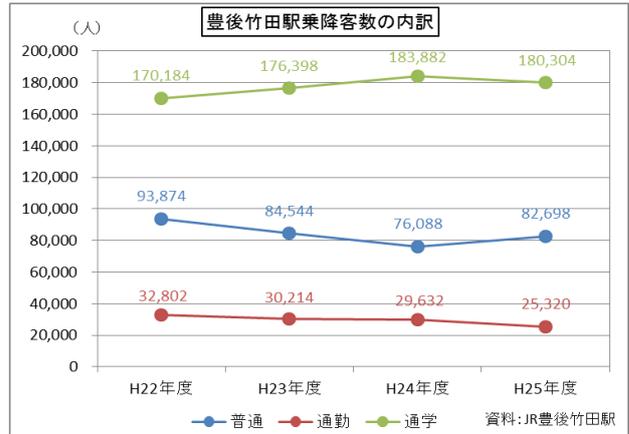
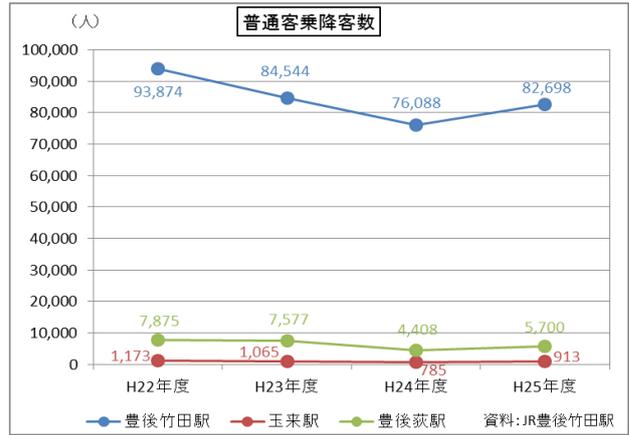
平成 22 年度から平成 25 年度までの普通客の乗降者数をみると、3 駅全てで減少傾向にあり、対平成 22 年比で豊後萩駅は 72.4%と最も下降している。

次に、駅別に推移をみると、全ての駅で普通客が減少傾向にある。

豊後竹田駅は、普通客及び通勤定期利用者の乗降客数は、減少傾向にあり、通学定期利用者は、微増している。

玉来駅は、普通客が平成 22 年度と比べ約 2 割減少している一方、通勤・通学定期利用者は、増加傾向にある。

豊後萩駅は、普通客、通勤・通学定期利用者全て減少傾向にあり、特に通勤定期利用者は、平成 22 年度の約 75%となり、大幅な減少が見られる。



■対平成 22 年度比 乗降客数の割合

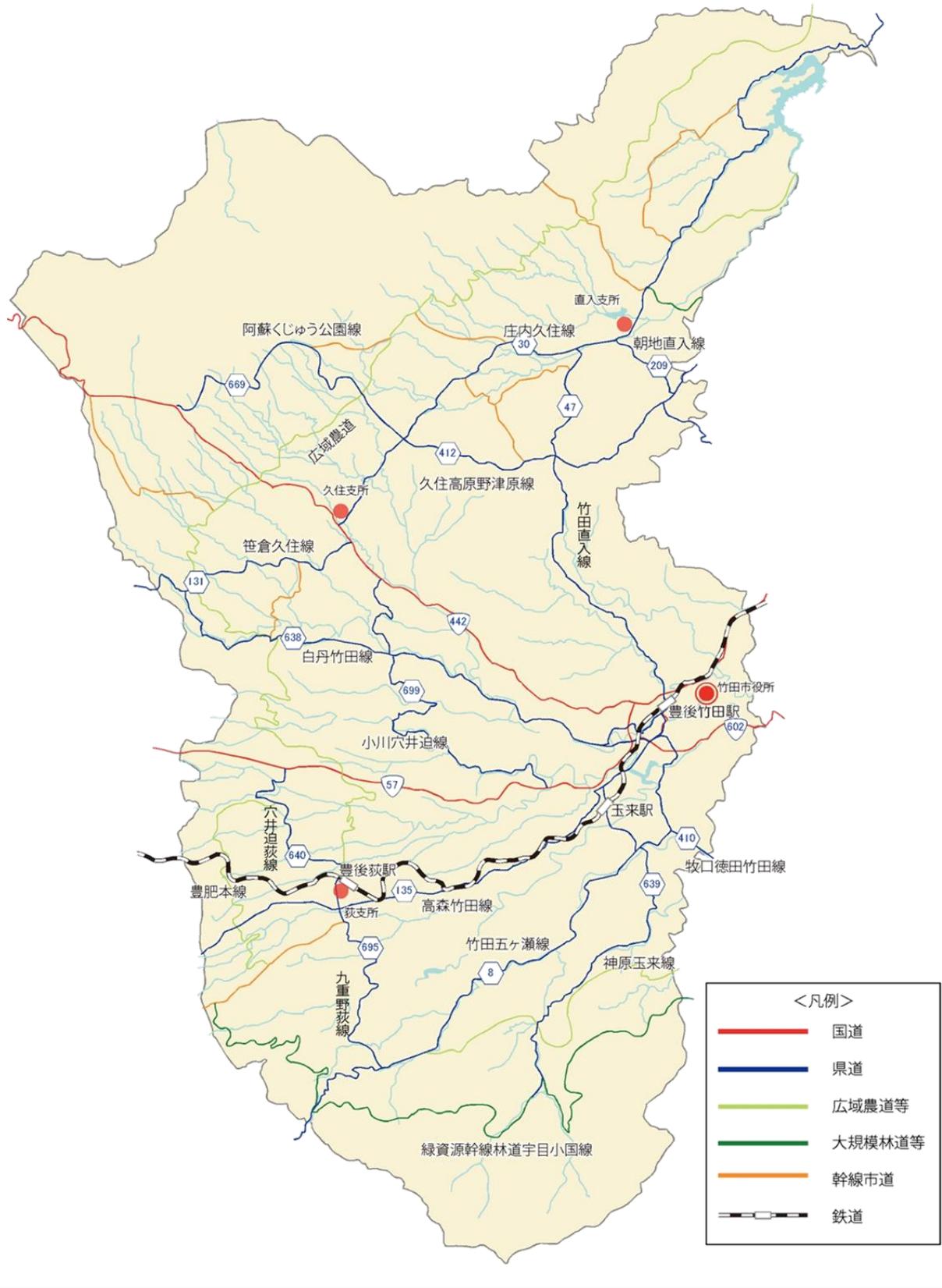
豊後竹田駅	普通	通勤	通学
H22年度	100.0%	100.0%	100.0%
H23年度	90.1%	92.1%	103.7%
H24年度	81.1%	90.3%	108.0%
H25年度	88.1%	77.2%	105.9%

玉来駅	普通	通勤	通学
H22年度	100.0%	100.0%	100.0%
H23年度	90.8%	142.7%	162.3%
H24年度	66.9%	100.0%	138.9%
H25年度	77.8%	142.2%	138.5%

豊後萩駅	普通	通勤	通学
H22年度	100.0%	100.0%	100.0%
H23年度	96.2%	74.2%	93.1%
H24年度	56.0%	38.7%	78.9%
H25年度	72.4%	25.8%	85.2%

資料：JR 豊後竹田駅

■交通ネットワーク図



(3) 歴史

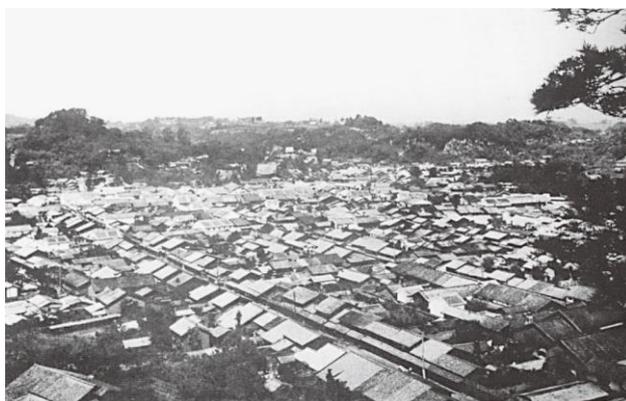
1594年、中川秀成が播州三木から岡藩に移り、現在の竹田市街地に城下町を造るなど岡藩七万石の礎を築き、この頃から竹田が奥豊後の中心地として歩みはじめる。久住地域は、都野地区の一部を除き、1601年に肥後藩主加藤清正の所領となり、後に細川氏の所領となった。また、直入地域の下竹田地区は天領となり、幕末に細川領となった。江戸時代の豊後地方は小藩が分立しており、岡藩は内陸交通の要衝を果たしていたことから、商業の集積地として発展、豊後の雄藩であった。

版籍奉還に伴う廃藩置県により、明治時代を迎え、大分県が設置される。旧岡藩の直入郡内にはいくつもの町村が誕生した。それ以降、全国で小町村の分合が行われたが、直入郡内では昭和30年前後に行政事務の機能強化を目指して、昭和の大合併が進められた。旧竹田市は、昭和29年に直入郡内2町8村（竹田町、豊岡村、玉来町、松本村、入田村、姫岳村、宮砥村、菅生村、宮城村、城原村）が合併して市制を施行し、その翌年に片ヶ瀬地区を編入した。荻町は、昭和30年に荻村と柏原村が合併し、町制を施行した。久住町と白丹村は昭和29年に合併して久住町となり、翌年30年に都野村と合併した。また、直入町は、昭和30年に長湯町と下竹田村の合併により誕生し、翌年に神堤地区を編入した。

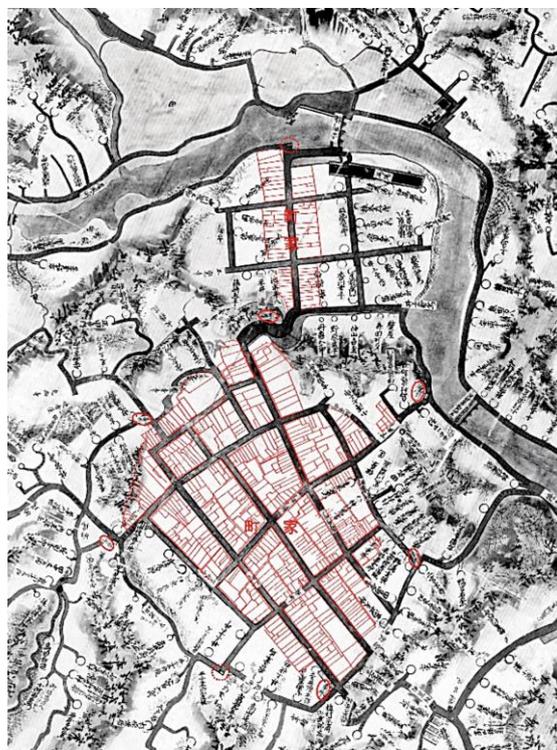
平成17年4月1日に、地方分権による地方の自立と活性化を目指して旧1市3町が合併、新しい竹田市が誕生し、現在に至っている。



「御城真景図」に描かれた岡城



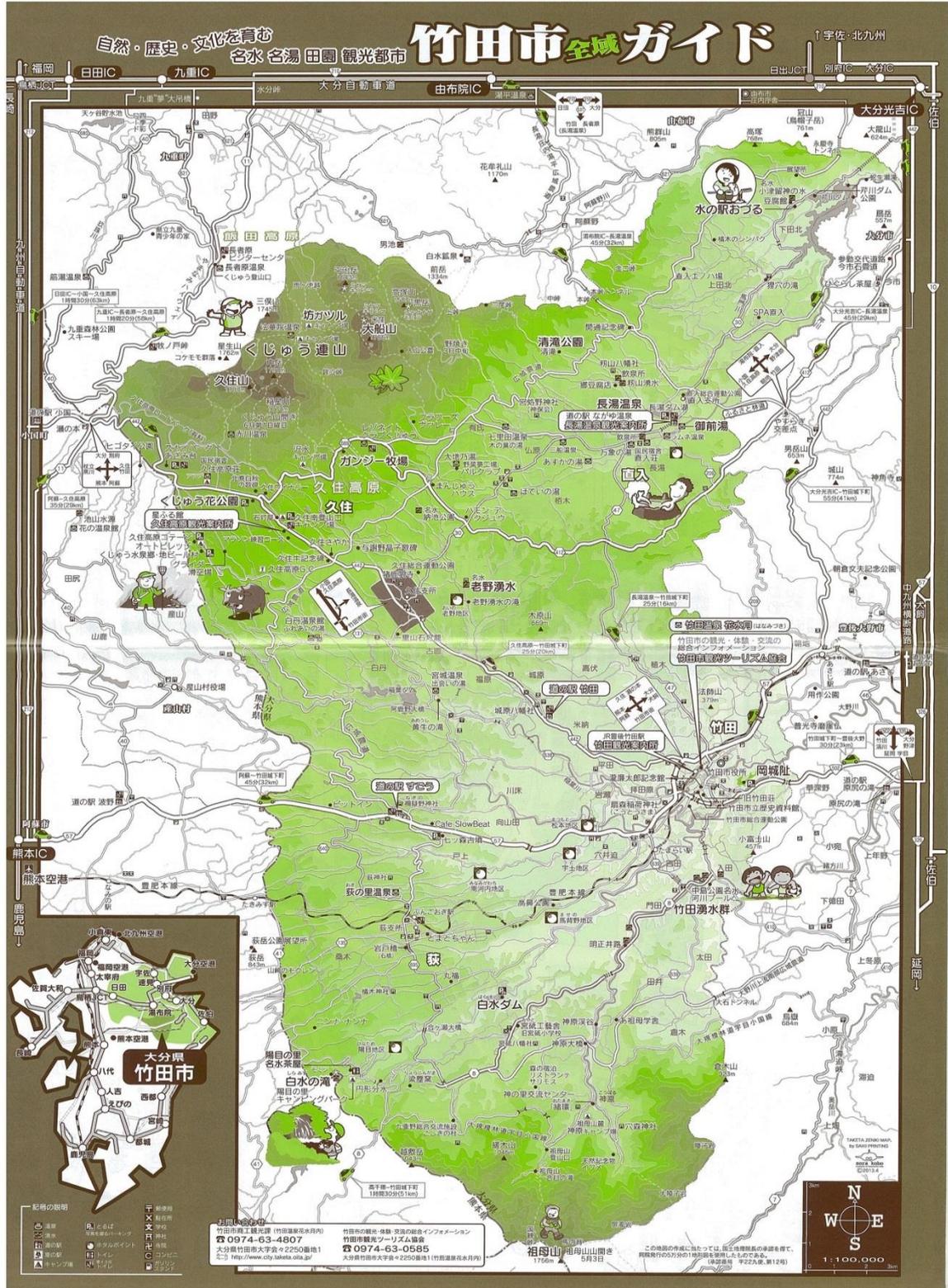
町屋が密集した城下町（大正～昭和初期）



岡藩の城下町（は町屋）

(4) 竹田市周辺の観光資源

本市には、国の重要指定文化財に指定された白水ダムやくじゅう連山といった風光明媚な自然環境や御前湯などの歴史的・文化的遺産が広がっている。市の中心部には、瀧廉太郎の名曲「荒城の月」のモチーフとなった城跡として有名な岡城址が位置する。



○岡城址

文治元年（1185年）、緒方三郎惟栄が源義経を迎え入れるために築城したと伝えられている。難攻不落の名城と名高く、重厚に積まれた石垣が今も残されている。瀧廉太郎の名曲「荒城の月」のモチーフとなった城跡としても有名。「日本さくら名所百選」にも選ばれて、春は桜、秋は紅葉に彩られる。



○長湯温泉

宝永3年（1706年）8月、この地を治めていた岡藩主・中川侯の入湯宿泊の便をはかるために、温泉を取り込んだ御茶屋が建設された。これが初めての藩による湯屋・御茶屋の建設であったといわれている。

その後、安永10年（1781年）に、中川寛得軒の設計、岡藩の普請による新湯（御前湯）が作られた。



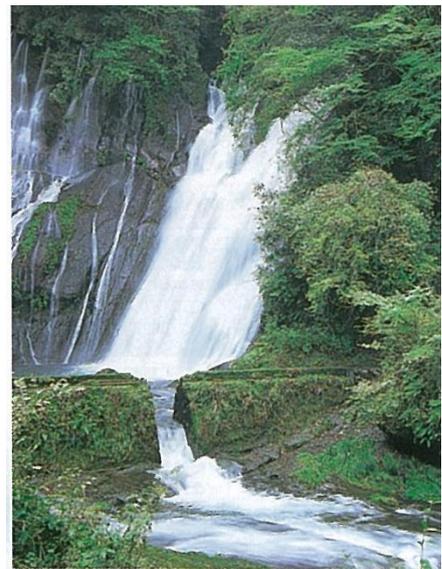
○白水ダム

国の重要指定文化財に指定された、日本一美しいと称されるダムである。壁面の石によって美しい鱗模様が描かれ、レースのカーテンのように流れるさまは、芸術的な美しさである。



○白水の滝

落差40mの迫力満点の滝は、豊の国名水15選のひとつである。かつての岡藩主中川公も茶屋を建て、避暑地として訪れていた。また、多くの文人墨客も訪れ、滝の美しさを愛でたという。



○祖母・傾山

祖母・傾山国定公園に指定されている。穏やかなくじゅう連山とは対照的に、切り立った崖や急斜面に原生林が覆い、荒々しい表情を見せるのが祖母・傾山系である。春から夏にかけて、新緑やアケボノツツジ、シャクナゲが咲き誇り、秋は真紅の紅葉、冬は霧氷の世界が広がる。



○坊ガツル湿原、タデ原湿原

坊ガツルは、くじゅう連山に囲まれた盆地に広がり、山岳地形にある中間湿原では国内最大級である。また、九州で最も高い場所に位置する法華院温泉もある。タデ原湿原は、古くから「野焼き」が行われ、希少な動植物が生態系を保っている。



○竹田湧水群

日本名水百選にも選ばれている。阿蘇山系の湧水の中でも透明度が高い。特に「河宇田湧水」は最も湧水量が多く、休日には湧水を汲む人の姿が絶えない。また、「泉水湧水」は、ミネラルを多く含んだ軟水で、ミネラルウォーターの製造にも使用されている。



○くじゅう連山

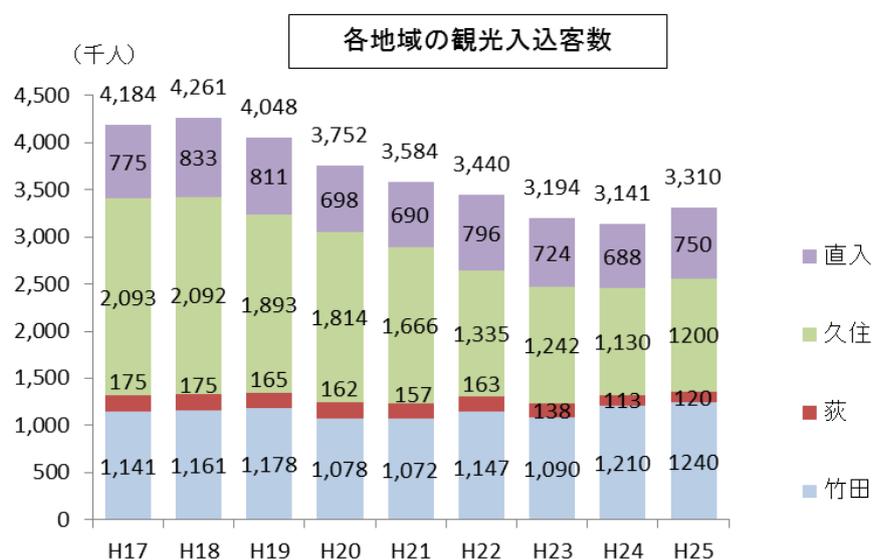
九州本土最高峰の中岳をメインに、主峰久住山、稲星山など、1,000m級の山々が連なる。春は国指定天然記念物のミヤマキリシマが山頂をピンクのじゅうたんで敷き詰め、秋には雅な着物のような紅葉を羽織り、冬には純白の雪のベールをかぶる。



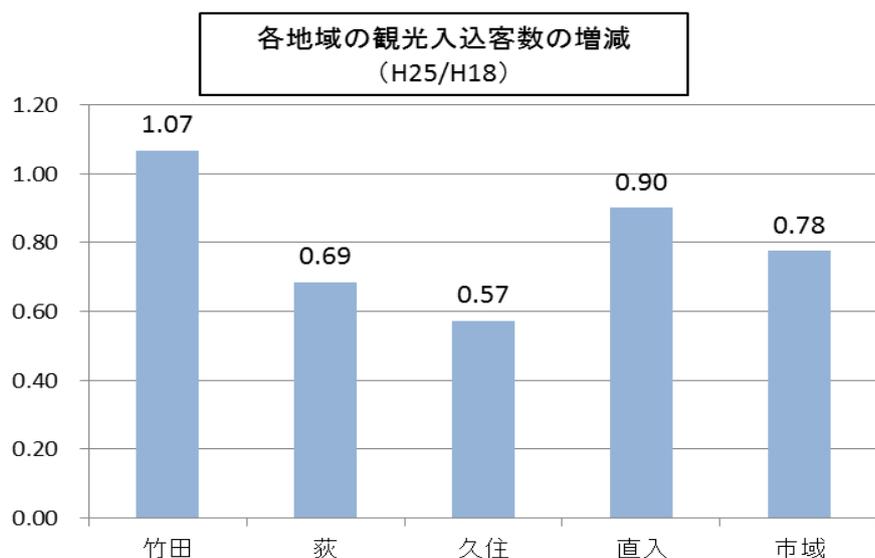
(6) 観光

平成 18 年以降、本市の観光入込客数は一貫して減少傾向にあり、平成 25 年は 3,310 千人となっている。各地域（旧市町）で見ると、竹田地域は平成 25 年で 1,240 千人を記録し、入込客は回復傾向にある。しかし一方では、平成 25 年は前年と比べ増加したものの、久住地域の減少が著しくなっている。

平成 10 年に、里山保全と市街地の商業環境の融合を目的に、岡城・城下町もみじフェスタが開催された。以後、里山ウォーク、自然観察会などのイベントを実施する過程で、平成 12 年に 3,000 本の竹灯籠を殿町武家屋敷通りに点灯した。翌 13 年には竹灯籠を増やし、「たけた竹灯籠 竹楽」として、以後毎年 20,000 本の竹灯籠を点灯し、開催している。「竹楽」に訪れる入込客数は、開催期間中の 3 日間で毎年 10 万人を超える観光者で賑わう。



資料：大分県観光動向調査(H17~H23)
竹田市資料(H24,H25)



資料：大分県観光動向調査
竹田市資料(H24, H25)

(7) 中心市街地の沿革と歴史的・文化的役割

竹田市の中心部に位置する岡城は、伝承では中世に緒方三郎惟栄が源義経を迎え入れるために築城されたとされ、3代藩主中川久清により寛文4年(1664年)に西の丸が造営され、岡城は急速に中世の山城から近世城郭へと移り変わり、同時に城下町の建設が行われた。これが、中心市街地となる城下町のはじまりである。

城下町の設置場所は、稲葉川の氾濫により沼沢を形成

しており、これを造成して城下町の基盤が形成され、町割がなされ、町屋は主に本町、新町、府内町、田町、上町をもとに構成された。その後、寛文5年(1665年)に古町が新たに造営され、城下町の拡大をみている。

天明3年(1783年)に竹田城下町を訪れた備中国(岡山県)の古河古松軒は「町は大概よきまちにして諸品自由の地なり、(中略) 万事此城下ならでは調ひかたき故に、何に不足なきように商人たくはへ置とみたり、寺院も数多く見へ侍りぬ」(「西遊雑記」)と城下町の繁栄振りを伝えている。

岡藩の城下町は江戸時代以降、奥豊後の政治・文化の拠点として栄え、田能村竹田・瀧廉太郎・朝倉文夫・廣瀬武夫などの偉人を数多く輩出している。

明治32年(1899年)に設立された竹田水電株式会社により竹田町・玉来町・豊岡村への大分県初の電力供給が行われ、その後も、周辺の13町村に電力を供給するなど、産業基盤の振興に繋がっていった。

大正6年(1917年)に竹田一犬飼(豊後大野市)間の乗合自動車定期便営業開始後、宮地(熊本県阿蘇市)・三重(豊後大野市)・久住など路線整備が竹田町を中心に整えられた。大正13年(1924年)には豊肥線豊後竹田駅が開業し、機関車・転車台・給水設備・給炭設備などを有する大分一熊本間の重要な駅として整備された。

このように本市の中心市街地は、岡城の築城とともに、発展を進めてきた。現在では、中心市街地には、古町商店街、本町商店街、田町商店街の3つの商店街が存在し、中心市街地及びその周辺には市役所や市立図書館、文化会館などの主要な公共施設、病院、学校などの都市福利施設が集積、また、歴史資料館や瀧廉太郎記念館、旧竹田荘などといった歴史的文化的施設も集積し、竹田市の中心として歴史的、文化的な拠点として都市機能が集積していることが分かる。

(8) これまでの中心市街地活性化の取組

平成 20 年度

- ・竹田市議会 9 月定例会において「中心市街地活性化基本計画」策定の請願が提出され採択。一般質問で策定の意向を答弁。(所管：商工観光課)
- ・竹田商工会議所を中心とした「竹田地区市街地活性化協議会」が設立される。
(平成 20 年 12 月 15 日)

平成 21 年度

- ・竹田市の方角として都市計画道路竹田玉来線本町工区拡幅見直し提案
⇒歴史・文化を積み重ねてきた「城下町の町割り」を残したまちづくりへの転換。

平成 22 年度

- ・竹田都市計画区域マスタープラン見直し
- ・竹田市新生ビジョン策定 (平成 23 年 3 月)

平成 23 年度

- ・竹田市都市計画マスタープラン策定ワークショップ等実施
- ・竹田地区市街地活性化協議会から、「竹田市中心市街地活性化構想」が竹田市に提案される。(平成 24 年 2 月)
- ・構想実現に向け、中心市街地活性化基本計画策定の要請が継続して行われる。

平成 24 年度

- ・竹田市都市計画マスタープラン策定 (平成 25 年 3 月)

平成 25 年度

- ・大分県に都市計画道路変更案申請 (平成 25 年 4 月)
- ・大分県都市計画審議会承認 (平成 25 年 10 月)
- ・交通社会実験開始 (平成 25 年 10 月)
⇒市道本町線 (旧都市計画道路竹田玉来線本町工区)
- ・竹田市都市再生まちづくり基本計画策定 (平成 26 年 3 月)
- ・竹田地区都市再生整備計画認可 (平成 26 年 3 月)

平成 26 年度

- ・竹田市歴史的風致維持向上計画策定 (平成 26 年 6 月)
- ・竹田市議会 9 月定例会において基本計画策定経費可決、着手。(まちづくりセンター)
10 月 「中心市街地活性化協議会」設立準備会立ち上げ
11 月 基本計画原案取りまとめ
12 月 九州管内関係省庁事前協議、内閣府協議開始

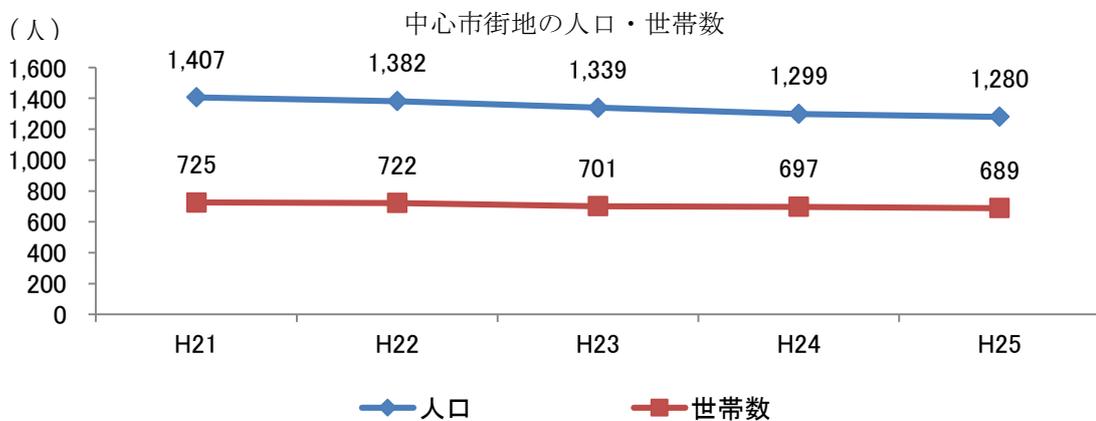
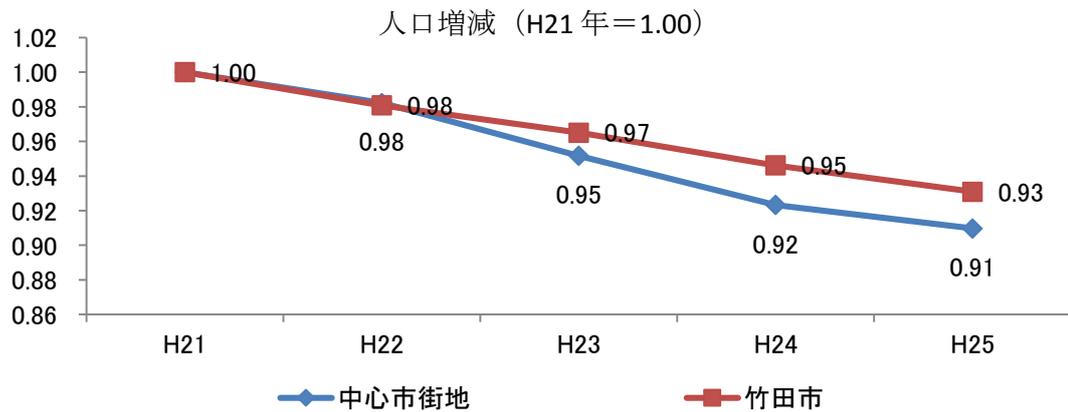
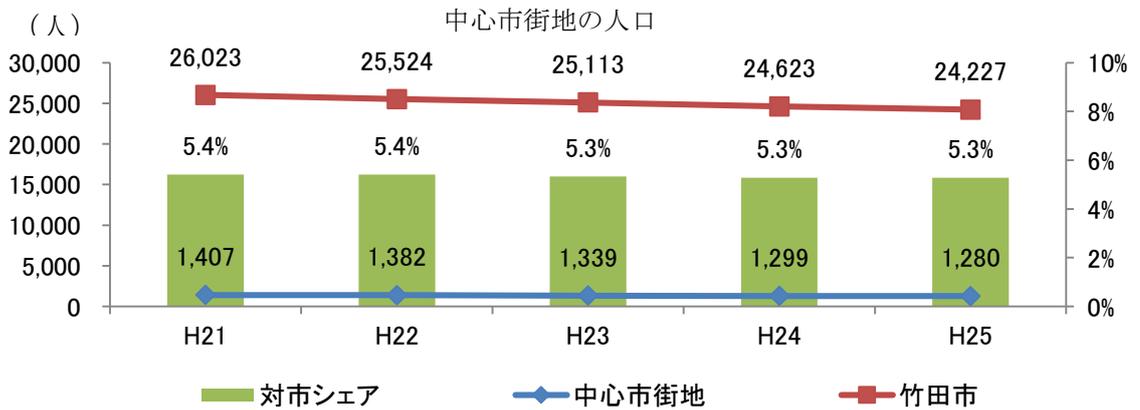
[2] 中心市街地の現況分析

1. 中心市街地の社会動向

(1) 中心市街地の人口・世帯数

中心市街地の人口は、市の人口と共に減少傾向を辿っており、その減少率は全市の減少傾向よりも高い割合で減少している。

中心市街地人口の対市とのシェア率についても低い割合になっている。



(2) 通勤通学流動

本市における通勤・通学流動は、90%以上の方が竹田市内に住みながら市内で就業、通学している。

周辺市町村との流出入は、流入、流出ともに豊後大野市や大分市とのつながりが強く、熊本県や宮崎県との県境を越えた交流も見られる。

■竹田市からの従業地別就業者・通学者
(平成22年)

従業地		就業者・通学者数 (人)	割合
竹田市		1,1831	89.6%
竹田市 市内	大分市	492	3.7%
	豊後大野市	606	4.6%
	その他	146	1.1%
竹田市 以外	熊本県	104	0.8%
	その他	20	0.2%
合計		13,199	100.0%

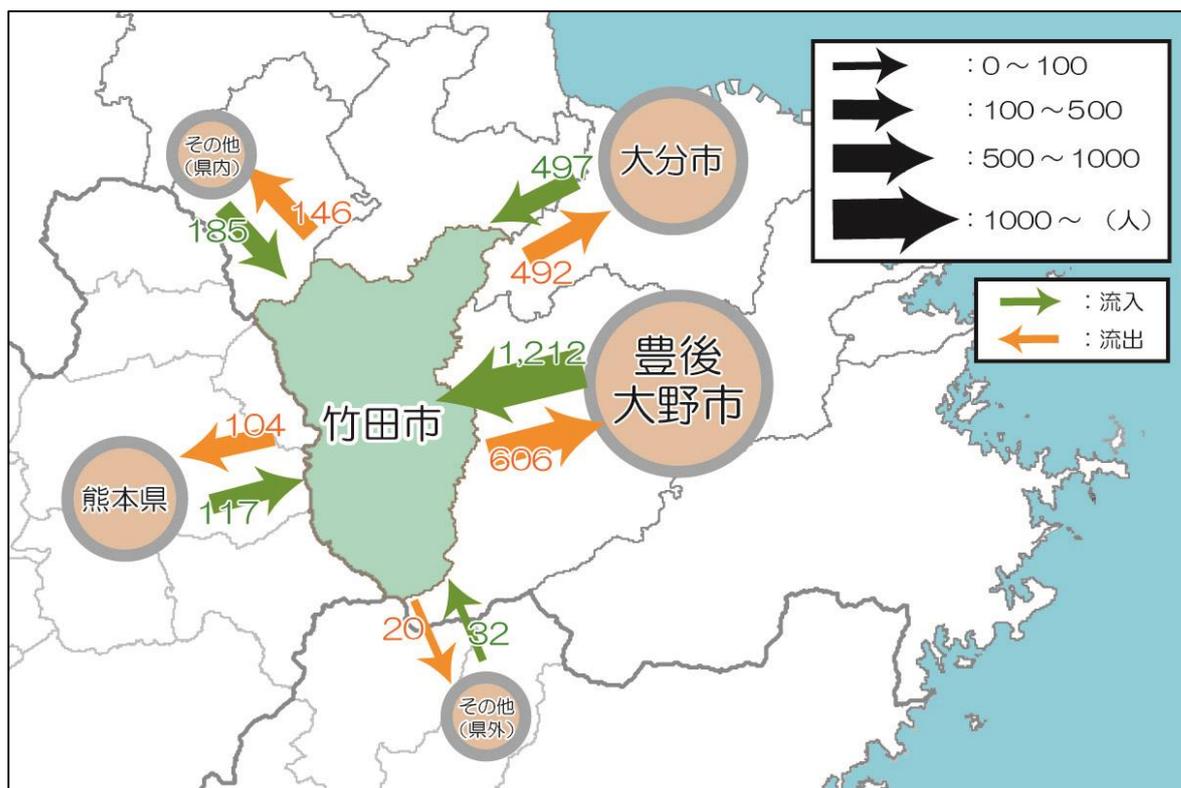
(資料：国勢調査)

■竹田市への常住地別就業者・通学者
(平成22年)

常住地		就業者・通学者数 (人)	割合
竹田市		11,831	85.3%
竹田市 市内	大分市	497	3.6%
	豊後大野市	1,212	8.7%
	その他	185	1.3%
竹田市 以外	熊本県	117	0.8%
	その他	32	0.2%
合計		13,874	100.0%

(資料：国勢調査)

■通勤・通学流動図 (平成22年)



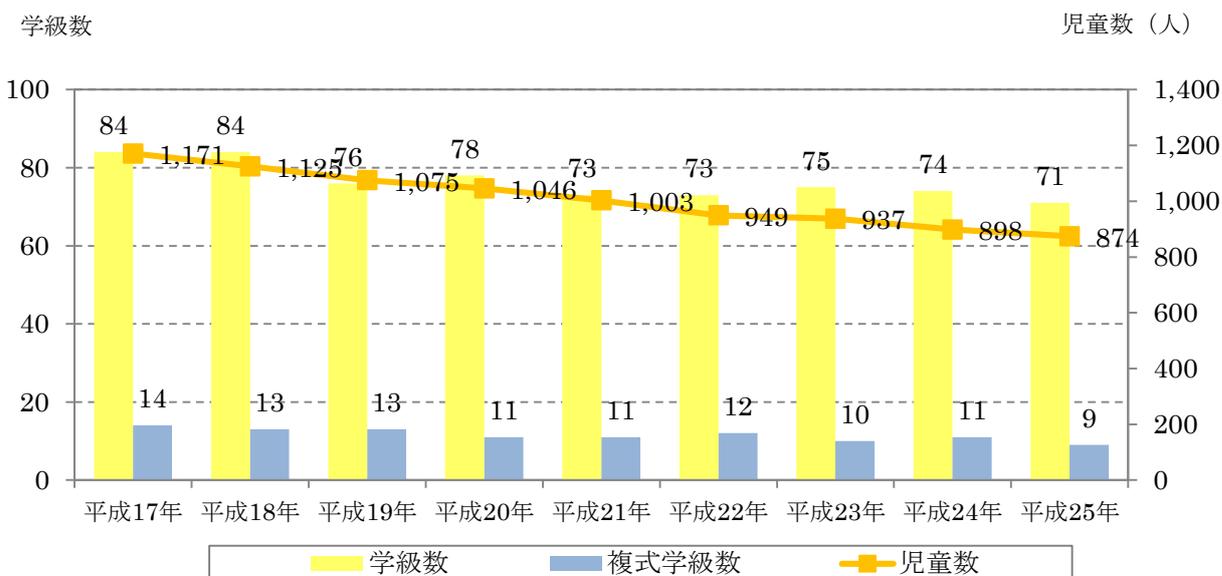
(資料：国勢調査)

(3) 児童数の推移

本市には、幼稚園が3校、小学校が13校、中学校が6校存在するが、少子化の影響を受けて、小学校児童数・学級数ともに過去5ヶ年で減少傾向にあり、特に過疎化の進む周辺部では、児童数が激減している。

中心市街地に近接する竹田小学校は、市内で2番目に児童数は多い。

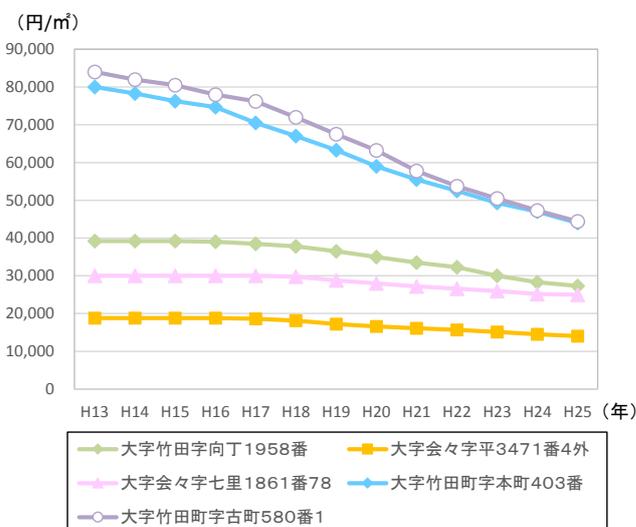
■ 児童・生徒数、学級数の推移



(資料：学校基本調査)

(4) 中心市街地の地価

中心市街地の地価は、全体的に下降しているが、中心部の商業地域ほどその下落率が高くなっている。その他の住宅地についても下落は続いているものの、中心市街地ほどの下落率は示していない。



(資料：公示地価)

2. 中心市街地の都市活動

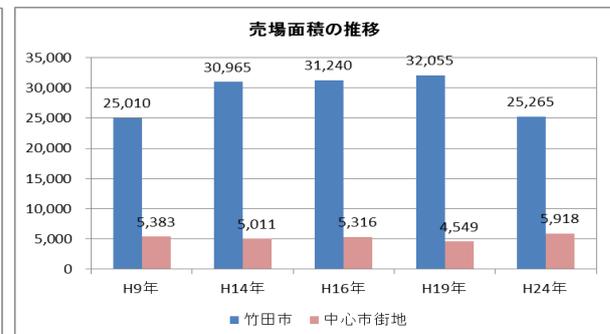
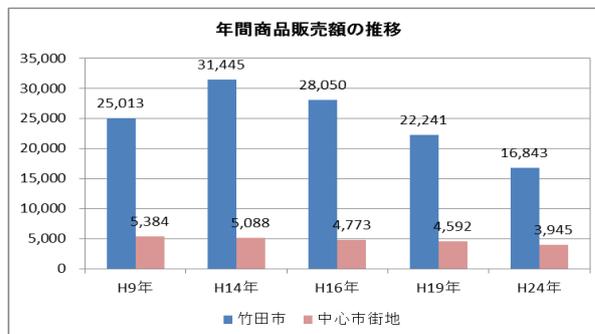
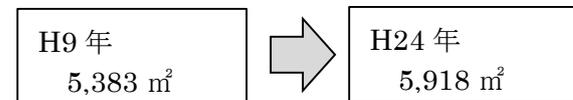
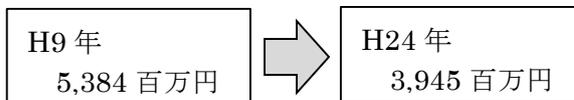
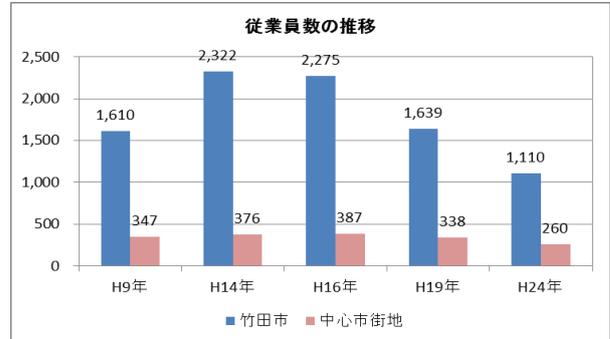
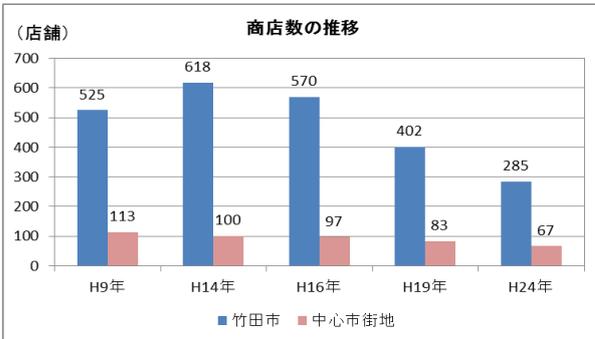
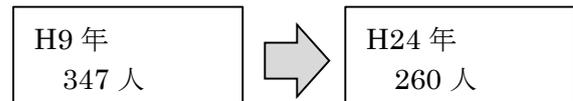
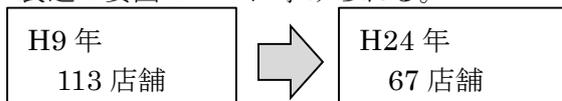
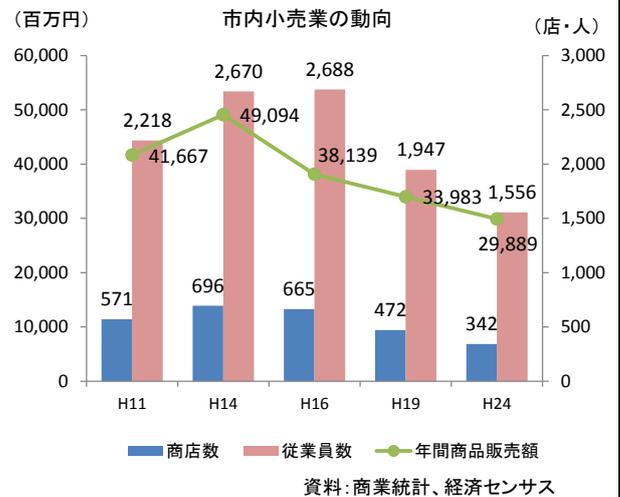
(1) 商業の推移

本市における小売業の推移をみると、年間販売額、商店数、従業員数はいずれも減少傾向にある。

中心市街地内の商店街の動向をみると、売場面積が微増しているものの、店舗数、従業員数、年間商品販売額は減少傾向にある。

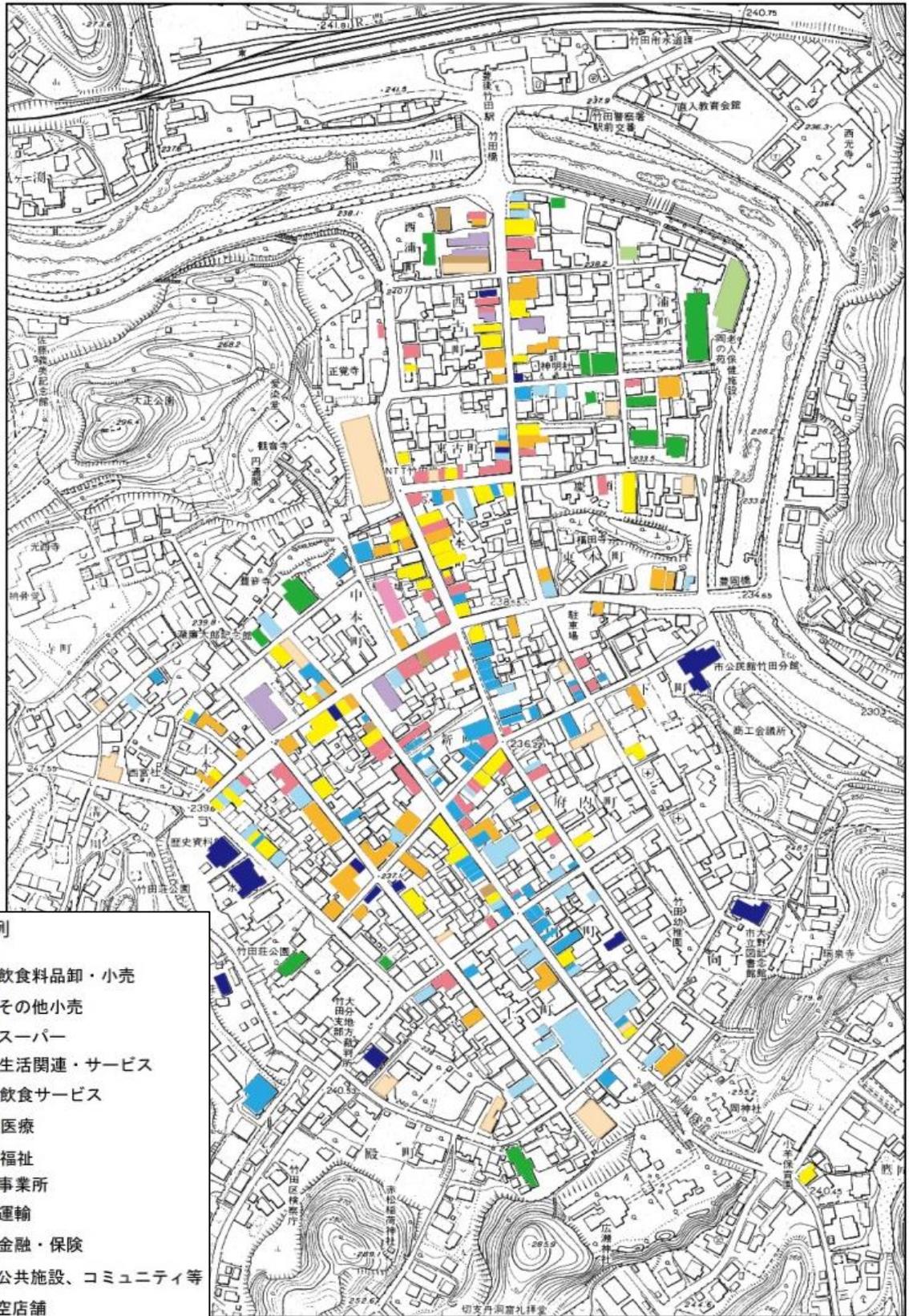
岡藩の城下町である竹田地区は、古くから商業機能が集積し、本市の商業や行政の中心として位置づけられてきた。しかし、沿道型商業施設が玉来・松本地区へ進出したことにより、商業機能は徐々に衰退している。

また、地区内の商業施設は、観光客に対応した飲食店が少なく、日曜に休む商店も多いなど、商業と観光を連結する動きが遅れており、観光地としての受入態勢が進んでいないことが商業衰退の要因の一つに挙げられる。



資料：商業統計、経済センサス

平成 26 年 9 月現在の中心市街地の店舗の状況

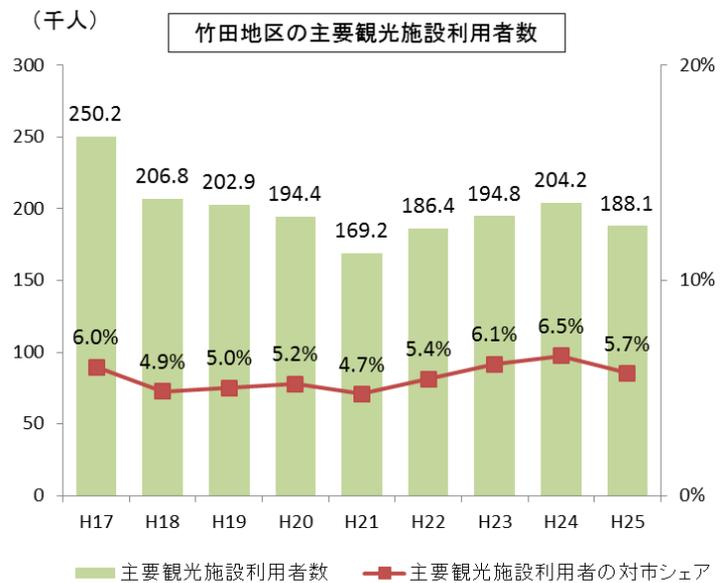


資料：魅力ある中心市街地活力創造事業化検討調

(2) 中心市街地の観光客

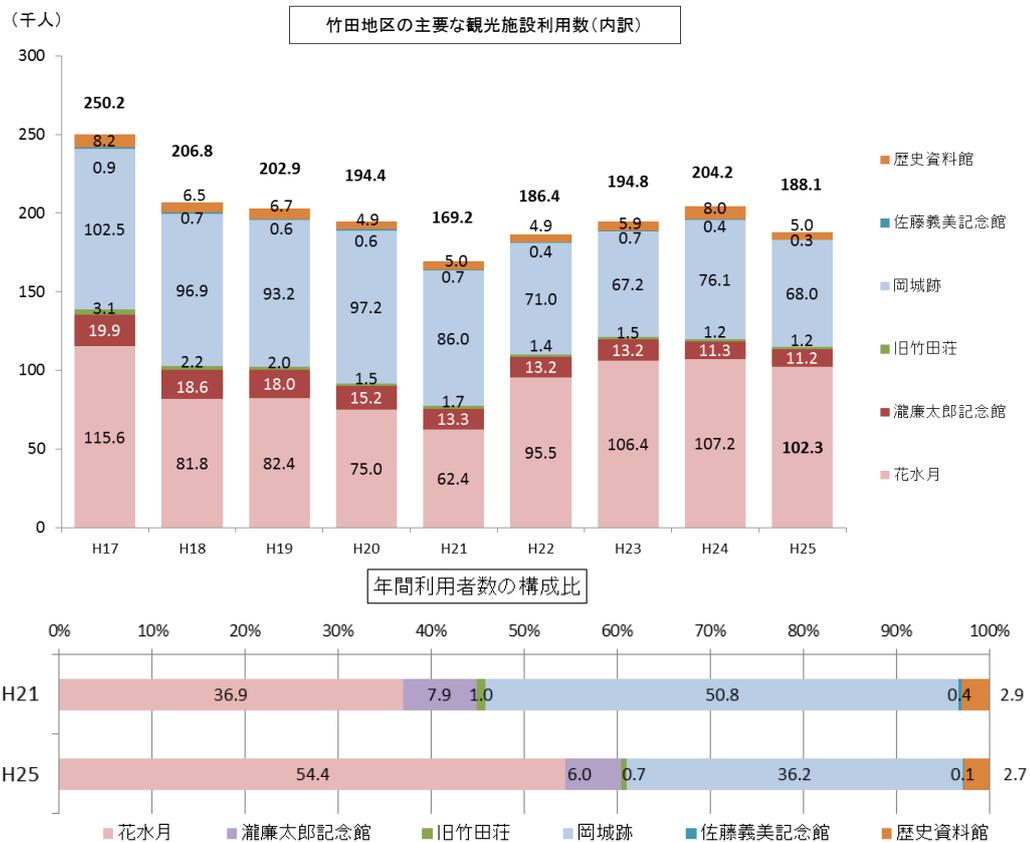
中心市街地周辺の主要観光施設利用者数の推移をみると、平成 21 年までは減少傾向にあったが、その後回復基調にあり、平成 25 年は前年から減少したものの、約 19 万人を持ち直した。

市全体の観光入込客数に対する竹田地区主要観光施設利用者の割合は、平成 18 年以降、5～6%前後で推移しているが、近年は市全体の観光入込客数が減少しているため、対市シェアは上昇傾向を示している。



資料：竹田市、大分県観光動向調査

中心市街地周辺の主な施設の内訳（平成 25 年現在）では、温泉・飲食施設を有する花水月が 102 千人で最も多く、全体の 54% を占め、次いで岡城跡 68 千人が続いている。構成比（H21－25）でみると、花水月が大きくシェアを伸ばす一方で、岡城跡のシェアが減少している。



資料：竹田市

3. 中心市街地の既存ストック

(1) 観光資源

○瀧廉太郎記念館

瀧廉太郎が12歳から14歳まで過ごした居宅である。一部を、記念館として彼の思いや交流を偲ぶ手紙や資料を公開している。



瀧廉太郎記念館

○旧竹田荘

わが国を代表する南画家・田能村竹田の旧居である。竹田は、写実性と高潔な風格を持つ南画（文人画）を確立した先駆者である。



旧竹田荘

○御客屋

江戸時代、岡藩への使者を迎え入れる際に使用した宿泊所だった屋敷である。伊能忠敬が豊後の測量に来藩した際にも訪れている。現在では枯山水の庭園を愛でながら食事ができる茶房として親しまれている。



御客屋

○佐藤義美記念館

竹田出身で、「いぬのおまわりさん」の作曲家として知られる童謡・童話作家の佐藤義美を顕彰する記念館である。彼が晩年過ごした神奈川県逗子の大正ロマン漂う建物を再現している。



佐藤義美記念館

○願成院本堂（愛染堂）

城下町竹田で現存する最も古い建物である。寛永 12（1635）年に二代藩主中川久盛により建立され、宝形造の三間堂で内部に柱を用いない独特の設計で春と秋に公開される。

本尊の愛染明王は恋愛成就の願掛けで有名である。



願成院本堂（愛染堂）

○切支丹洞窟礼拝堂（キリシタン洞窟礼拝堂）

武家屋敷のある殿町の谷あいに残された切支丹洞窟礼拝堂跡である。岩盤に掘り込んだ内部はドーム状の祭壇になっており、前面には5つの窓と屋根部分がくりぬかれていて洞窟礼拝堂を彷彿とさせる。その前に礼拝のスペースが木造であったものと思われる。隣には司祭が住んだとされる洞窟があり、戦国時代末期の岡城主志賀親次は熱心な切支丹だったため、竹田や朽網に多くの切支丹が住んでいたとされている。



キリシタン洞窟礼拝堂

○広瀬神社

日露戦争の旅順戦で戦死した軍人広瀬武夫は、幕末岡藩勤王の志士 広瀬重武の次男として竹田茶屋の辻で誕生。彼を顕彰するために昭和 10（1935）年に広瀬神社が建立された。



広瀬神社

○大蔵清水湯

国の登録有形文化財でもある大蔵清水湯を昭和 56（1981）年に廃業。空き店舗となった建物を平成 22 年に街なみ環境整備事業により「アトスペース&カフェ 大蔵清水湯」として改装。平成 23 年に「登録有形文化財」として指定されている。



大蔵清水湯

(2) 景観資源

竹田地区は、岡藩の城下町として約400年の歴史を持つが、明治10年の西南の役で多くの家屋を焼失した。このため、江戸期から続く町割の中に往時の歴史的建築物と西南の役以降に再建された家並みが混在して残っている。こうした町並みは、周囲の岩肌などと調和し、城下町の面影を現在も引き継いでいる。

これまで旧竹田荘、御客屋敷、瀧廉太郎旧宅、願成院本堂等の歴史的建造物の保存修理を実施している。これら歴史資源を結ぶため、カラー舗装や石畳等で美装化を図り、「歴史の道」散策ルートを整備している。



殿町武家屋敷通り



上町地区



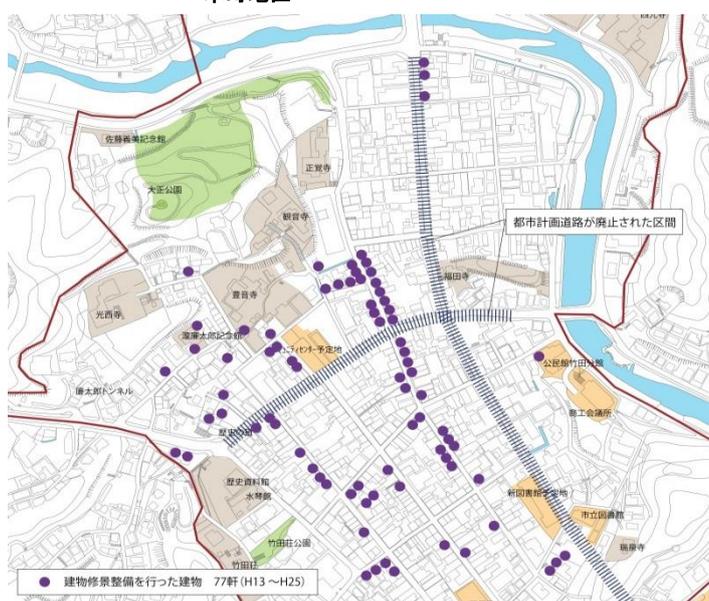
上本町地区



本町地区

中心市街地内では歴史的まちなみ景観形成事業として修景整備を実施しており、平成13年～25年にかけて77件の整備を行い、77件のうち、登録有形文化財は15件ある。

これまで都市計画道路が指定されている区間は、見直し廃止によって建物修景整備が実施可能となっており、実施希望者も多い。



(3) 文化・催し

○たけた竹灯籠 竹楽

竹田市には、日本古来より存在するマタケ・ハチクと、中国から 350 年前に日本に導入されたモウソウチク等の竹資源が豊富に自生している。近年、竹の需要は激減し、それに連れ竹林の荒廃も加速度的に進んでいる。

竹田市観光協会(当時)ではこの現状を改善し、併せて観光浮揚策の一環として2000年より竹灯籠による町並みのライトアップを企画した。元来竹田市は岡藩7万石の城下町として栄え、市街地には武家屋敷や古刹が点在し、情緒在る風景を今に伝えている。



○昨年度開催実績：平成25年11月15日(金)～平成25年11月16日(日)

：3日間来場者数合計 104,000人

【たけた竹灯籠 竹楽における部会別活動内容(平成25年度実績)】

■事業部会

竹切り作業 燻煙用 1月26日(土) 50人

青竹用 10月12日(土) 70人

竹カット作業

10月6日(日)～11月3日(日) 延べ参加人数 215名

竹楽後 青竹 茨木市 3,000本、安曇野市 5,000本、燻煙竹(レンタル)芸短大 1,200本(返却済)

第15回燻煙用竹切り作業 2月2日(日)8時30分～ 円形分水

■企画エリア部会

◆広報宣伝

事前チラシ 20,000枚

ポスター 大・小 800枚

当日マップ 20,000枚

ケーブルテレビ・ラジオ、民放テレビ出演

無料紙媒体における竹楽告知

竹楽新聞10・11月号(全戸配布)で市民に告知

大都市圏の郵便局にポスター掲出

ネットによる告知

竹田市竹楽公式HP、タケタン、フェイスブック

◆その他の活動

竹田小学校・豊岡小学校出前授業

福岡大学での講演

◆当日の活動

オープニングセレモニー企画

竹田小5年生、豊岡小5年生、新婚カップルによる点火式

街角コンサートの企画

会場：豊音寺特設ステージ・創生館・瀧廉太郎記念館・府内町

◆竹楽まちあるきナビステーションの開設

無料休憩所・竹楽案内所

■ネットワーク部会

◆屋台村の開設

ネットワーク部会 9月30日

屋台村・地産地消屋台村出店者会議 10月10日

ネットワーク部会 10月30日

屋台村準備 11月14日 14時～

片付け 11月17日 21時30分～

片付け 11月18日 9時～

◆屋台村出店者数 12店舗・豊後まつり組合

◆地産地消屋台村出店者数 8店舗

○岡城桜まつり

『日本さくら名所100選』に選定されている岡城址では、毎年4月上旬、雅な大名行列が行き交う「岡城桜まつり」が行われる。



○暖暖竹田～竹ほたるであつたまろう

竹のオブジェに灯りを点した「竹ほたる」を通じて、400年以上も前より先人たちが築いてきた街並みや物事、心粋をはじめ時が繋いできたご縁に感謝し、暖をとってもらいながら商店街で楽しく過ごしてもらおうものである。



○中心市街地におけるイベント等

■平成 25 年度実績

月	イベント・行事名称	対象者	主催者等	新規 継続	備考
平成 25年 4月	第 65 回岡城桜まつり	市民・観光者	岡城桜まつり 実行委員会 (竹田市・竹 田商工会議 所・竹田ツー リズム協会 等)	継続	
5月	竹田移住サポート城下町交流館 「集」開設	竹田移住者	竹田市	新規	H25年度 利用者数 1,063人
	神明社「寿司振舞い」	市民・観光者	中心市街地地 元住民	継続	伝統行事
	商店街振興イベント「八幡山縁日 楽市楽座」	市民・観光者	竹田町商店街 振興組合	継続	隔月開催
6月	第 14 回「田能村竹田」生誕記念の日	市民	田能村竹田顕 彰会	継続	
	ブルーフェニックスコンサート in 竹田温泉「花水月」	市民・観光者	ブルーフェニ ックス	継続	
7月	竹田夏越祭	市民・観光客	中心市街地地 元住民	継続	伝統行事
	商店街振興イベント「八幡山縁日 楽市楽座」	市民・観光者	竹田町商店街 振興組合	継続	隔月開催
8月	七夕子ども夜市	市民・観光者	竹田町商店街 振興組合	継続	
	精霊流し	市民・観光者	まちづくり実 行委員会（商 工会議所、竹 田町商店街振 興組合等）	継続	
	瀧廉太郎生誕 134 年祭	市民	瀧廉太郎の歌 をうたう会	継続	
	西ノ宮社八朔祭	市民・観光者	中心市街地地 元住民	継続	伝統行事
9月	善神王祭	市民・観光者	中心市街地地 元住民	継続	伝統行事
	第 30 回竹田薪能	市民・観光客	竹田薪能実行 委員会（竹田 喜多流・竹田 市等）	継続	動員者数 1,000人
	商店街振興イベント「八幡山縁日 楽市楽座」	市民・観光者	竹田町商店街 振興組合	継続	隔月開催

資料：庁内資料

月	イベント・行事名称	対象者	主催者等	新規 継続	備考
10月	第3回竹田アートカルチャー「たけたふらく」	市民・観光者	アートカルチャー実行委員会	継続	
	竹田本町通交通社会実験開始	市民・来訪者	竹田市	新規	歩道部拡幅
	神明社「お稲荷さんが舞い込んだ」	市民	中心市街地地元住民	継続	伝統行事
11月	田能村竹田 179 年祭	市民・観光者	田能村竹田顕彰会	継続	
	商店街振興イベント「八幡山縁日 楽市楽座」	市民・観光者	竹田町商店街振興組合	継続	隔月開催
	第14回たけた竹灯籠・「竹楽（ちくらく）」	市民・観光者	竹楽実行委員会（NPO、竹田市等）	継続	動員者数 104千人 (3日間)
12月	暖暖竹田～竹ほたるであったまろう（12月7日～1月26日）	市民・観光者	まちづくり実行委員会（商工会議所、竹田町商店街振興組合等）	継続	
平成26年1月					
	商店街振興イベント「八幡山縁日 楽市楽座」	市民・観光者	竹田町商店街振興組合	継続	隔月開催
2月	第16回岡藩城下町雛まつり（2月7日～3月9日）	市民・観光者	岡藩城下町雛まつり実行委員会（竹田ツーリズム協会・竹田市・竹田商工会議所等）	継続	
3月					
	商店街振興イベント「八幡山縁日 楽市楽座」	市民・観光者	竹田町商店街振興組合	継続	隔月開催

資料：庁内資料

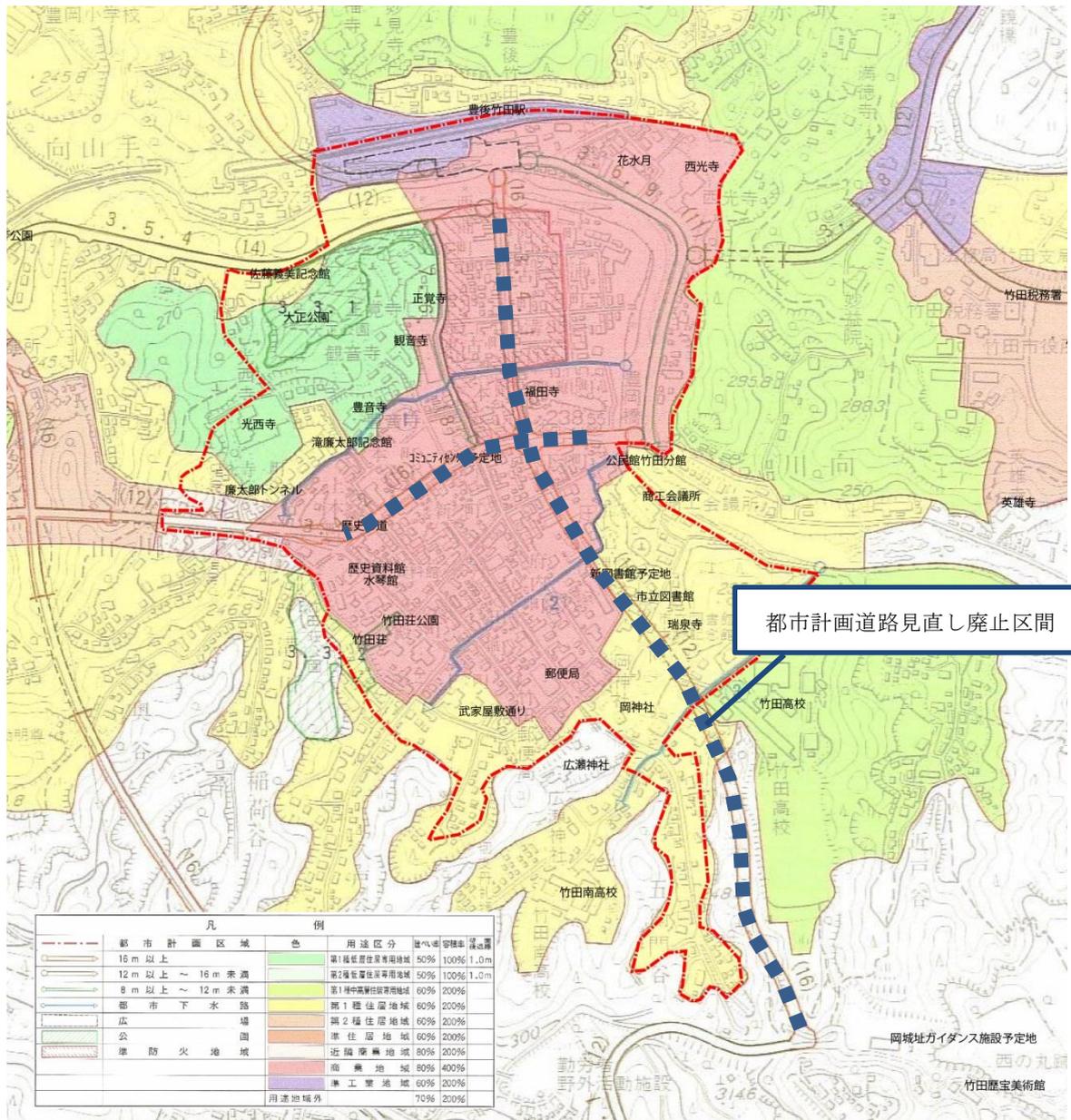
4. 中心市街地の市街地現況

(1) 都市計画

中心市街地は、JR 豊後竹田駅の駅前に広がる商業地域をすべて含み、岡城跡入口及び大正公園を含むエリアに設定されている。

商業地域内には、小規模な建物が密集して建ち並び、多くの店舗が立地しており、JR 豊後竹田駅に近い古町、本町においては準防火地域が指定されている。

平成 25 年には、都市計画マスタープランに掲げる「歩いてふれあいを感じる道路整備」という重点プロジェクトの実現し、歴史・情感あふれる城下町の「町割り」を保全するため、都市計画道路竹田玉来線の起点の変更及び登城線の一部区間の見直し廃止を行っている。



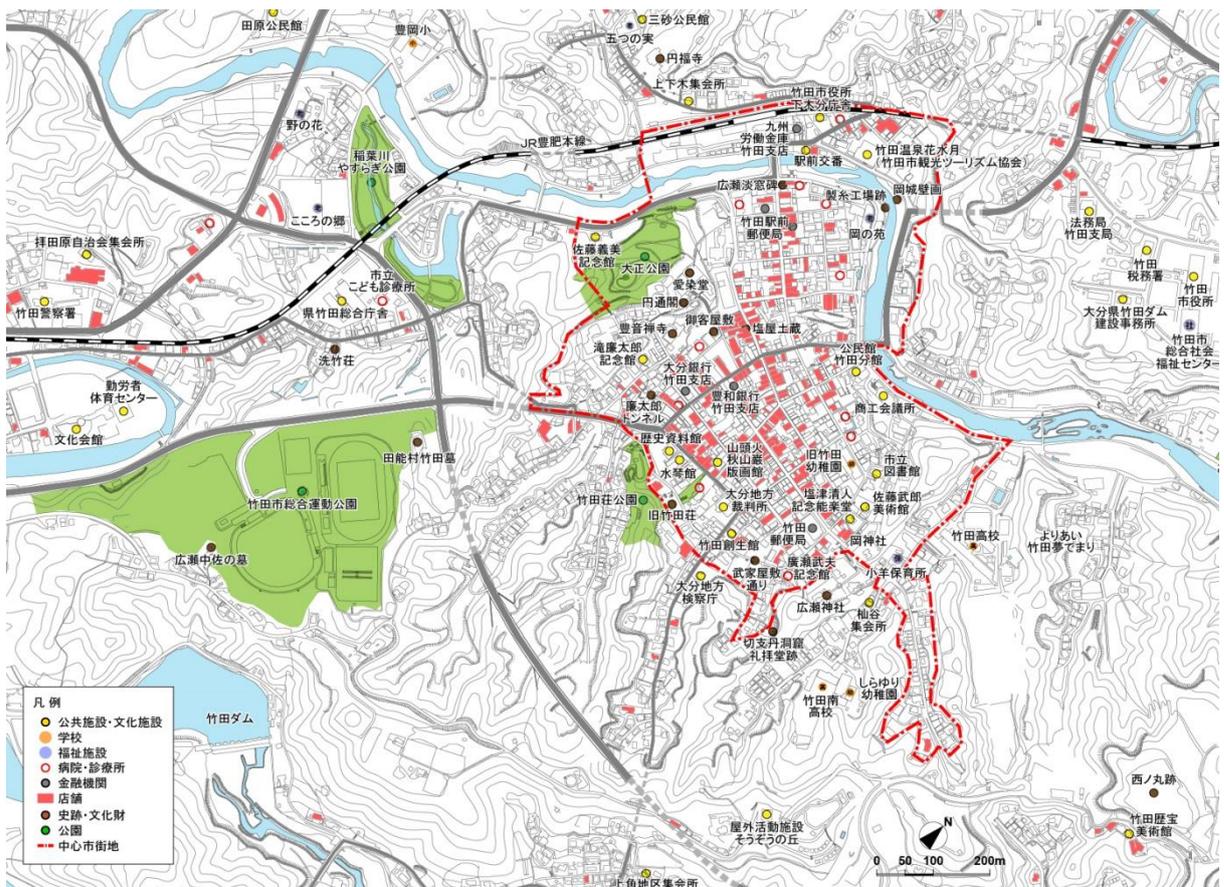
(2) 公共施設の分布状況

中心市街地には、瀧廉太郎をはじめとする著名人や城下町としての歴史を物語る資料などを貯蔵する歴史的・文化的な施設が多く立地する。

行政施設や都市施設も集中して立地しており、本中心市街地は半径 500mの徒歩圏域に、生活に必要な施設の大半が集積している。

■ 中心市街地内の主な施設数

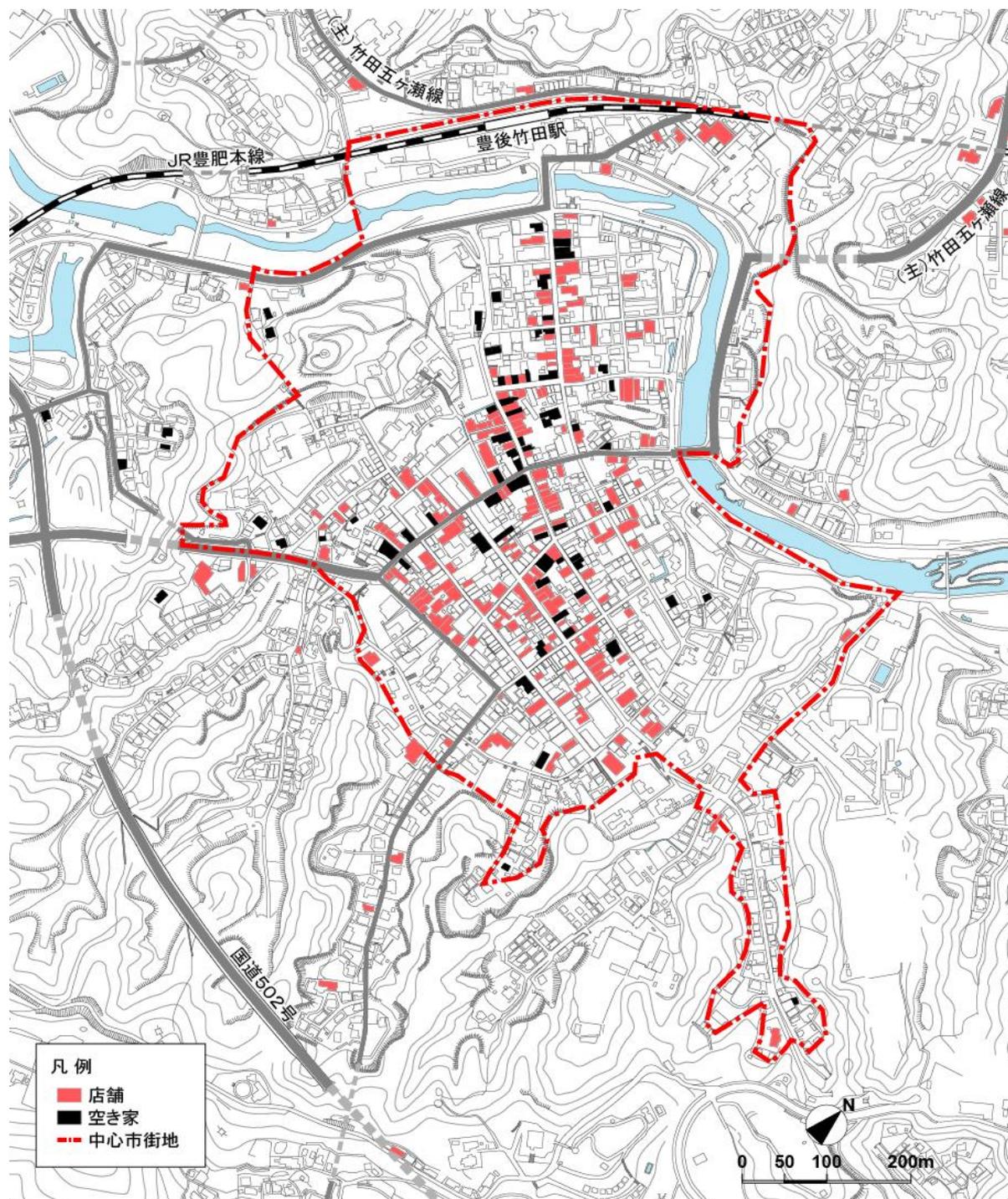
種 別	件数
公共施設・文化施設	15 件
学校	1 件
福祉施設	2 件
病院・診療所	10 件
金融機関	6 件
史跡・文化財	10 件



(3) 空き店舗

中心市街地の商業施設は、空き店舗が約3割を占め、年々その割合は増加しており、商業地としての吸引力を失いつつある。

特に JR 豊後竹田駅から中心部にかけての物販小売店が多く建ち並ぶエリアでは、空き店舗の割合が高い。

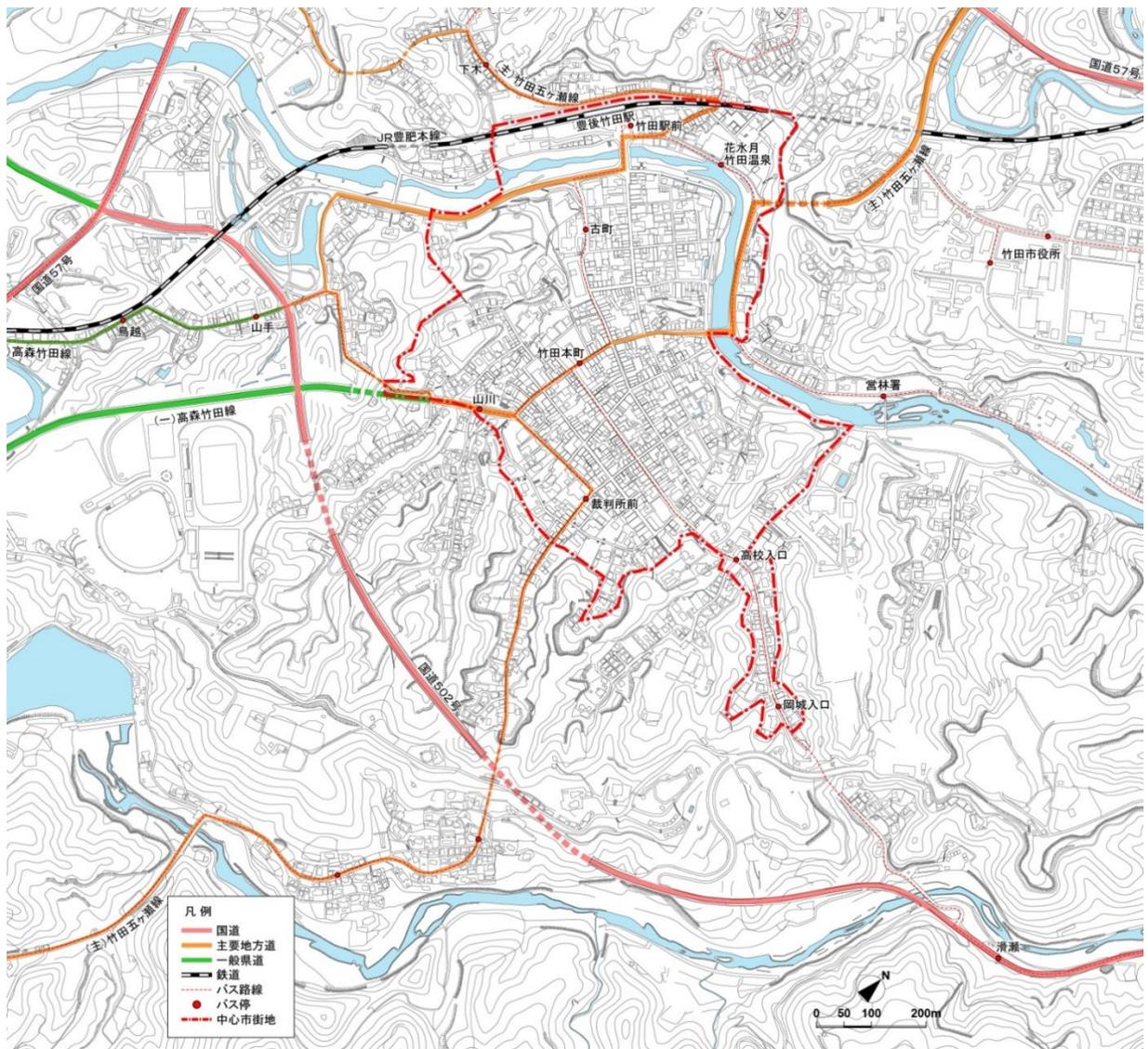


(4) 交通アクセス

竹田市の中心市街地は、周囲を国道で囲われており、広域幹線道路へのアクセス性は高いが、中心市街地が山に囲まれた盆地となっているため、各国道からは市街地を視覚的に確認することはできない。

中心市街地内の道路は、城下町時代の町割りがそのまま残っており、十分な幅員のある幹線道路はないが、各方面からのアクセス性は良好であるため、歴史的な街並みを壊してまで幹線道路を整備しなければならない交通上の問題は発生していない。

JR 豊後竹田駅の運行本数は、特急列車が上下線ともに1日あたり4本、普通列車が大分方面に18本、熊本方面に5本と少ない。



(5) 歩行者通行量

本調査は、竹田本町通り社会実験において、実施前後の交通量調査を行ったものである。

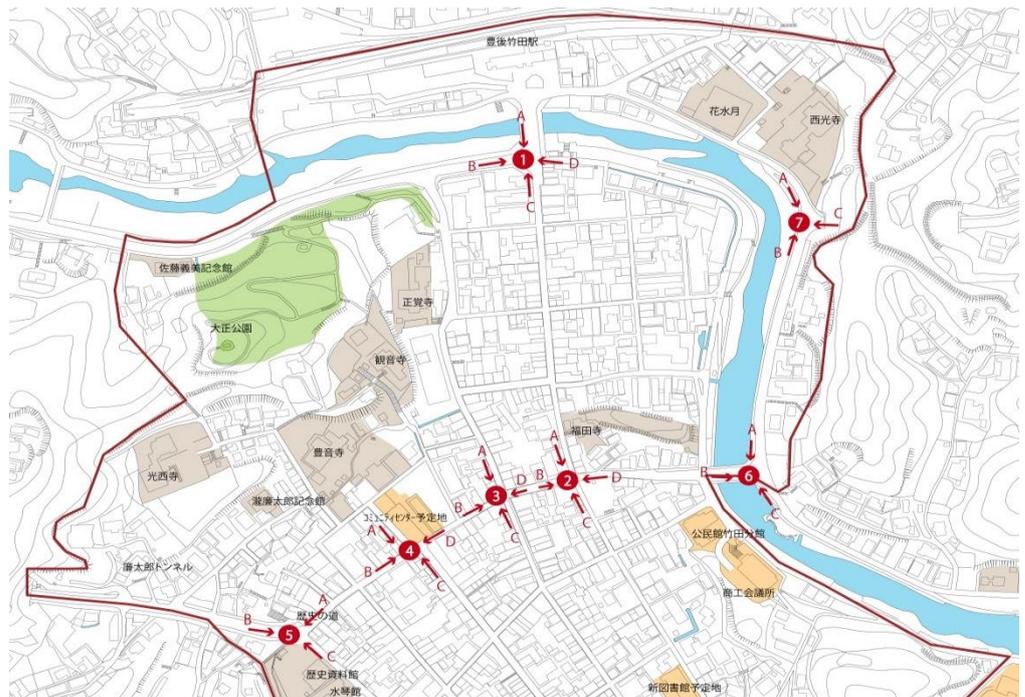
平日と休日の歩行者量を比べると、大部分の交差点で、休日に比べ、平日の歩行者量が多い。これは、休日に商店が閉店しているなどの影響もあると考えられる。

平日 12 時間歩行者通行量の変化をみると、施行前（9 月）より施行後（10 月）が、3 割程度増加している。休日 12 時間歩行者通行量は、1 割程度増加しており、歩行空間の確保が歩行者通行量の増加に繋がっていることがうかがえる。

■調査地点別歩行者通行量（平日、休日）

調査箇所	方向	平日				休日			
		9月10日(火)		10月22日(火)		9月15日(日)		10月20日(日)	
		方向別歩行者数	交差点歩行者量	方向別歩行者数	交差点歩行者量	方向別歩行者数	交差点歩行者量	方向別歩行者数	交差点歩行者量
①	A	362	728	413	811	205	455	246	526
	B	59		69		56		53	
	C	207		226		149		188	
	D	100		103		45		39	
②	A	207	452	223	505	93	277	119	367
	B	99		115		93		118	
	C	104		44		26		33	
	D	42		123		65		97	
③	A	115	663	132	777	75	552	103	580
	B	235		272		204		199	
	C	150		195		142		108	
	D	163		178		131		170	
④	A	193	350	92	656	140	454	185	590
	B	76		373		70		149	
	C	43		113		132		152	
	D	38		78		112		104	
⑤	A	65	142	28	200	109	178	55	170
	B	51		64		31		54	
	C	26		108		38		61	
⑥	A	115	248	128	295	23	98	55	158
	B	105		127		50		72	
	C	28		40		25		31	
	D	28		28		25		31	
⑦	A	180	368	104	243	47	105	77	146
	B	71		19		33		19	
	C	117		120		25		50	
合計		2,951		3,487		2,119		2,537	
平均			3,219				2,328		

■調査地点位置図



【3】地域住民のニーズ等の把握・分析

中心市街地のまちづくりに対する機運の醸成、意識の向上を図るきっかけにするとともに、「中心市街地活性化基本計画」策定等に係る将来構想の素材収集のため、竹田地区自治会や商業関係団体等を対象としたまちづくり意見交換会を展開、また、まちづくりに関する市民アンケートを実施した。

1. 市民ニーズ把握のためのアンケート

市民アンケート実施にあたっては、市内在住の20歳以上の市民から、無作為に抽出した1,000人を対象にアンケート調査を実施した。

アンケートは、Ⅰ回答者属性（性別・年代・居住地等）、Ⅱ中心市街地の利用目的や機能、Ⅲ中心市街地の将来像、Ⅳ新図書館の建設、Ⅴ文化会館の復興、Ⅵニュータウン構想と住宅施策、Ⅶ歴史的遺産を活用したまちづくり、など7つの項目にわたって42問からなる設問で構成している。

一般の市民に対するアンケートに加え、将来のまちづくりの担い手となる市内高校の在校生に対し同様のアンケートを実施した。

結果概要については、各項目でメインとなる設問を抜粋したものである。

〔アンケート回答者合計〕

項目	種別	人数
市民意向	市民	422人

項目	種別	人数
参考意見	高校生	411人

①まちづくり市民アンケート調査実施概要

- 実施期間：平成 25 年 9 月 1 日（日）～平成 25 年 9 月 20 日（金）
- 対象者：市内に居住されている方から 1,000 人を無作為に抽出
- 回収率：42.2%（回答者 422 人）うちインターネットによる回答 8 人

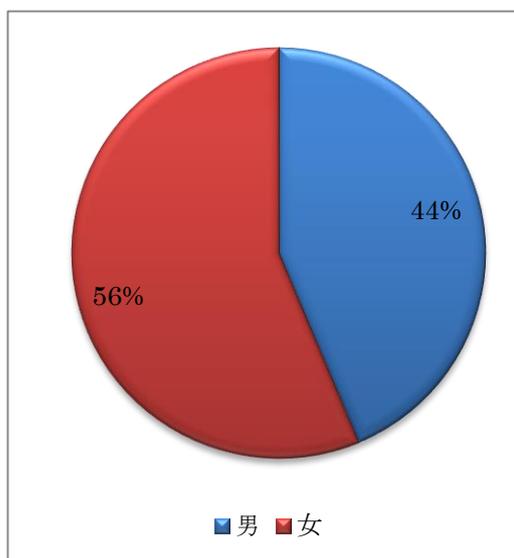
I 回答者の属性について

アンケート発送数 1,000 通に対し、422 人が回答し、回収率は 42.2%となった。回答者の男女別比率は、表①のとおりである。回答率 42.2%の割合は男性が 39%、女性が 44%で、これも女性の方が高率となっている。

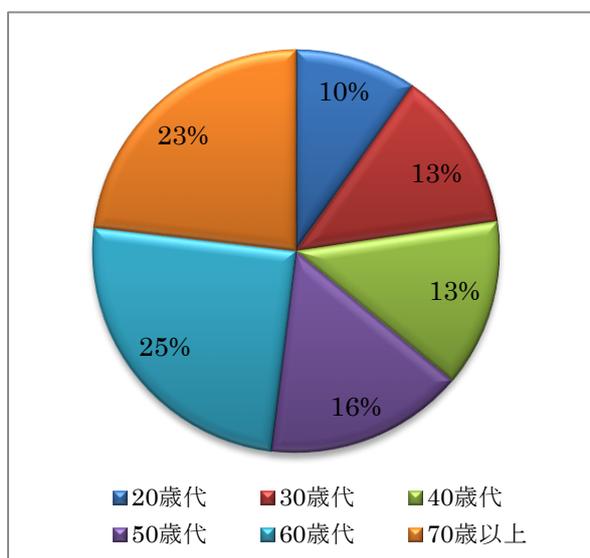
年齢別の回答数は、表②のように高年齢層が多くなっている。各年代の人口に応じてアンケートを送付すると、50 歳以上の対象者が全体の 60%以上を占めることとなるため、今回は将来のまちづくりについてのアンケートという立場から、各年代とも均等割（同数）で調査を実施した。

その結果、年代別の回答率をみると、20 代が 24%、30 代が 33%、40 代が 33%、50 代が 40%、60 代が 59%、70 歳以上が 55%となっており、高年齢層ほどまちづくりに対しての関心が高いという傾向が窺える。年代別の人口割合でアンケートを送付した場合、回収率はおそらく 50%を超えるものと予測される。

表①：男女別



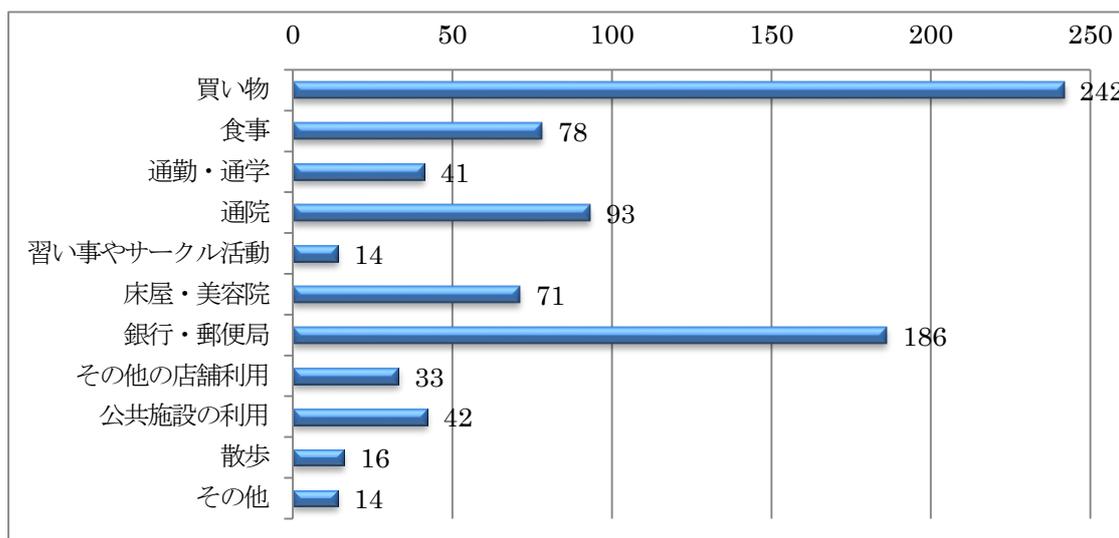
表②：年齢別



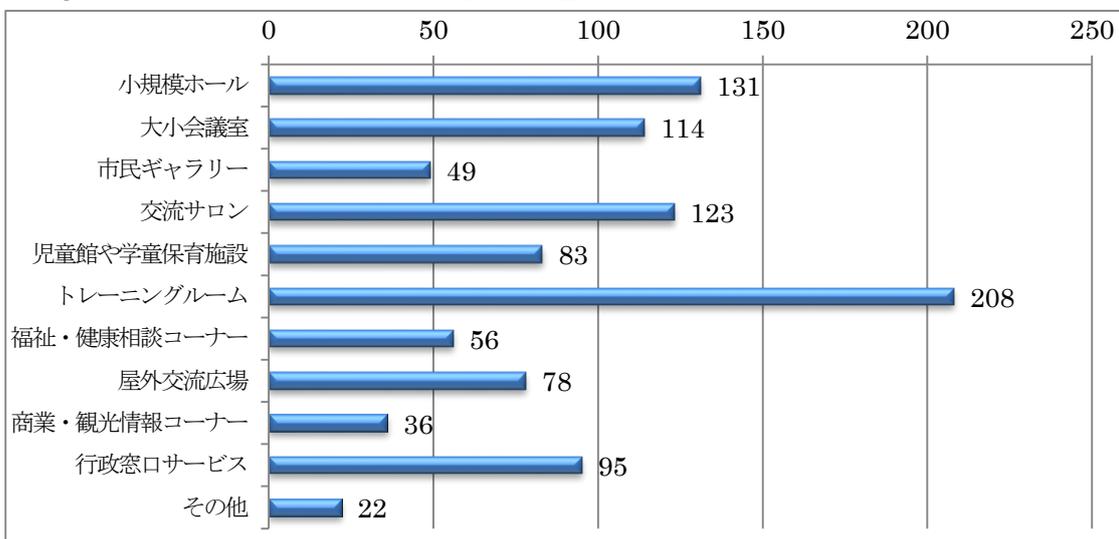
Ⅱ 中心市街地の利用目的や機能

中心市街地の現状把握を行うため、中心市街地の利用頻度や目的（表③）、中心市街地に不足している機能、また、建設が計画されているコミュニティセンターに必要な機能（表④）についての設問である。次の項目「中心市街地の将来像」に見る表⑦とともに、設問の回答の中で象徴されるのは、中心市街地における商業店舗の充実と駐車場の整備である。

表③：中心市街地の利用目的（複数選択）



表④：コミュニティセンターの機能（複数選択）



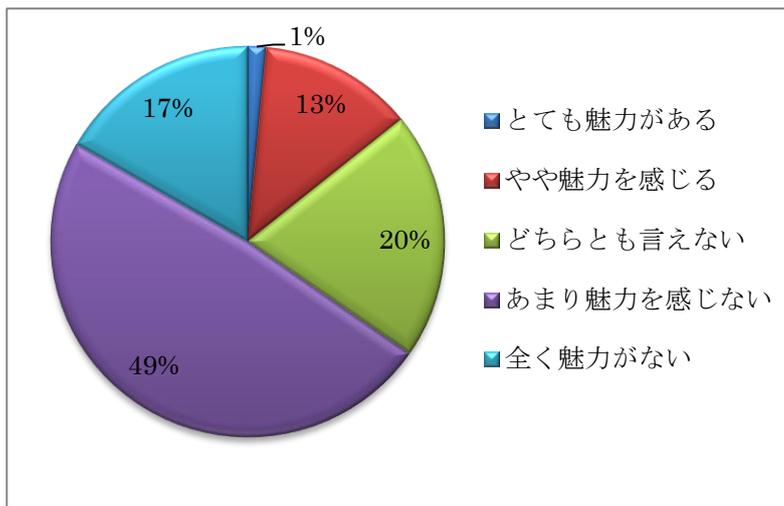
Ⅲ 中心市街地の将来像

将来の中心市街地の在るべき姿を探るため、中心市街地に必要な魅力についての設問である。

城下町再生に係る中心市街地のまちづくりの方向性については、これを示唆する回答が得られた。現状の中心市街地の魅力については、65%の方が魅力に欠けると回答している。

一方、今後のまちづくりについては、竹田城下町が他の地方都市にはない歴史的風情や情緒を有していることから、これらの財産を活かすことへの期待が窺えるものとなっている。

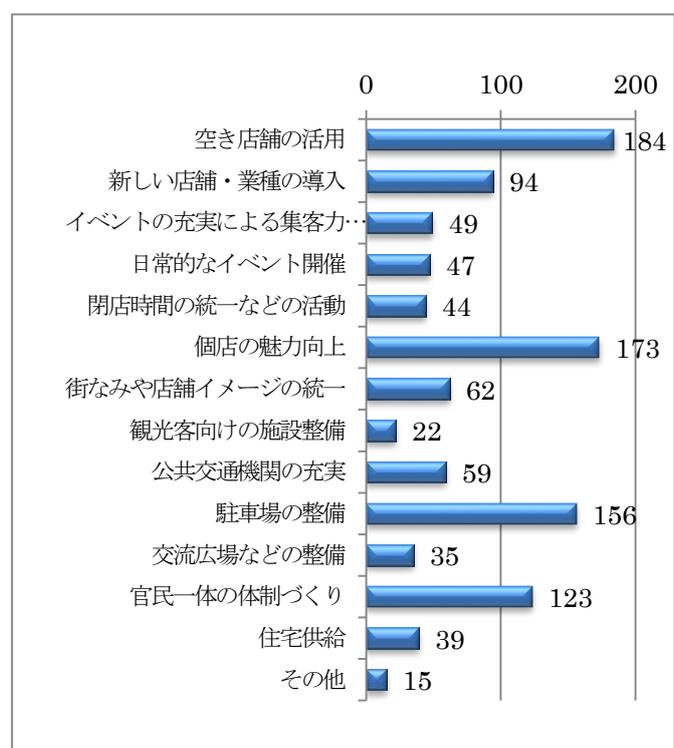
表⑤：中心市街地の魅力



表⑥：中心市街地を活かすべき魅力（複数選択）



表⑦：中心市街地に必要な取り組み（複数選択）

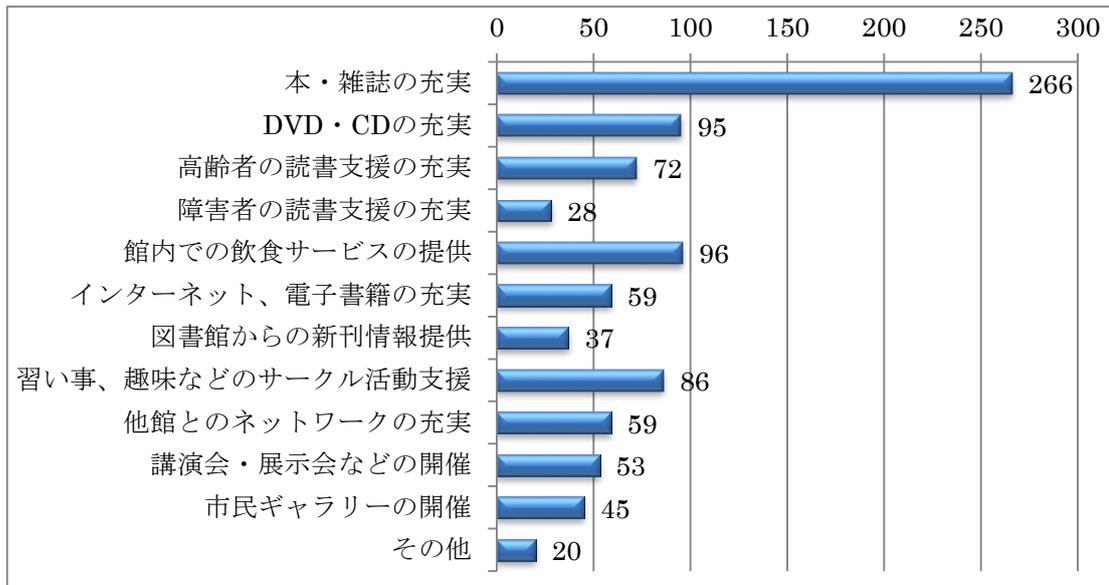


IV 新図書館の建設

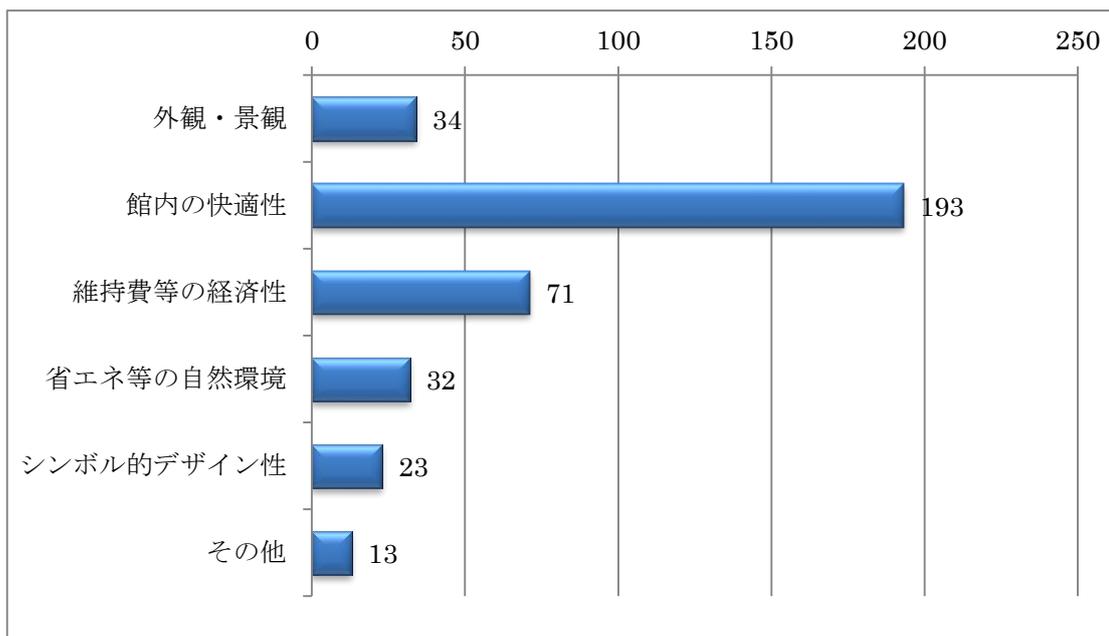
平成 27 年着工を目標に計画されている、新図書館の建設についての設問である。

図書館建設は、これまで 30 年にわたって検討されてきた積年の課題であり、多くの市民から望まれてきた事業である。回答傾向では、やはり現在の図書館が手狭で老朽化していることから、書籍の充実と館内の快適性が特化した結果となっている。

表⑧：図書館の充実（複数選択）



表⑨：図書館に重要視するもの

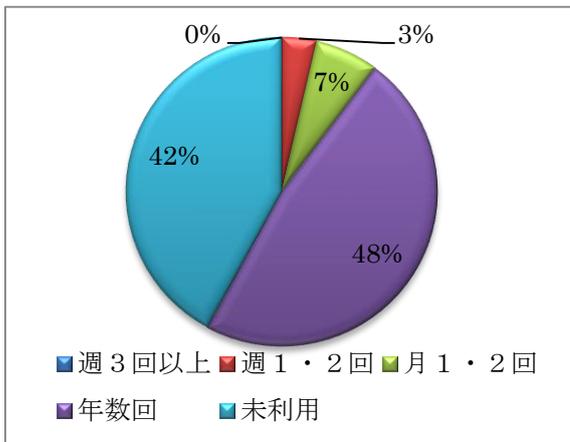


V 文化会館の復興

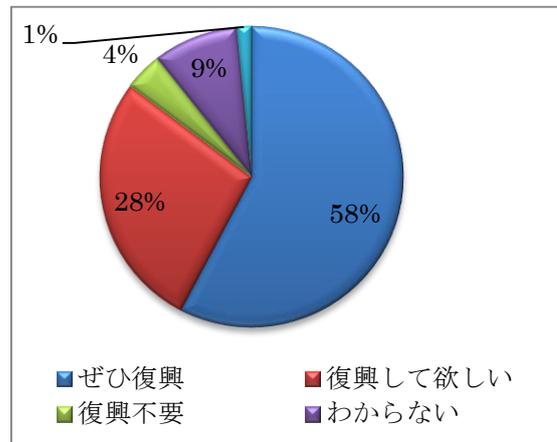
平成 24 年 7 月 12 日の九州北部豪雨により、竹田市文化会館及び中央公民館は甚大な被害を受けた。それ以来文化会館等は閉鎖され、市の文化行事は萩・久住・直入地域等施設を利用している。この現状について何うとともに、文化会館等の復興建設についての意見を求めた。

特徴的な回答としては、下表に見られるように復興を望む回答が全体の 85%を占め、文化拠点の必要性が窺える結果となった。しかしながら、文化会館等をほとんど利用していないとの回答が 42%もあり、今後、文化会館等を復興建設した時の施設利用、活用に課題を投げかけるものとなっており、市民が使いやすい運営が望まれていることが窺える。

表⑩：文化会館等の利用頻度



表⑪：文化会館等の復興建設

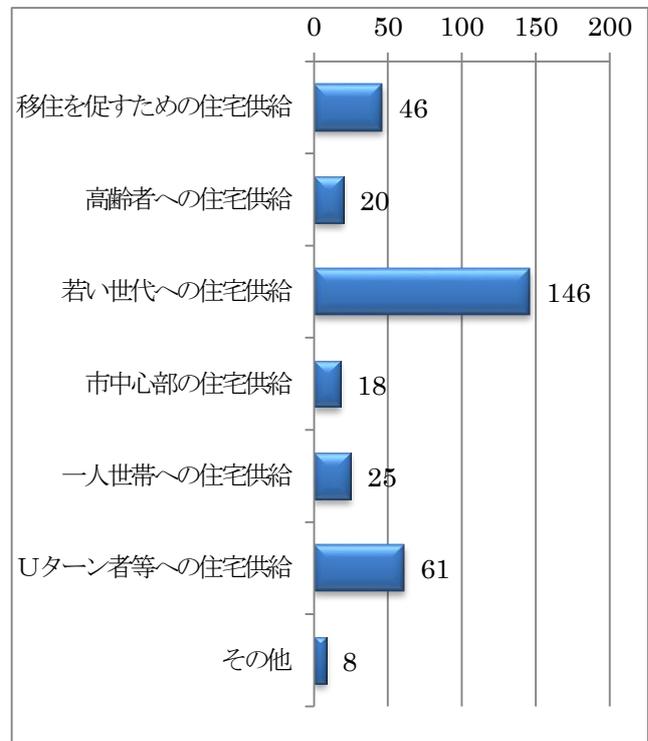


VI ニュータウン構想と住宅施策

平成 30 年に地域高規格道路が竹田インターチェンジまで開通する予定となっている。これに伴い、竹田市から大分市までの所要時間が 30 分～40 分に短縮され、大分市への通勤も可能になる。そこで、自然あふれる環境の中で竹田らしい住宅地の開発を行い、市外からの移住定住者の誘導を図りたいと構想を描いている。

そのため、定住促進に取り組んでいく上で、どのような住宅施策が望まれるかを設問とした。回答は表⑫のとおり、市外者の若い世代の移住定住を図り、また、市内者の若い世代の既住定住を図るという両立の回答傾向となった。

表⑫：定住促進の取り組み

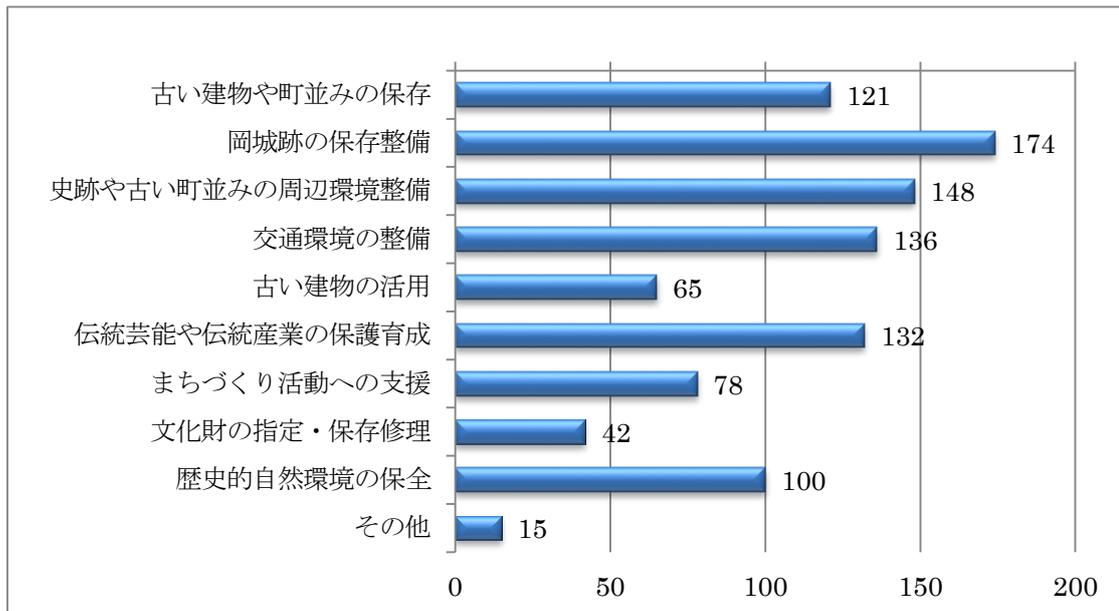


Ⅶ 歴史的遺産の活用

竹田市は城下町を筆頭に、市全域に歴史的文化遺産が点在している。こうした遺産を活用し、また、後世にしっかりと継承していくため、現在「歴史的風致維持向上計画」の策定を目指している。

こうした財産をまちづくりに活かすため、今後展開すべき取り組みについての設問である。結果は、下表のとおり、史跡の保全や城下町再生への取り組みを推奨する意見が多数を占めた。

表⑬：歴史的遺産を活かしたまちづくり（複数選択）



■ 中心市街地に対する自由意見（抜粋）

- ・シャッター通りで商店街とは言えません。日曜日に月 1～2 度は商店は休んでいる。ありえない事では？
- ・玉来方面に店がたくさん出来、竹田の町中は日曜日はシャッターが閉まり、人通りも少ない。
- ・土曜日、日曜日に雨の日に竹田市内で子どもを連れて行く施設がない。住居もアパートも少なく、土地も（宅地）分譲地も少ない。このままでは、隣の市に出てしまいます。
- ・観光客用の食事場所がない。観光客をのがさないように食事、宿泊場所を考えて欲しい。ただ常時、観光客が多数いるわけではないので経営として成り立つために竹田市民もそこを利用するようにすることが必要。今ある食事処にその役割を担ってほしい。例えば駅付近に。花水月、田町には喜多屋があるが、その役割を果たしていない。数年前豆腐田楽を打ち上げたことがあったが立ち切れである。“宇佐からあげ”“別府冷めん”等があるように竹田にそれを食べに行くというようになったら良いと思う。そのために、駅前や街中に“竹田でんがく”等の目立つのぼりをたて、“竹田の水、大豆を使った豆腐”と PR するようにしてはどうか。
- ・竹田は四季折々の景色がとてもきれいで大好きです。が竹田の駅前が寂しすぎます。観光客が竹田に降りても何もないと言う声を聞きます。駅前商店街の入り口に二階の窓から

景色（四方）が眺められるようなすてきな喫茶店があれば、そこから市内を歩いて見たいと言う思いになるのでは？もちろん市民もバス、汽車で中心街を散策してみたくないと
思います。

- ・市内一日乗り放題バス（500 円位）で因に、竹田駅前→花水月－市立図書館－岡城跡－総合グラウンド下－玉来－文化会館－水琴館（歴史資料館）－本町－竹田駅等？古いも若きもウォーキングが流行っています。それを助けて下さるのが循環バスだと思います。それにより市内に又各施設に行くことが出来、楽しい生活を延いては中心市街地に人の流れが出来ると思います。
- ・もしもトレーニングルームを作ることがあれば、それと併設して卓球室など利用料金（1時間いくらかとか）を払って、気軽にスポーツできる施設を作って欲しい。サークルなどに所属しなくても利用したいので。あと地元の人も行きたいと思うような店（パン屋、カフェ等）各所にあると良いのでは？清水湯のイベントスペースなどは魅力的で良いと思う。トイレも素敵。竹田アートカルチャーの参加者がもっと増えると街中がにぎわうのでは？イベントも街中を使ってどこを歩いても楽しめるような。知っている人しか知らないのは残念。秋と春に行われる阿蘇のみの市みたいなイベントがあるといいのに。楽しいですよ。
- ・竹田中心市街地におしゃれなお店（パスタ、モツ鍋、パン屋さん・・・など）が出来たのはとても嬉しいです。古い街並みを生かすのもいいかもしれませんが、新しい風の方がとても魅力的です。また、若手の方が戻って来られてがんばっているのも励みになります。次は新しい図書館が建設されるというので、大変心待ちにしております。今まで本当に中心市街地に足を運ぶことが少なかったのですが、少しずつ増えてきました。これからも一市民としてしっかり足を運んで利用していきたいと
思います。
- ・歩道が狭いので、ベビーカーを押す人や車椅子の方が移動しにくい。ゆったり移動できる道がいいと思う。観光地や駐車場がわかりづらい。わかりやすい看板や表示が欲しい。市長と市民（いろいろな年代の）が意見を交わせる時間をつくっては？
- ・散策のための掲示板、地図、歴史などを充実させて欲しい。あまり個人的に知らないの
で、的外れの事をいつているかもしれませんが、できれば”〇〇めぐり”といった関連性のあるものが1つになって案内できるとおもしろいと思った。”花水月”入浴料が回数券利用などで地元の人が割安になるともっと利用しやすいと思う（実際されていたらすみません）足湯も他の所で人気です。
- ・今回計画されている歩道拡幅実験は、本町通りだけではなく城下町の風情が全く見られない田町通り、岡城通りを含めてはどうでしょうか。更に両端に植栽し魚が泳ぐ水路でも出来れば、景観は全く変わります。観光立地を望む都市で中心市街地に街路樹が一本もない町など考えられません。強力な行政力で荒治療が必要な時機に
来ています。さもなければ衰退する。スピードは更に加速すると考え待っています。
- ・竹田市に駐車場はありません。観光客のみなさんから料金をとるのも心苦しいです。駐車料金が有料か無料で、竹田市でゆっくり散策するか、他の場所に行くか変わってしまいます。空いている土地の駐車場としての有効活用、メディアの露出、お年寄りに優しい城下町・竹田を作
ってほしいです。

②高校生アンケート調査実施概要（設問内容は一部一般とは異なる）

市内高等学校の在校生に対して、アンケート調査を実施した。

○実施期間：平成25年9月5日（木）～平成25年9月27日（金）

○回答生徒数：411人

（内訳）

○竹田高校 284人（1年生・2年生）

○竹田南高校 93人（全学年）

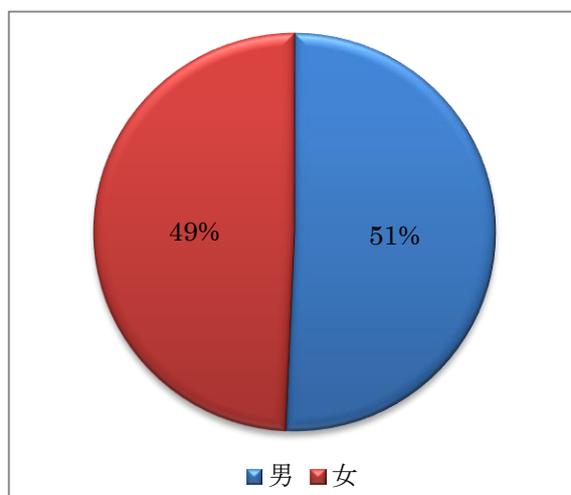
○三重総合高校久住校 34人（全学年のうち竹田市出身者）

I 回答者の属性について

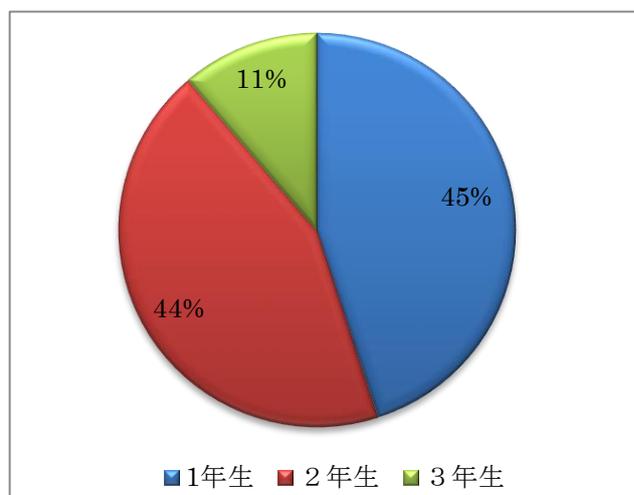
竹田高校284名、竹田南高校93名、三重総合高校34名の回答を得た。男女別回答数は、表①の通り、男性が51%、女性が49%で、

男女比はほぼ同率となっている。学年別の回答数は、1年生が45%、2年生は44%、3年生が11%となった。

表①：男女別



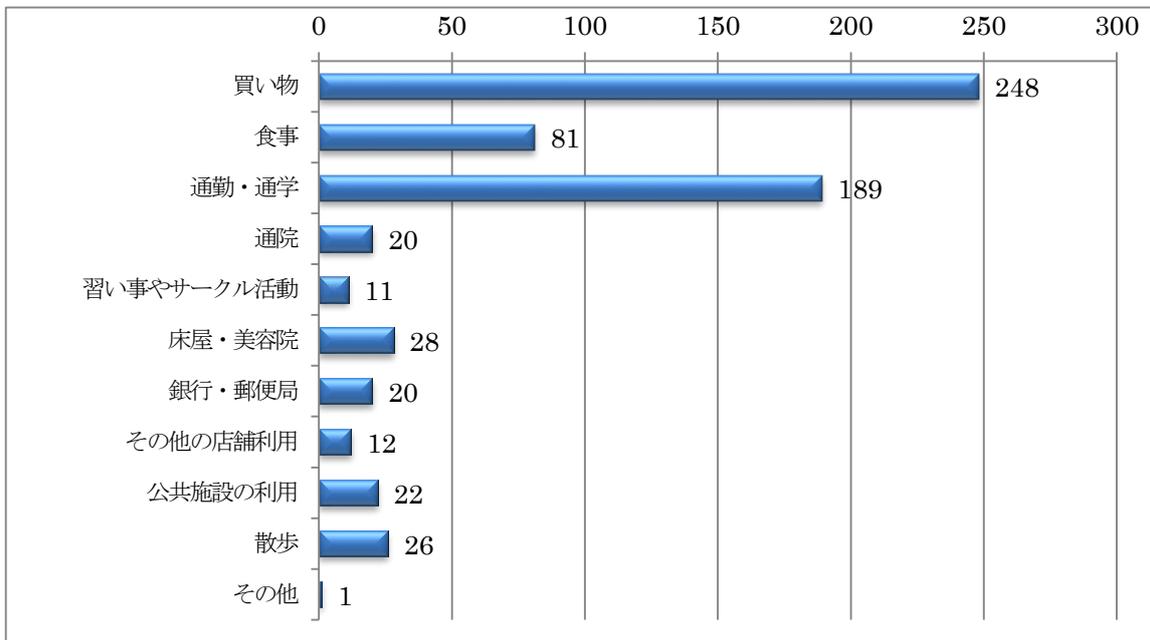
表②：年齢別



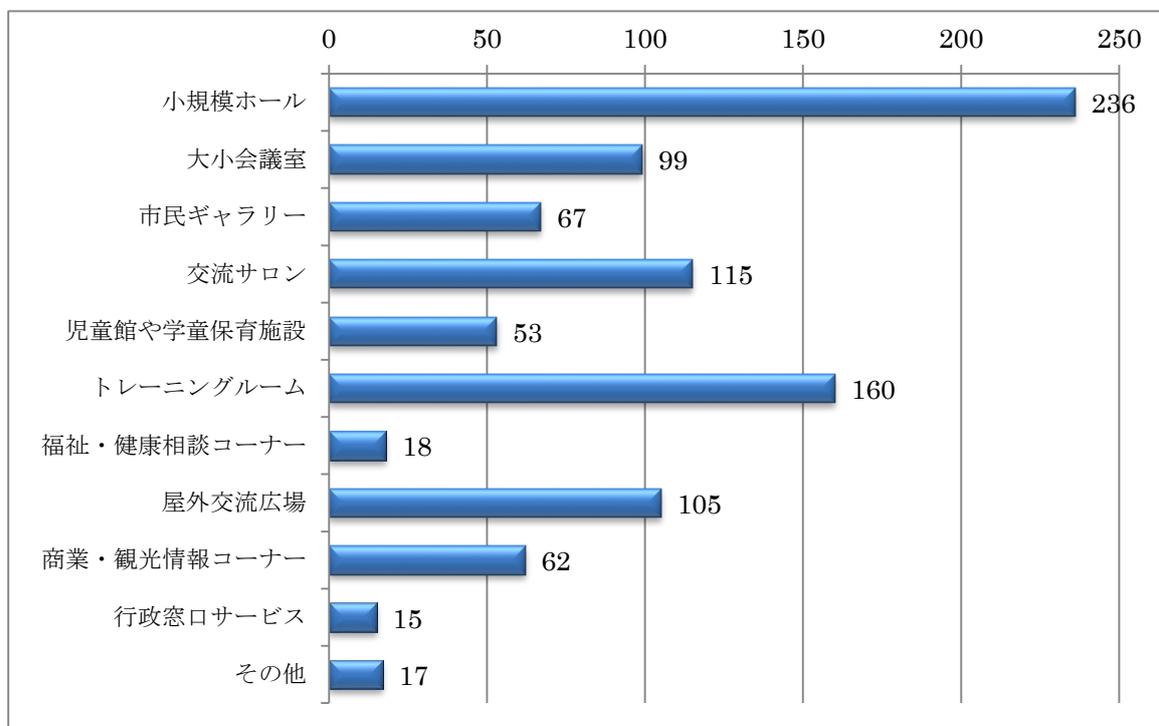
II 中心市街地の利用目的や機能

中心市街地の利用頻度や目的では、買い物や通学が多くを占め、コミュニティセンターの機能は、小規模ホールを望む回答が最多となった。

表③：中心市街地の利用目的（複数選択）



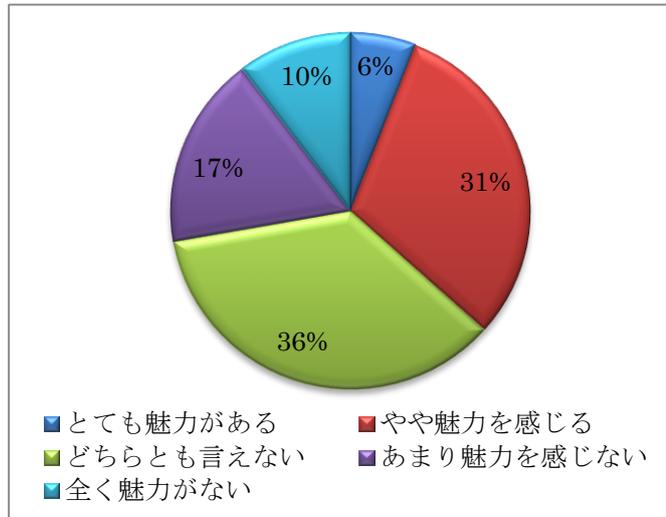
表④：コミュニティセンターの機能（複数選択）



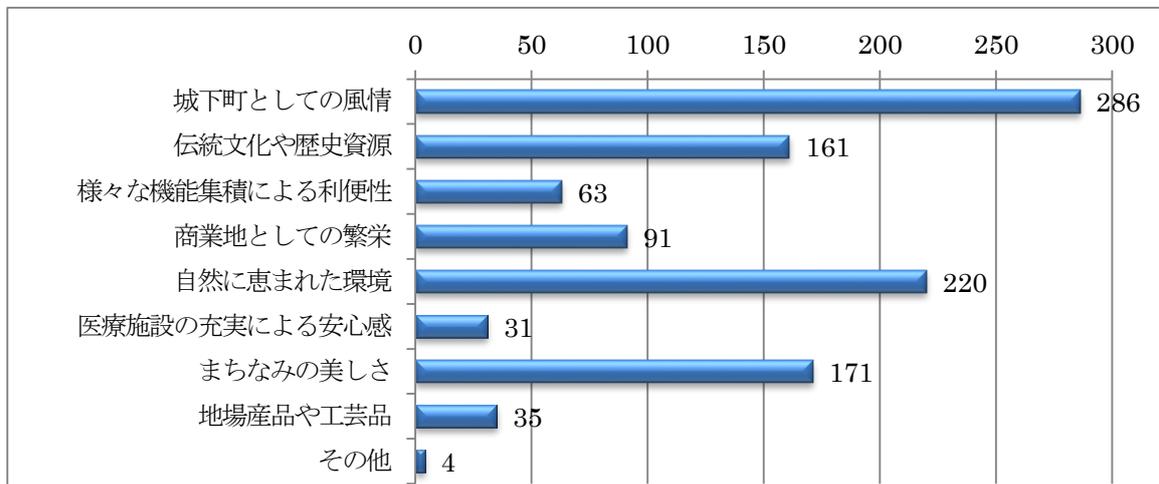
Ⅲ 中心市街地の将来像

現在の中心市街地の魅力（表⑤）については、28%の高校生が魅力に欠けると回答しており、他を対象としたアンケート結果と比べ、否定的な意見は少ない。一方、今後のまちづくり（表⑥）については、他を対象としたアンケート結果同様、歴史的風情や情緒を活かしたまちづくりが示されている。

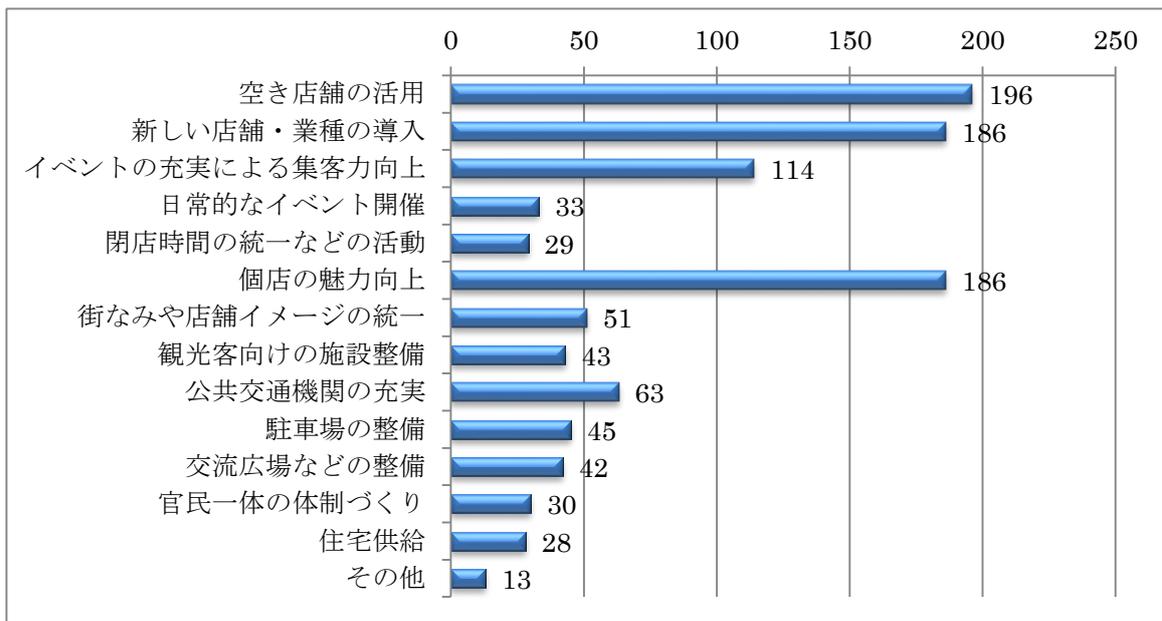
表⑤：中心市街地の魅力



表⑥：中心市街地が活かすべき魅力（複数選択）



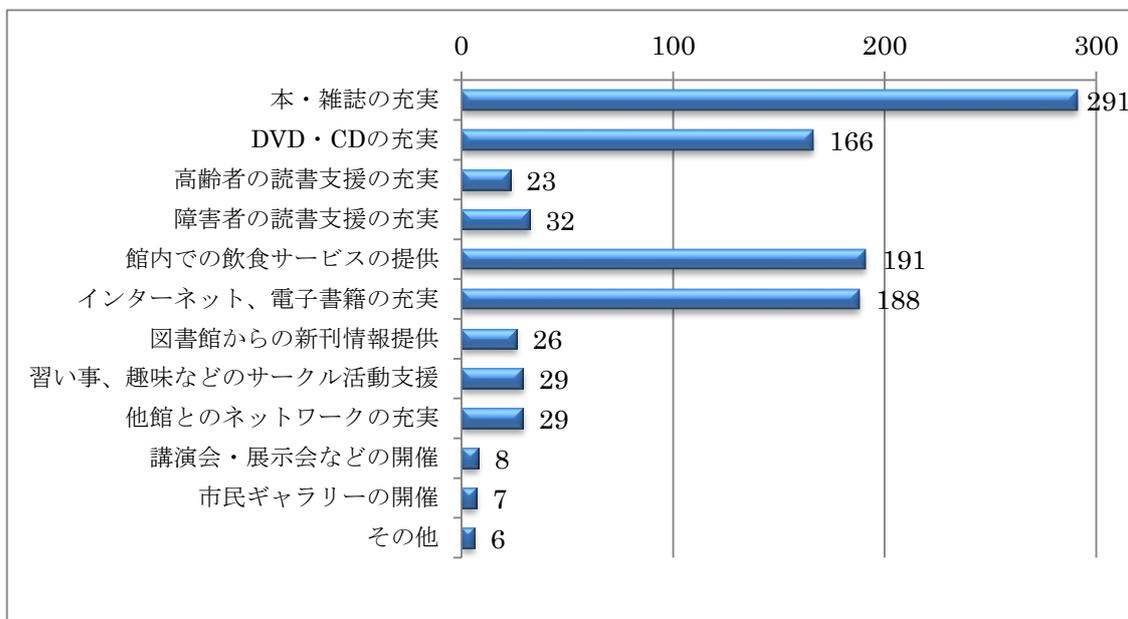
表⑦：中心市街地に必要な取り組み（複数選択）



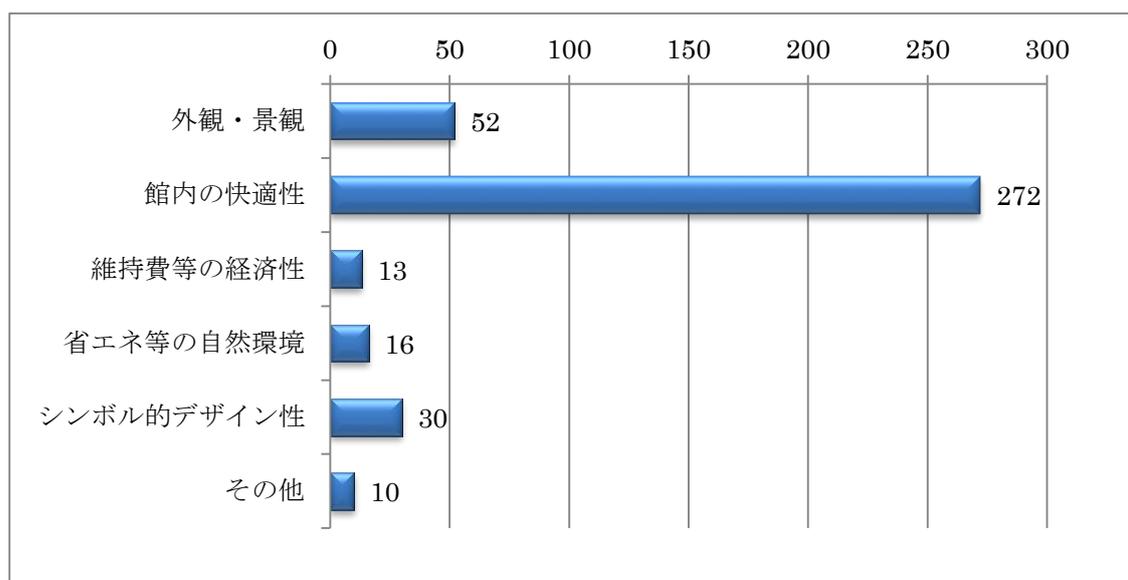
IV 新図書館の建設

回答傾向では、やはり現在の図書館が手狭で老朽化していることから、書籍の充実（表⑧）と館内の快適性（表⑨）が断トツとなっている。一方、高校生特有の回答結果として、飲食サービスの提供やインターネット書籍、電子書籍の充実を望む声が多くなっている。

表⑧：図書館の充実（複数選択）



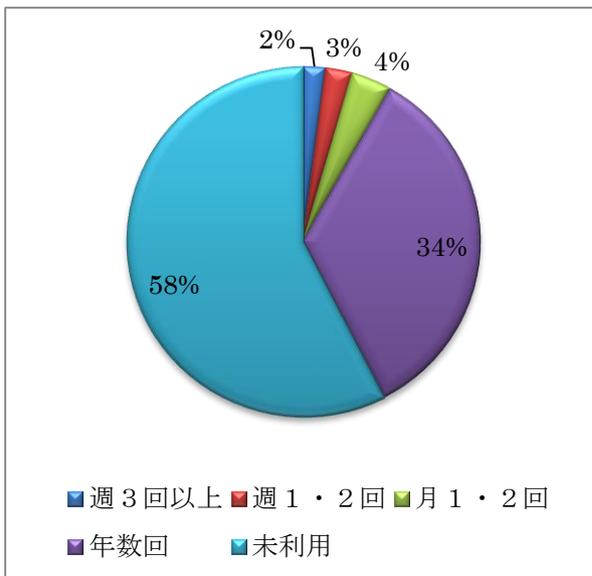
表⑨：図書館に重要視するもの



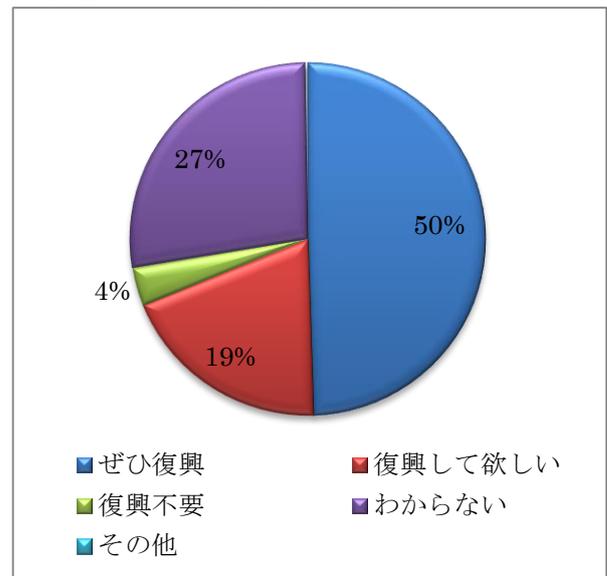
V 文化会館の復興

高校生の回答についても、表⑩に見られるように復興を望む回答が全体の69%を占め、文化拠点の必要性が窺える結果となっている。しかしながら表⑩では、文化会館等をほとんど利用していないとの回答が58%、年数回が34%となり、高校生による利用は非常に少ないことがわかる結果となった。

表⑩：文化会館等の利用頻度



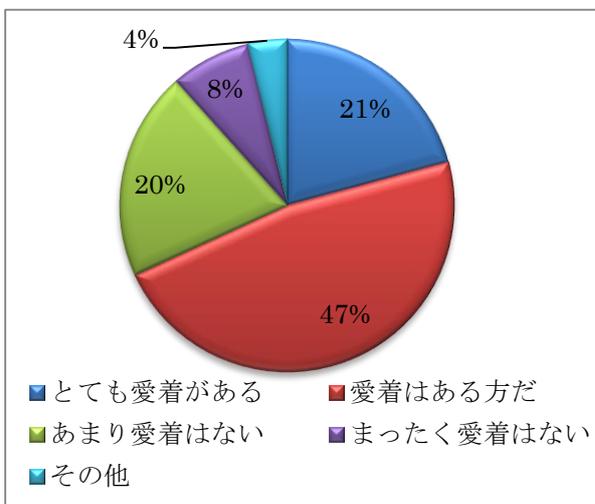
表⑪：文化会館等の復興建設



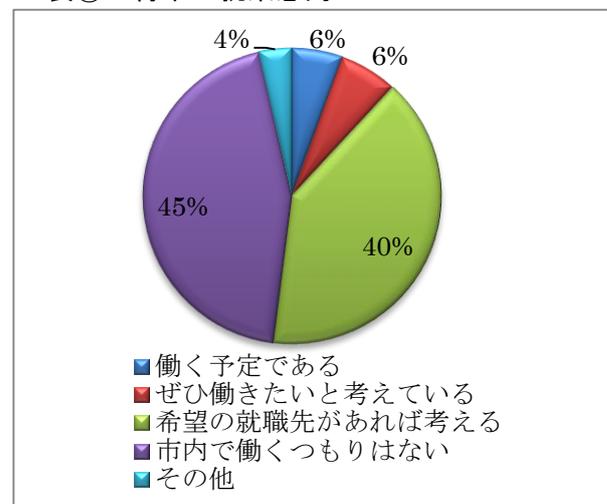
VI 竹田市に対する思い

高校卒業や進学に伴い、市外への転出が想定される高校生の市に対する思いや将来意向について把握した。68%が竹田市への愛着を感じている一方で、45%と約半数が市内で働くつもりはないという回答となった。これは就業機関、企業などの選択肢が少ないことによるものが大きな要因の一つに挙げられる。

表⑫：故郷としての愛着



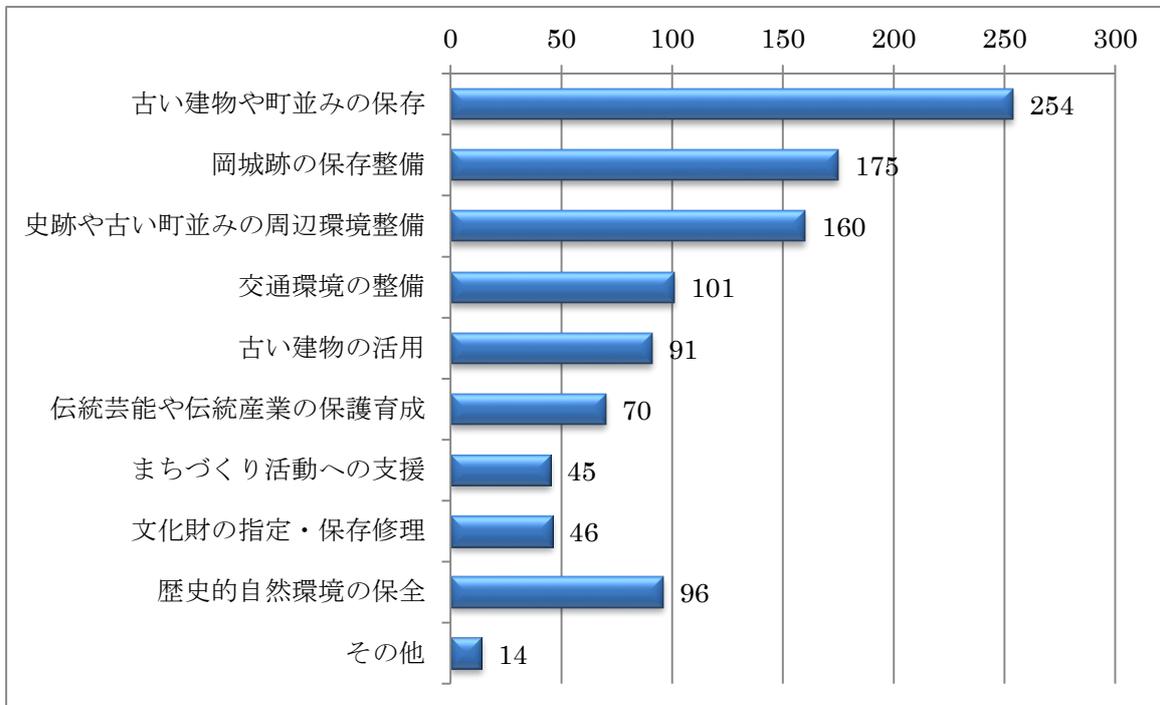
表⑬：将来の就業意向



Ⅶ 歴史的遺産の活用

回答結果は表⑭のとおり他を対象とした回答と異なり、古い建物や町並みの保存を臨む回答が最も多い結果となった。高校生という若い世代が、城下町の町並みの魅力を最も理解している結果となった。

表⑭：歴史的遺産を活かしたまちづくり（複数選択）



■自由記述（抜粋）

- ・文化会館がはやく復興してほしい。もう一度あの場所で演奏をし、竹田市の復興のスタートを切りたい。定期演奏会に来て下さったお客さんのあの笑顔をもう一度みたい。音楽の力でたくさんの方々に感謝と元気と笑顔を届けたい。だから私はもう一度あのステージで演奏できると願っています。どうかよろしくおねがいします。
- ・もっと積極的に住宅や店の外観を統一させるなどの整備を行った方がいい。観光客用のコースやパンフレットの作成など観光化を進めた方がいい。竹田市のホームページを見ても魅力がない。
- ・水害に対する対策は今まで以上に取り組みを強化すべき。水害だけでなく、色々な災害に対する対策を常に話し合い実行すべき。特に最近の日本は地震が多いので、地震対策を徹底すべき。古い建物は、強い地震がきたら必ず壊れる。歴史的な遺産が多いだけにそれを守るためにもしっかりした対策をしておくべきだと思う。
- ・市立図書館の建設に期待をしている学習（自習）スペースを広くとって落ち着いて学習ができる環境をつくってほしい。昼をはさんで勉強できるように、飲食ができるスペースもつくってほしい。きっと竹田市の中高生の学力向上につながっていくと思う。

- せっかく城下町なので、そこを推してまちづくりをすると思います。もっと昔の街なみを再生して保存してまた岡城自身も再建して本当の城下町として竹田のまちづくりとすればいいと思います。古き良き竹田をこれからの世代にも伝えるためでもあります。400年の歴史のある街、竹田を今よりももっと良くするために、このようなアンケートをとるのはいいことですが、そこに書かれた市民の意見を汲み取ってこそこのアンケートです。様々な世代の立場の市民の意見をもとにより良いまちづくりを期待しています。
- 竹田市内には、昔ながらの町並みと現在の町並みが一緒になって良い町並みを持っているので少しでも過疎化をくい止めて多くの人々と共に守り続けて次の世代の人達にも美しさを教えられたらいいと思います。
- 私の住んでいる久住町はやはり高原など自然を生かした観光が目立っているように感じます。ですが、中心地竹田の商業地としての活気によって、さらに地域ごとの味わいの違いが生まれ、魅力多い町になるのではないかと思います。バスなどの公共交通機関も充実して欲しいです。
- 医療機関の充実。助かる命が身内で助からなかった。土日、祝日の対応に気を配って欲しい。田舎の環境だとしても悪すぎる。子どもの教育をしっかりしてほしい。災害時の避難場所がわからない。高齢化が進みすぎる。交通の便が悪くて困る。
- 各学校では文化的交流をして、日本以外でも交通し、工業を特に職業の発達を少しずつすると思います。併し、私は、竹田市の自然と人々の温かさを大切にして、岡城の再建（復旧）をして、熊本城等のようにその発達のシンボルにして活動すると思います。そして、宮崎県なんかよりも豊かになって、市町村GDPを1以上には最低2以上に出来たらうれしいです。

(2) 全市民を対象とした城下町再生中心市街地のまちづくりに対する意見徴集

城下町再生プロジェクト『中心市街地再生への拠点施設整備に向けた、ご意見やアイデアをお聞かせ下さい』と題し、市民の皆様にはがきによる意見募集の呼び掛けをした。返信用はがきを付した広報紙を、市報等のお知らせとともに全戸に配布、12月1日から20日までの間に返信をお願いしたものである。城下町再生の拠点となるこれら主要施設の整備方針や内容、規模、機能について、市民の皆様からご意見やアイデアをお聞きすることを目的に実施し、市内全9,300戸に配布し、返信は237件で、竹田市ホームページを利用した返信6件を含めると、243件に上る意見を収集することができた。

はがき表

(切り取り)

郵便はがき

8 7 8 8 7 9 0

竹田市役所 総合まちづくりセンター
都市再生まちづくり係 行

竹田市大字会々1650番地

料金受取人私
竹田郵便局 承 認
14
差出人有効期間
平成26年2月
28日まで
(切手不要)

12月20日(金)までに投函ください

〒9990165

竹田市では、中心市街地の活性化に向けた「城下町再生プロジェクト」構想を立ち上げ、「情感まちづくり」に向けて調査研究を重ねて来ました。現在中心市街地では、コミュニティセンターや新図書館などの建設、また、周辺においては文化会館等の復興建設が計画されています。このため、城下町再生に向けた拠点整備については、多くの市民の皆様のご意見をお聞きし、計画的なまちづくりを進めていかなければなりません。つきましては、中心市街地の拠点となる主要3施設の機能や内容について、左のはがきをご使用いただき、ご意見やアイデアをご提案くださるようお願いいたします。先般実施した「まちづくり市民アンケート」の調査結果とともに、今後のまちづくりの貴重な素材資料とさせていただきます。
*左の「はがき」を、ハサミ等で切り取りの上、**12月20日までにポストへご投函ください。**
*切手を貼る必要はありません。
*竹田市ホームページからの回答も可能です。

はがき裏

右のはがきをご使用いただき、「新図書館」や「コミュニティセンター」、また、昨年の7月12日に甚大な被害を受けた「文化会館・中央公民館」の復興建設などについて、施設の整備方針や内容、規模、機能などに対し、ご意見やアイデアをお寄せください。

右の「はがき」を、ハサミ等で切り取りの上、**12月20日までにポストへご投函ください。**
*切手を貼る必要はありません。
*竹田市ホームページからの回答も可能です。

＜お問い合わせ先＞
竹田市役所 総合まちづくりセンター
竹田市大字会々1650番地
TEL：63-4848

*本調査は無記名で実施し、集計については統計的な処理を行いますので、個人の方へご迷惑をおかけすることはありません。また、調査目的以外には使用いたしません。

私は、新図書館やコミュニティセンターの建設、文化会館・中央公民館の復興について、施設の整備方針や内容、規模、機能などに対して、以下のとおり提案します。

【新図書館】

【コミュニティセンター】

【文化会館・中央公民館】

【その他の意見・提案など】

■新図書館について

「旧竹田市から長年に亘る懸案事項。今やらなければ今後出来ない。文化の町竹田に必須の施設」、「市民の教育の場としてぜひ必要である」という早期建設を望む意見が多数あった。また、「子どもや学生、大人、年寄りの方でも気軽に利用でき、寄り付きやすい雰囲気にしてほしい」、「幼児・小学生低学年の子が足を運べるような建物がほしい」など、多くの人が利用できる図書館が望まれている。

機能や内容では、「建設よりも、働く人材や本にしっかり投資してほしい」、「おしゃべりサロンで本をお世話すると良い」、「周辺部の子どもたちは、スクールバスの利用活用法、移動図書館等の対応を」という提案や、図書館の造作、書架、蔵書等についても詳細なご意見をいただいた。一方では、「あまり立派で大きな建物は必要ない」など、財政面での効率的な施設建設についての声も聞かれた。

■コミュニティセンターについて

先に実施した市民アンケートの中心市街地の魅力についてお聞きした設問で、『買い物以外に楽しめる施設がない』という回答が上位にあった。今回の意見でもやはり、街なかでの憩いの場づくりや賑わい交流のできる施設整備が望まれている。

「町の中心部が寂しいので予定地に出来るといい」、「市民の憩いの場として大変楽しみにしています」と建設を待ち望む声、また、「建設予定地は広くないと思うので空間をうまくレイアウトしてほしい」、「駐車スペースを広がるよう工夫」、「観光客が気軽に立ち寄れる施設、駐車場、案内所、ギャラリー、休憩所、トイレがあり、市民と交流できる施設」などの提案があった。

一方では、「図書館とは目的の異なる中心市街地における集客施設として必要と思うが、商店街等地場の一致したやる気と取り組みが最も重要」、「文化会館、図書館の機能と棲み分けが必要。じっくり検討を」との意見があった。

■文化会館・中央公民館について

文化会館等の復興建設については、市民アンケートで85%に達する方々が復興への期待を寄せているが、今回の意見募集でも、「現在の場所で早急に復興してほしい」という意見が多数あった。

施設の内容については、「高齢化に対応した完全バリアフリー化、座りやすい座席の配列や車いすでの観劇」、「音楽ホールを主眼においたホール」などの要望があった。特に、ホールの座席数については、800席から2,000席を望む声まで、その理由を付して様々な立場から提案がされている。運営についても、『貸館』ではなく、自主事業を開催し、竹田市の存在と文化の発信をする中心基地であるべき」という意見等があった。

また、「お金をかけすぎて、借金が増えることが心配」、「復興は必要だと思うが、市の身の丈に合ったものにすべき」という、維持管理コストを含めた財政面に配慮する意見が多くあった。

■その他アイデア・意見など

- ・3つの施設を一緒にして建設。又、体育館、トレーニングジムなども入れ、多機能型の複合施設にしてはどうか？維持費の軽減に繋がる。
- ・文化の薫る町は住んでも訪れても魅力を感じます。生かすも殺すも関わる方々のセンスで決まってしまう。どうか視察などでどうあるべきか充分検討なさり。さすが。という結果を出して頂きたいです。
- ・荻一竹田間のバスの便（特に休日、上り馬背野経由→下り岩本経由の1便のみ）をもう1便増やして欲しいです。休日の買い物が行きづらいので、今の便を1～2時間早くして、夕方の便があるといいと思います。
- ・老若男女が楽しく活用できる施設設計をお願いします。
- ・豊後竹田駅周辺の観光施設の提案 1. 駅付近は、江戸時代、城原神社御下がりの祭礼時、見世物等の催しがあり人々が集まったことから会々と言う地名がついたと言われている。2. 現在において、駅前を広場並びにバスセンターの施設をつくり、人が集まる場所に、例えば、現在の駅前広場から水道課のある建物までの間を広場とバスセンターにすれば、春の大名行列、夏の夏越祭り、竹楽等の混雑が緩和され、また、その他のイベントも開催が期待できる。3. 駅裏の岸壁に沿ってエレベーターで滝の上に登り岡城、城下町を眺望できる施設を考慮してはどうか。4. 竹田駅地下道を延長して3番プラットホームと3項へ行くことが出来ると観光に期待できないか。
- ・さまざまな厳しい事情の中で「利用していないから作らないでいい」のではなく「すばらしい施設がないから利用出来ない」すばらしい機能を備えた施設は必ず利用するし、財政は後から着いてくる。
- ・どこに建てるにも、周遊のコミュニティバスを出すなり、イベントの案内をどこに出せば目につくのか（垂幕、看板の場）まで考えて下さい。今までの文化会館は駐車場が一杯なことでは何かしていることはわかるけど、何の集まりかさっぱりわからなかった。
- ・田舎で土地はあるので広い（遊具がたくさんある）公園を作るべきだと思います。竹田には公園がゼロです。公園があれば老若男女集い子育てまた医療費抑制にもつながります。またお昼の軽食を買うのでスーパー商店も潤います。津久見のつくみん公園が良い例です。
- ・本町の裏の方、「お客屋敷」は「歴史的保存」として観光に利用。歴史資料館にバスを停めて観光客は、まず廉太郎トンネルを通り廉太郎の家を訪れます。観光名所を1つ増やし「お客屋敷」に来てもらえば新しく出来る休憩所によってお土産を買って帰ってもらう。
- ・市内に駐車場が少ない。観光客を増やすためにも必要では。竹田は寺が多いので寺巡りコースを作ったらどうでしょう。まず人を増やす工面を。
- ・N T Tの跡地、利用等の活用方法等はないのでしょうか。中心地の活動等、シャッター通りの解消を駅前のメインストリートが寂しいですね。
- ・子供は竹田市全体の宝。少子化の今こそ全ての児童を一つに集め教育する行政をしてほしい。
- ・竹田分館は食事処とする。城下町を公園化して歩いて楽しめる町に。
- ・バス停より程遠い地区（入田・小高野）に週2回程度コミュニティバスを走らせてもらいたい。
- ・岡城の活性化について、旧竹田小から近戸門への道を整備できないか？市街地から徒歩で観光客が岡城へ向かうような環境整備が必要。
- ・介護予防にデイサービスやサロンがありますが、行きたがらない方が多いので、小集団か対個人でのコミュニケーションを図れる場所があるといいと思う。
- ・岡城のトイレ・休憩用の建物を早期に整備し、タクシー登城ができる道路を整備すること。伐竹や伐材で少しは観光的になっているが、まだまだ不備である。
- ・コミュニティーセンター建設について 町（商店）の意識改革が必要だと思う。人の動態の流れを変えるには、周辺外部から増やすしかない・・・観光客を笑顔で迎え入れる態度でないと、又竹田に来たいと思う気持ちになれない・・・やはり客との会話が必要だ。
- ・三施設の利活用面のすり合わせをしっかりとって市民が親しみのもてる施設運営が重要であると思います。
- ・屋根はシンプルな切妻（伊勢神宮）市役所、竹田駅。壁は日本式外観でユニークさを。竹の外観（北京万博）音響の良い舞台（音楽の町として必須です）防音も考慮。他に移転するならば、現在地は屋外型の文化発信する屋外舞台を設け、祭典広場とする。これは中九州の中心の竹田として大いなる文化発信力をもたらす。国際、全国観光寄与。備品倉庫は跡地のス

ペースとして確保利用する。周囲のジオパークの景観・河川を取り入れた山水公園（水墨画の公園）、県・国に協力を要請する。

- ・岡城と市街地を結び、観光客を呼び入れて活性化を図れないものですか？
- ・竹田市の交通網の整備が最も重要である。特に大分市とのアクセスを向上させ、人口流失を防ぎ、逆に新規の住民を増やす方策が、費用対効果で最も現実的であると思われる。

（３）市民懇談会等による城下町再生・中心市街地のまちづくり意見交換

竹田市では、毎年度市域を7地域のブロックに分け、「TOP 懇談会」と呼称する市民懇談会、また、「TOP ミーティング」と呼称する旧来の学校区を範囲とした地区住民懇談会を実施している。近年では特に、こうした市民との直接意見交換を行う懇談会の中で、平成23年3月に策定した「竹田市新生ビジョン」の主要な施策となる城下町再生プロジェクトに係る概要について説明し、意見を求めてきた。

また、中心市街地のまちづくりを進めていく上で、重要かつ主要な施策・事業については、以下のような市民フォーラム等を開催し、市民を巻き込むとともに浸透を図り、広く意見を求めてきた。

年月日	内容
平成23年5月21日	竹田市エコミュージアム構想「城下町再生フォーラム」 ー竹田の情感まちづくりに向けてー
平成24年2月5日	シンポジウム『城下町の青写真を探る』 ～図書館と城下町再生（都市づくり）～
平成24年3月18日	竹田エコミュージアムシンポジウム ー『自律型まちづくり』を目指してー
平成25年11月6日	城下町再生プロジェクト 市民専門部会設置 (コミュニティセンター部会、図書館部会、文化会館部会)
平成25年11月22日	城下町再生プロジェクト委員会設置
平成25年11月23日	文化会館の再建を考える市民シンポジウム
平成26年2月7日	竹田市まちづくり基本計画及び都市再生整備計画市民説明会
平成26年2月10日 ～ 平成26年2月26日	都市再生整備計画書（原案）パブリックコメント
平成26年2月17日	歴史的風致維持向上計画住民説明会
平成26年2月21日 ～ 平成26年3月2日	歴史的風致維持向上計画パブリックコメント

（４）竹田城下町中心市街地地区住民を対象としたまちづくり意見交換

竹田城下町中心市街地の将来像を描くにあたり、総合まちづくりセンターが中心に市街地の地区住民や関係組織、団体とのワークショップを行った。実施した組織、団体は、竹田地区自治会（希望自治会のみ）、竹田地区市街地活性化協議会、竹田商工会議所、竹田町商店街振興組合、新図書館建設を考える会などで、中心市街地の将来像やまちづくりの方向などについて意見を収集するとともに、まちづくりへの参画意識の醸成を図った。

2. 観光ニーズ把握のためのアンケート調査

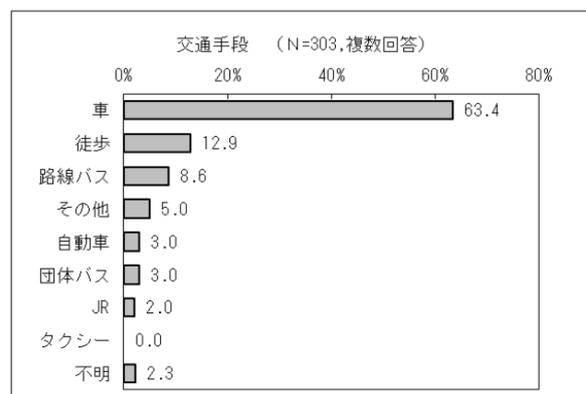
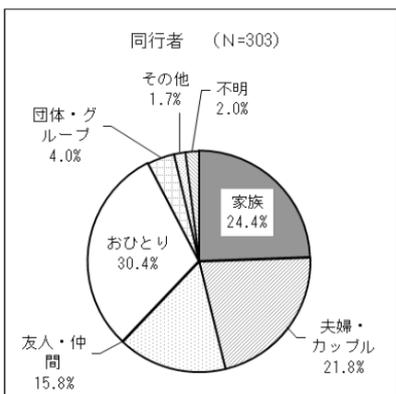
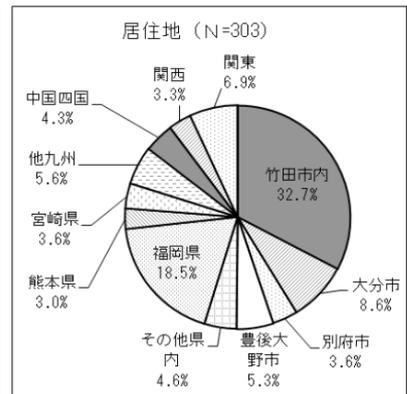
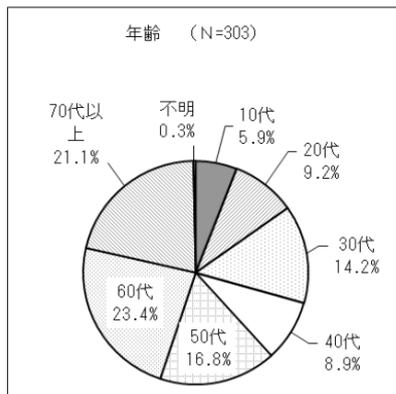
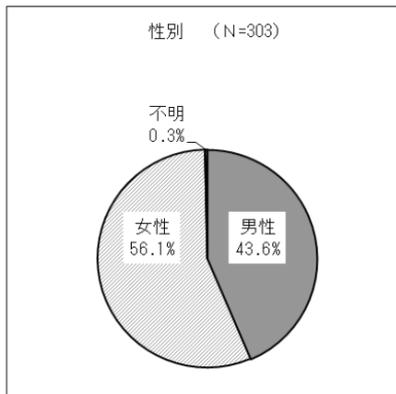
【魅力ある中心市街地活力創造事業化検討調査（商工会議所）】

- 目的：竹田城下町商店街の利用者及び目的など利用状況の把握。竹田城下町商店街の印象や評価の分析及び課題の抽出。
- 実施期間：平成26年5月31日（土）、平成26年6月8日（日）、平成26年7月12日（土）、その他6月中旬から7月中旬までの平日の商店街内を歩いている方。
- 対象者：竹田城下町を訪れた10歳以上の市内、市外の方
- 調査方法：調査員による聞き取りアンケート
- サンプル数：303人

I 回答者の属性について

回答者は、男性約4割、女性約6割、年齢は60代以上が4割以上を占める。

居住地は竹田市内の人が約3割、それ以外の大分県内からの人が約2割、残りの4.5割が県外からの来訪客となっている。特に、福岡県からの来訪者が約2割と多く、交通手段は車が6割を超えている。



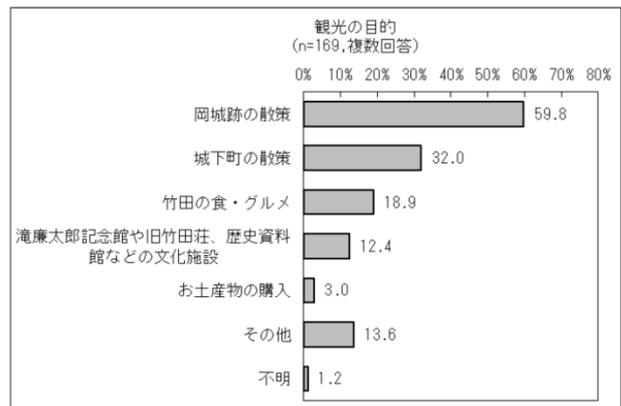
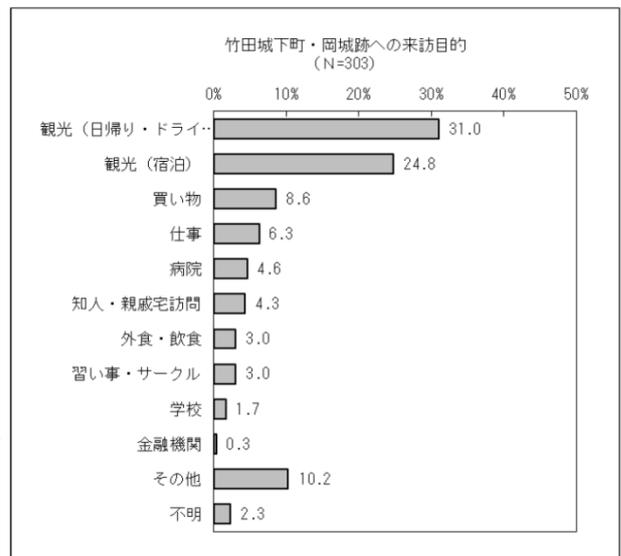
II 竹田城下町・岡城への来訪目的について

竹田城下町・岡城への来訪目的は、「観光（日帰り・ドライブ）」が31.0%、次いで「観光（宿泊）」が24.8%と、観光目的の人が5割以上となった。他には、「買物」が8.6%、「仕事」が6.3%、「病院」が4.6%の順となっている。

宿泊した観光目的の回答者のうち、宿泊先は久住や長湯などの竹田市内と、別府・由布院がそれぞれ35.0%を占め特に多かった。

調査実施日が土曜・日曜中心であったため、市外からの来訪者が7割以上を占め、観光目的の割合が高くなっている。

観光を目的に来訪した人の主な行先としては、「岡城跡の散策」が59.8%と最も多く、次いで「城下町の散策」（32.0%）、「竹田の食・グルメ」（18.9%）と続いている。

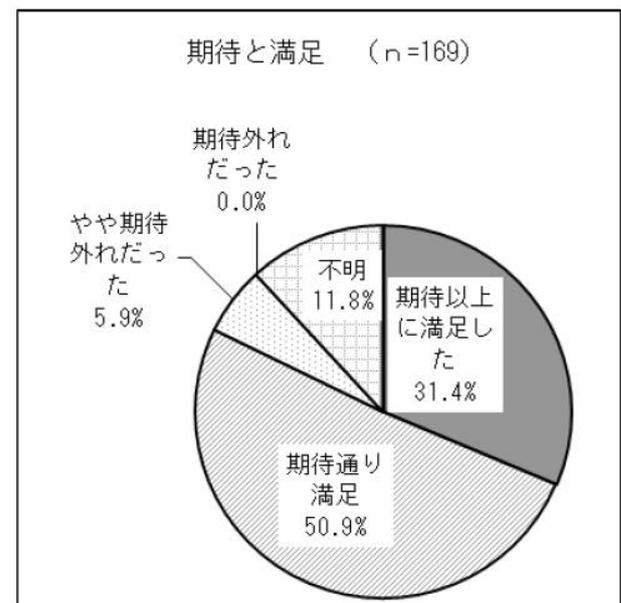


III 観光の満足度について

観光の満足度については、「期待以上に満足した」が31.4%、「期待通り満足」が50.9%、「やや期待外れだった」が5.9%、「期待外れだった」は0.0%であった。

「期待以上に満足した」「期待通り満足」の理由としては、「町並みに情緒、風情がある」、「食事が美味しかった」「岡城の石垣や景色がよかった」という内容が多かった。

「やや期待はずれだった」という理由については、「人通りが少なくさみしい」、「何がどこにあるのかわかりにくい」という内容であった。

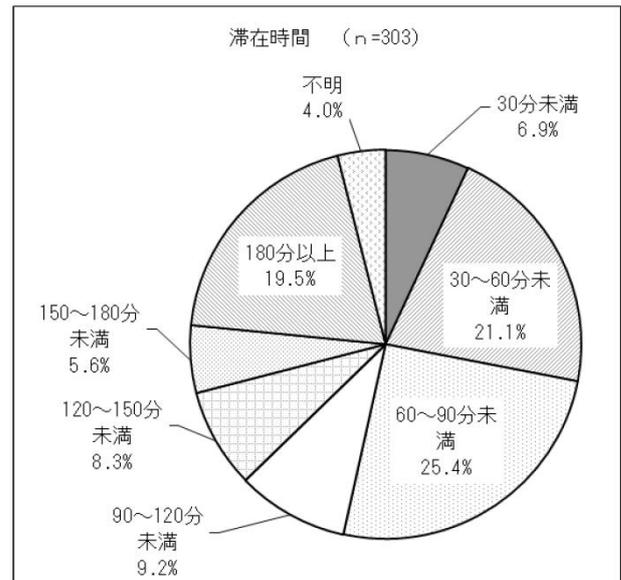


IV 滞在時間について

来訪者の滞在時間は、「60分～90分未満」(25.4%)が最も多く、「30分～60分未満」(21.1%)、「180分以上」(19.5%)の順となっている。

「180分以上」の回答者は、そのほとんどが竹田市内の人で、来訪目的が「病院」、「仕事」「学校」等である。

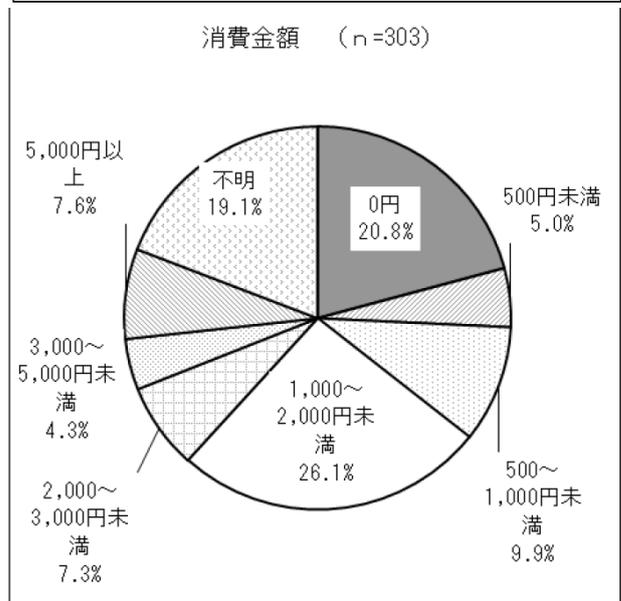
市外からの観光目的で来訪した人は「30～60分未満」、「60～90分未満」の1時間前後の人が5～6割を占める。



V 消費金額について

消費金額は、「不明」を除く回答者の平均消費額は1,943円/人で、「1,000～2,000円未満」(26.1%)の人が最も多い。

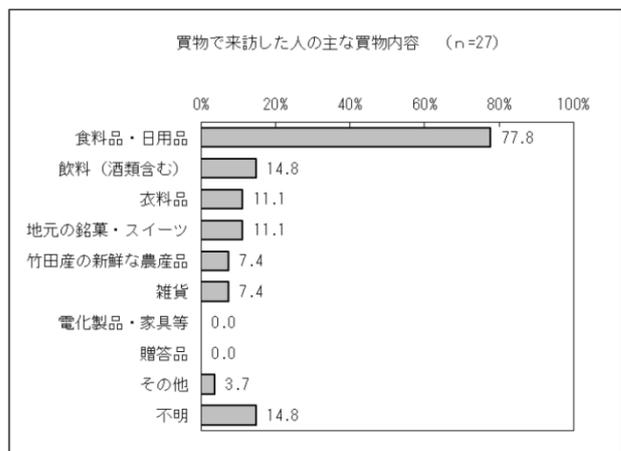
「2012年旅行・観光消費動向調査」によると、観光レクリエーションを目的とした日帰り旅行者のうち、自家用車を用いた場合の一人当たりの「土産物・買物代」は4,725円/人、「飲食代」は2,985円/人となっており、今回のアンケート調査の結果は、この統計データよりも半分以上も少ない消費額となっている。



VI 買物ニーズについて

買物を目的に来訪した人のうち、主な買物内容を尋ねたところ、「食料品・日用品」が77.8%と最も多い結果となった。

城下町の商店街は、スーパーが立地しているため、その利用が中心となっていると考えられる。

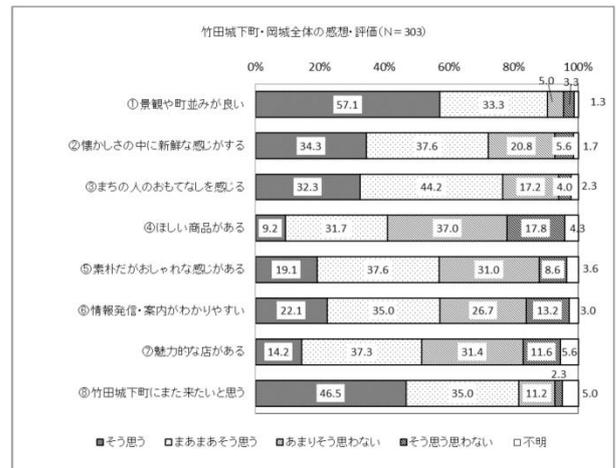


Ⅶ 竹田城下町・岡城の感想・評価について

評価項目の8項目のうち、「①景観や町並みが良い」「②懐かしさの中に新鮮な感じがする」「③まちの人のおもてなしを感じる」という3項目は、全体的に肯定的な回答が7～8割を占め、高く評価されている。

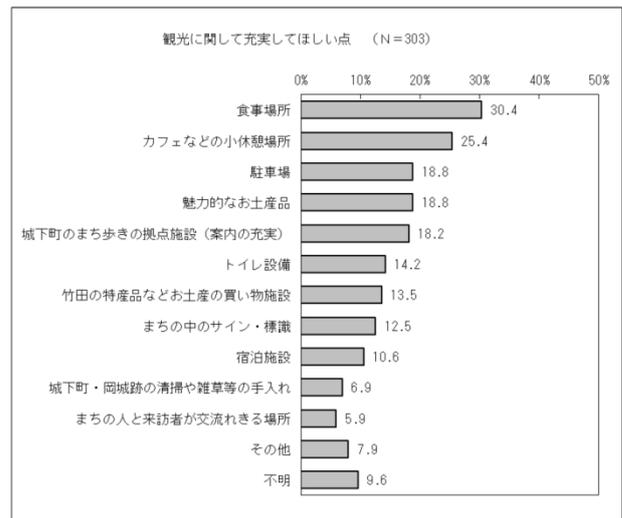
一方、「④欲しい商品がある」「⑦魅力的な店がある」「⑤素朴だがおしゃれな感じがする」「⑥情報発信・案内がわかりやすい」の項目では否定的な意見も多く見られた。

また、「⑧竹田城下町にまた来たいと思う」という項目は肯定的な方が約8割であった。



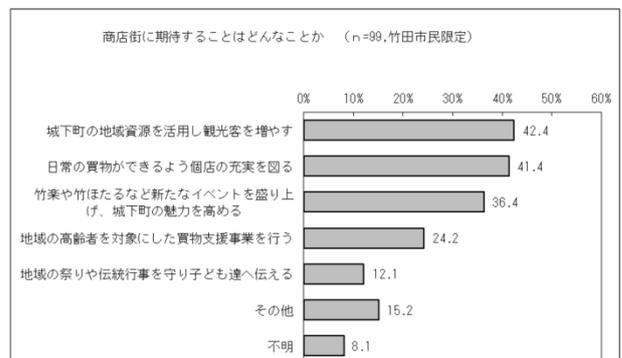
Ⅷ 充実して欲しいことについて

観光に関して充実して欲しいことについては、「食事場所」が30.4%と最も多く、次いで「カフェなどの小休憩場所」(25.4%)、「駐車場」(18.8%)、「魅力的なお土産」(18.8%)、「城下町のまち歩きの手入れ」(18.2%)の順で要望が高い。



Ⅸ 城下町商店街に期待することについて

市民が城下町の商店街に期待することで最も多いのは「城下町の地域資源を活用し観光客を増やす」(42.4%)、次いで「日常の買物ができるよう個店の充実を図る」(41.4%)である。市民は、観光地としての魅力向上と住民の日常の買物の中心となる商店街という2つの側面の役割を期待しているといえる。



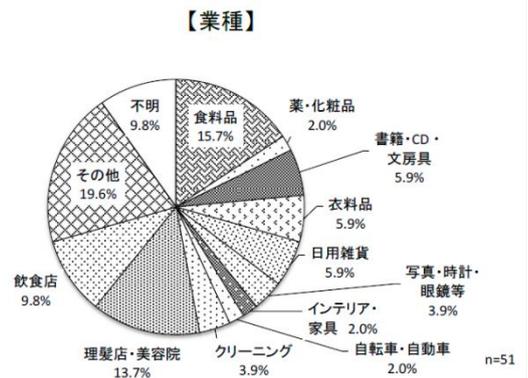
3. 商店街経営者へのアンケート調査

【魅力ある中心市街地活力創造事業化検討調査（商工会議所）】

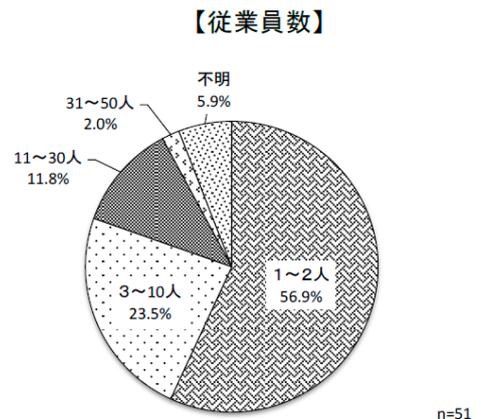
- 目的：商店街及び中心部の現状や課題、活性化に関する意向を把握することを目的に、アンケートを実施
- 実施期間：平成26年6月25日（水）～7月11日（金）
- 対象者：竹田町商店街振興組合の加盟店
- 調査方法：手渡しによる配布
- 回収率：42.5%（配布数：120票、回収数：51票）

I 回答者の属性について

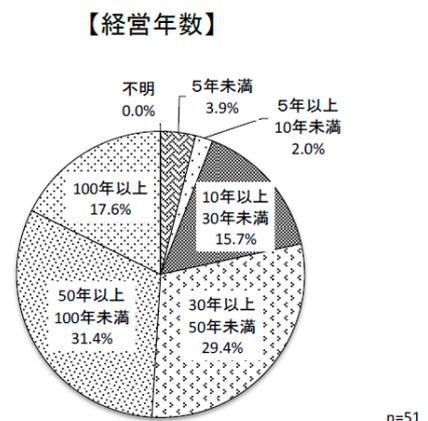
回答店舗を業種別にみると、「食料品」が15.7%と最も高く、以下、「理髪店・美容院」（13.7%）、「飲食店」（9.8%）と続いている。



従業員数では、「1～2人」が56.9%と最も高く、次いで「3～10人」が23.5%、「11～30人」が11.8%、「31～50人」が2.0%であった。



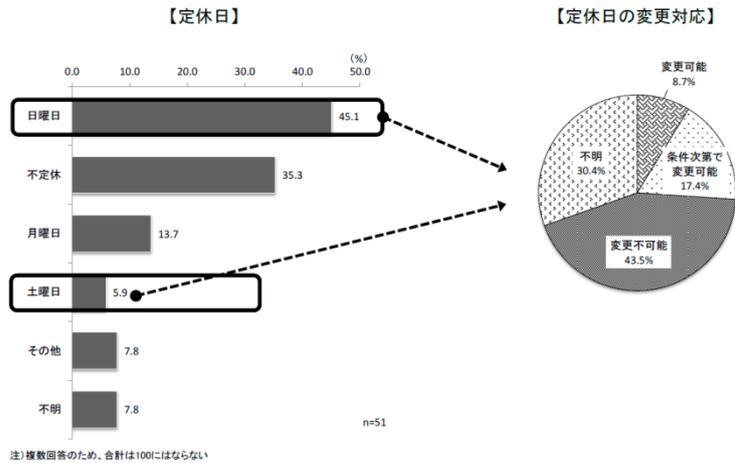
経営年数は、「50年以上100年未満」が31.4%と最も高く、次いで「30年以上50年未満」（29.4%）、「100年以上」（17.6%）、「10年以上30年未満」（15.7%）、「5年未満」（3.9%）、「5年以上10年未満」（2.0%）であった。



II 店休日について

店舗の定休日は、「日曜日」が45.1%と最も高く、次いで「不定休」が35.3%、「月曜日」が13.7%、「土曜日」5.9%と続き、約半数の店舗が土日を定休日に設定している。

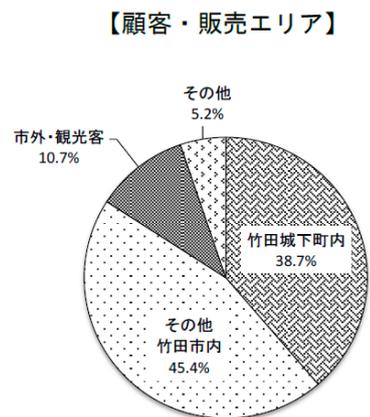
定休日変更に対しては、「変更可能」が8.7%、「条件次第で変更可能」が17.4%で、4店舗に1店舗しか変更が難しいと回答している。



III 顧客について

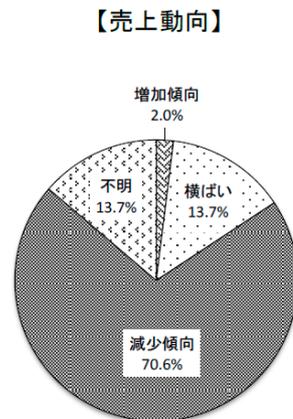
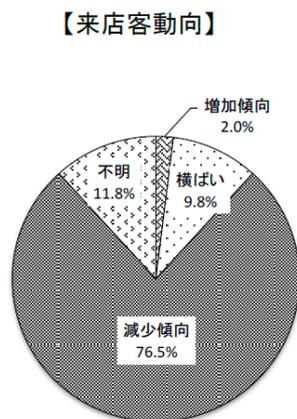
各店舗の顧客の居住地は、「その他竹田市内」が45.4%、「竹田城下町内」が38.7%となっており、竹田市内の居住者を対象とした販売が大半を占めている。

一方、「市外・観光客」への販売割合は10.7%となっており、1割程度にとどまる。



IV 店舗経営について

来店客数は「増加傾向」がわずか2.0%であるのに対し、「減少傾向」は76.5%と、4店舗に3店舗で来店客が減少している。売上も来店客数と同様に、「増加傾向」が2.0%、「減少傾向」が70.6%となっており、来店者、売上ともに落ち込んでいる。

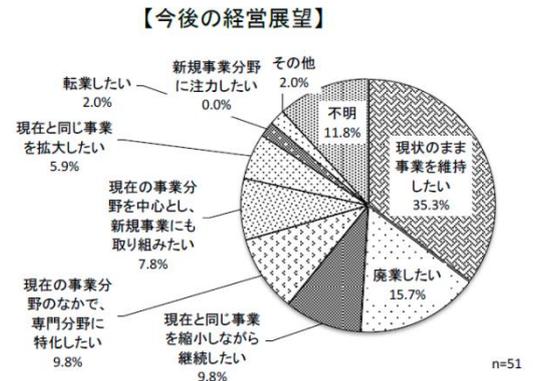


V 今後の経営について

今後の経営方針については、「現状のまま事業を維持したい」が35.3%と最も高く、「現在と同じ事業を縮小しながら継続したい」といった企業も9.8%あった。

事業環境の変化等から「廃業したい」が15.7%となっており、「転業したい」（2.0%）を含めると、2割弱の店舗が転廃業を検討している。

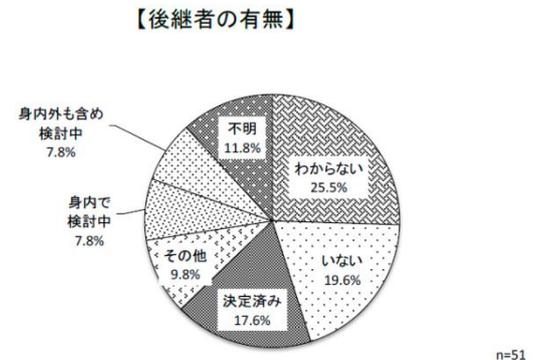
一方、専門分野への特化や新規事業の開拓、現在の事業の拡大を検討している店舗は1割にも及ばなかった。



VI 後継者について

後継者については、「わからない」が25.5%、「いない」が19.6%となっており、半数弱の店舗で事業継承者がいない可能性がある。

一方、「決定済み」が17.6%であり、「身内で検討中」「身内外も含め検討中」がそれぞれ7.8%であった。



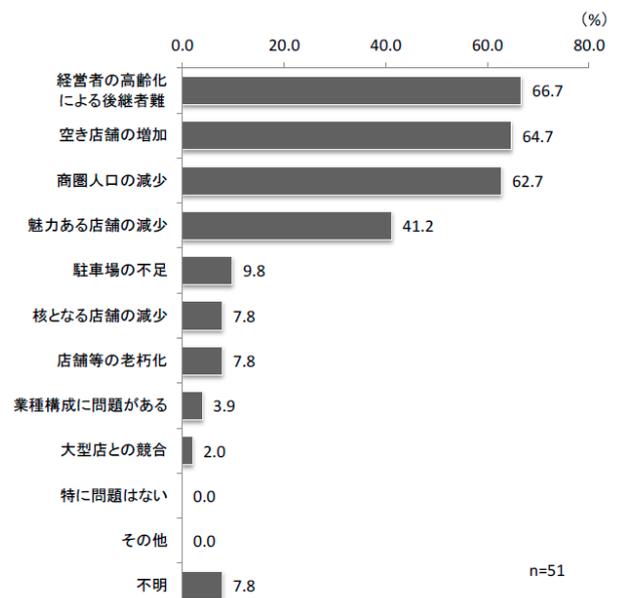
VII 商店街の課題について

商店街が抱えている問題は、「経営者の高齢化による後継者難」が66.7%と最も高く、以下「空き店舗の増加」が64.7%、「商圈人口の減少」が62.7%、「魅力ある店舗の減少」が41.2%と続いている。

竹田城下町内の人口減少、少子高齢化に伴い、地域内での事業継続が困難になり、空き店舗が増え、魅力ある店舗が減少している。

一方、「駐車場の不足」や「核となる店舗の減少」、「店舗の老朽化」、「業種構成に問題がある」、「大型店との競合」が問題とした店舗は1割未満であった。

【商店街の問題（3つまで選択）】



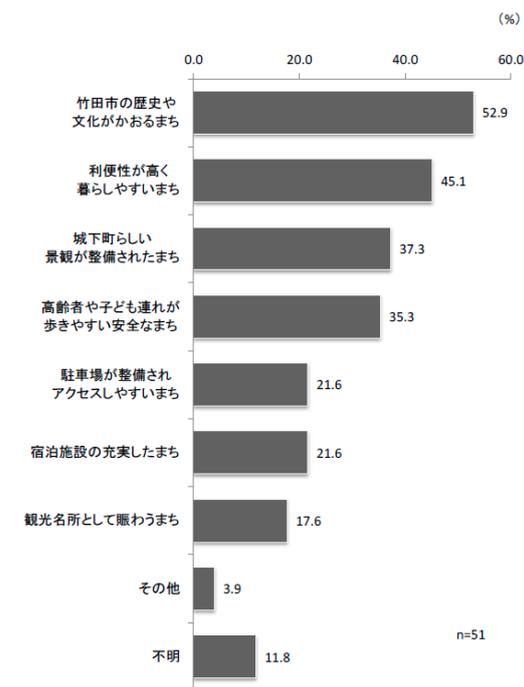
注) 複数回答のため、合計は100にはならない

Ⅷ 城下町として目指すべき姿について

竹田城下町の将来像は、「竹田市の歴史や文化がかおるまち」が52.9%と最も高く、次いで「利便性が高く暮らしやすいまち」（45.1%）、「城下町らしい景観が整備されたまち」（37.3%）、「高齢者や子ども連れが歩きやすい安全なまち」（35.3%）となっている。城下町として、これまで築き上げてきた歴史や文化を基盤に、住民が生活しやすいまちづくりが望まれている。

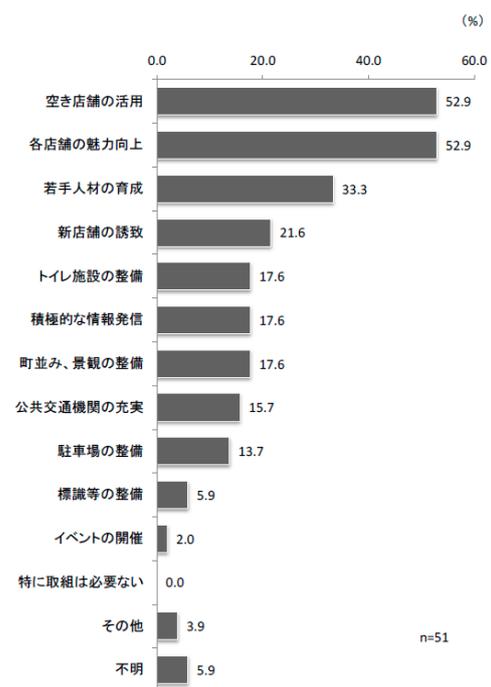
また、城下町を活性化させるための取組は、「空き店舗の活用」と「各店舗の魅力向上」がともに52.9%、「若手人材の育成」が33.3%となっている。

【城下町を目指す姿（3つまで選択）】



注)複数回答のため、合計は100にはならない

【城下町の活性化のために必要な取組（3つまで選択）】



注)複数回答のため、合計は100にはならない

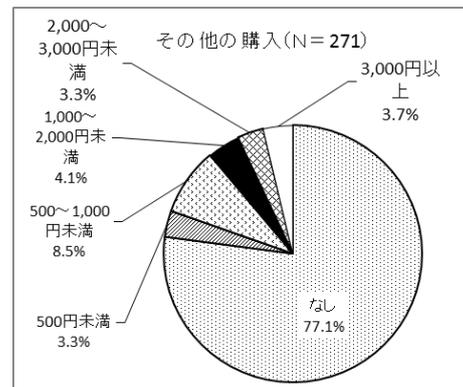
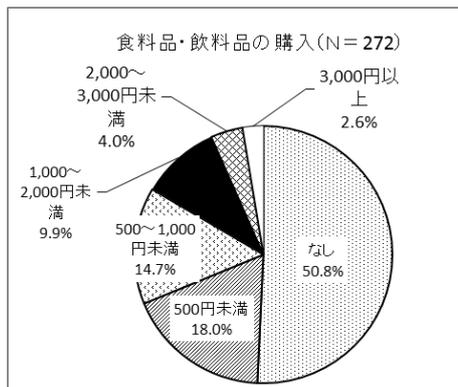
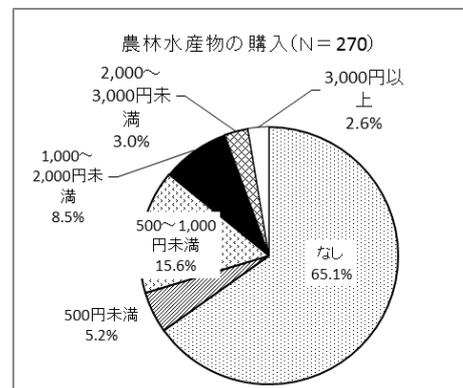
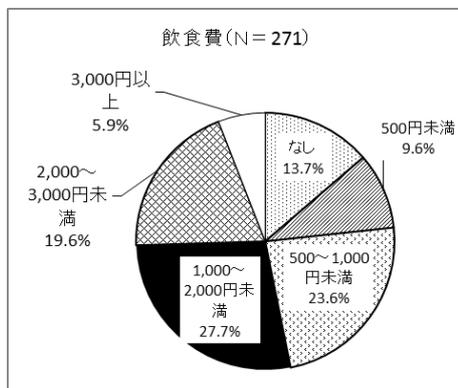
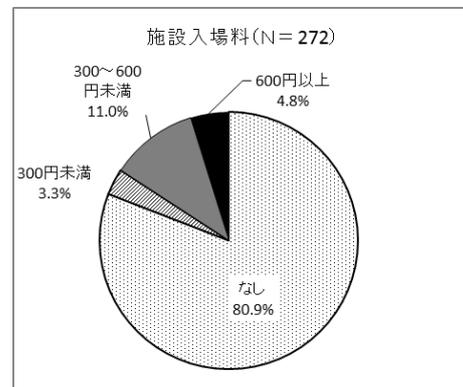
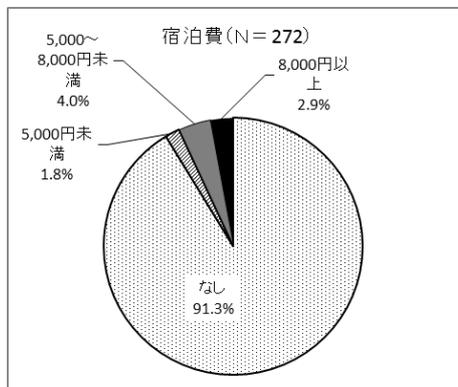
4. 観光ニーズ把握のためのアンケート調査

【「竹楽」開催に伴う経済波及効果調査】

- 目的：「竹楽」開催期間中の来場者の消費金額の推計把握のため
- 実施期間：平成25年11月16日（土）、17日（日）の2日間
- 調査方法：古町通り周辺にて聞き取りアンケート
- サンプル数：272人

■「竹楽」開催時の来街者の支出額

竹楽開催時に宿泊した方は、1割弱と少なく、物販購入される方が非常に少ない結果となった。飲食費においても2,000円以上支出された方は、全体の4分の1程度に止まり、1,000円未満が約半数を占めた。



5. 中心市街地のニーズ分析

【観光ニーズ】

(ニーズ分析)

- ・竹田市の来街者アンケートでは5割以上が観光目的となっており、中心市街地の需要ニーズにおいて観光客の購買需要が大きな割合を占めていることが分かった。
- ・観光客の来街目的では、中心市街地の街並み散策や食事等を回答した方は2～3割と少なく、6割が岡城跡を挙げており、城下町としての観光的魅力のPR不足や岡城跡と中心市街地の連携強化が求められる。
- ・観光客の一人当たり平均消費額は1,943円であるが、中心市街地内の不足要素として食事場所やカフェなどの休憩場所を求める方も多く、店舗数の増加やメニューの充実等によって消費金額の増加を促すことは可能と考えられる。
- ・中心市街地の城下町の街並みに対しては、7～8割の方が良い印象を持ち、観光地としての魅力は高いと判断できるが、店舗の内容などソフト面における評価は高くないことから、商業戦略における対策次第で観光地としての魅力を更に高めることができる。
- ・中心市街地内にある観光資源の場所や効率的な観光ルートが分からないなどの意見が多く出されており、観光客をもてなす様々な対策が必要である。

(改善策)

- ・食べ歩きや店舗めぐりができるような観光客向けの飲食店や商店の充実
- ・定休日や営業時間などの統一による各商店街の一体的な取組み
- ・中心市街地内の城下町の街並みや歴史散策などのルート設定及び観光PRの充実
- ・岡城跡と中心市街地の連携強化
- ・観光客に安心して観光していただくため、様々な観光情報を入手でき、効率的に観光を楽しんでいただくための観光拠点の設置
- ・観光誘導やまちなか散策を促すための案内板の設置

【市民ニーズ】

(ニーズ分析)

- ・中心市街地利用の5割以上が日常的な買物で利用しており、買物の内容は食料品や日用品がほとんどである。
- ・市民が中心市街地に期待することとしては、「城下町の地域資源を活用し観光客を増やす」、「日常の買物ができるよう個店の充実を図る」が共に約4割であり、観光地としての魅力と様々な店舗が集積する日常的な買物場所の両面を期待している。
- ・人口減少が進む中で、中心市街地内の店舗数も減少し、街なかの賑わいが失われつつある状況において、中心市街地の再生を求める意見は多い。

(改善策)

- ・日常的な買物需要に対応できる店舗数や販売品目の充実
- ・増加する空き店舗の活用
- ・買い物が困難な方への宅配サービス等による購買需要の確保
- ・公共施設等の充実及び集積による中心市街地の利用機会の増加

6. 関係者へのヒアリング

①アート関係者

アートの活動と地域活性化について

- ・アートカルチャーの取組みは、アート関係者の中ではイベントとして開催することが目的ではなく、竹田に新しい文化を根付かせていきたいという思いが強い。一方で、商店街の人達はズレがあるように感じている。
- ・創る側、アーティストは、自分の作品のクオリティをあげていくことが第一の目的であり、その結果として地域の活性化に貢献していければと考えている。
- ・一方で、人と人とのコミュニティが商店街を形成しており、関わる中で仕事も生まれ頼りにされることも多くなってきた。「ちょっとした手伝い」や「作品を使いたい」という内容ではなく、アートの関係者に店舗の内装やパッケージのデザイン、食のレイアウトやメニューづくりなどきんとした「仕事」として発注してもらえることが望ましく、そういう能力や才能のある人が揃っている。

まちづくりとの関わり方

- ・アート関係者は、予算消化ではなく質の高いものを時間をかけてしっかりとやりたいというように考える。「ちょっと、まちの活性化に手を貸して」とうことではなく、最初の企画段階から任せて欲しい。作家としては、最初の段階からきちんと丁寧に創りたいというのは本音である。商店街がどこに向かって進もうとしているのか、しっかり中に入って作り込んでいくことを希望する。
- ・できれば、まちづくりのツールとして「アート」「アーティスト」を使うのではなく、町をデザインする「仕事」を任せる相手として使ってほしい。「アート」と「デザイン」という言葉を組み合わせて、まちの中に落とし込んでいくようなやり方、そういう関わり方をしていきたい、今のままでは、「アート」を響かせる舞台がない。

今後の活動について

- ・アーティストや作家の1人ひとりが、自分の工房や店舗をしっかり運営して行くのが良いと思う。「アート」という一言でくくられることが多いが、実は個々でその内容は全く違い、竹田在住の作家の中でも多種多様な内容である。それぞれの個性で全く異なるアプローチで質を高め、それらの集合体により竹田の文化性が向上していくものと思われる。「個」を大事にするやり方が、切磋琢磨した結果として良い物が生まれると思う。
- ・商店街の核店舗も同様に、個々の店舗の中身のクオリティをあげていけば、全体のクオリティが上がり、活性化につながるのではないかと。そういうクオリティをあげる「仕事」に関わるのであれば、地域貢献がしっかりできると思う。

②商店街に出店しているアート関係者（染物工房兼ギャラリー）

竹田城下町に出店したメリット

- ・市の所有する蔵を借りて、染物工房兼ギャラリーの運営している。ギャラリーの一部は、城下町を散策する途中の休憩所にも使ってもらいたい。
- ・この地で工房兼店舗を持つメリットは、染物をするにあたり城下町の空気感がとても良く合っているということである。自分は昔ながらの手法・技法で創ることにこだわっており、創ることも見せたいし、できた作品も見せたいが、特に創ることを見せる風景としてこの古い町並みがとても合っていると感じている。また落ち着いた商店街の雰囲気も気に入っている。
- ・以前は隣接市の廃校を利用し知る人ぞ知るといいう工房であったが、竹田城下町に移ってからは観光客の流れもありお客様は増えた。

現在抱えている課題

- ・デメリット、課題としては、閑散とし過ぎているという点。岡城は、平日少なくとも 100 人/日、多い時で 3000 人/日も人が訪れていると聞いている。また「姫だるま工房」には団体バスがたくさん来ている。周辺には多くの人々が訪れてるのに、城下町が素通りされていることが残念。城下町の古い店舗が活用されていないと感じているし、商店街は昔ながらの竹田を復活させなければ魅力が出ないと思う。

まちづくり全般について

- ・自分の創作活動のベースは「原点回帰」、まちの活性化も同様ではないかと思う。
- ・現在は、新しく市外から移り住む人が増えており、そういう人は竹田本来の魅力に気が付いていると思う。「地域おこし協力隊」の人達は、新しいアイデアをたくさん持っている。今は種まきの時で、これから外からの人もまちづくりに加わることで良くなっていくのではと期待している。

③将来、商店街に出店を希望している人

竹田城下町への希望の理由

- ・古いレトロな「昭和の喫茶店」をやってみたいと考えており、竹田城下町は自分が思い描く店のイメージにぴったりであるので、この場所に決めている。
- ・竹田城下町の雰囲気がとても気に入り 1 年前に県外から移住し、喫茶店の開店に向け検討を進めている。
- ・今は、希望にあう物件を探している状況だが情報量が少ない。借りる側、貸す側との交流や情報交換できる場があると良いと思う。

どのような業態、店舗を検討しているのか
<ul style="list-style-type: none"> ・住みながら喫茶店をしたいと考えており「住宅兼店舗」の空き店舗を希望している。 ・地元の人が日常的に集える、学生が学校帰りに立ち寄れる、一人暮らしの高齢者が会話を求めて集まれるような交流サロンの場にしたい。まちのニーズに合わせた店舗にしたい。
まちづくり全般について
<ul style="list-style-type: none"> ・竹田の良さをもっと活かせばいいと思うことがあり、これだけ地域資源があるのにもったいないという気持ちも持っている。 ・商店街の中は、2極化しているように感じる。観光客、地元の人に関わらず温かいおもてなしのサービスが行き届いている店舗とサービスが地元の人に限定して、観光客にはそっけないような店舗がある。ホスピタリティのある接客というのは「また来たい」と思わせることにあると思うが、そこに気が付いていない店舗が多いように感じる。

④空き店舗所有者

空き店舗の現況
<ul style="list-style-type: none"> ・所有しているのは店舗兼住宅。現在は1階の店舗の半分を部分的に薬局に貸している残りの店舗部分と2階の住宅は空いている。(所有者は別の場所に移住。) ・希望としては、1棟丸ごと借りてくれるとありがたいと思っている。
賃貸の可能性、条件について
<ul style="list-style-type: none"> ・商店街のなかで、家賃設定の基準がなくあいまいなことが問題点である。公的なところからの家賃設定のガイドラインが欲しい。 ・空き店舗所有者の中には、実際に「貸してもいい」という人は多いが、契約後のトラブルや権利関係のもめごとを恐れて、空店舗のままにしている人も多い。商工会議所や市が間に入ってくれれば動きが生まれてくると思う。 ・借りたい人、所有者とのマッチングの場があれば、今より空き店舗の解消が進むと思う。
まちづくり全般について
<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの様々な取り組みが有機的に結びついていないように感じる。 ・おもてなしの観点から、商店街の人の意識改革も必要であると感じる。

[4] 中心市街地活性化に向けた課題の整理

①都市計画道路の廃止を契機とした活性化の推進

⇒中心市街地内に指定されていた長期未着手都市計画道路は、城下町の文化を壊し、コミュニティの分断を招く要素として、中心市街地再生の最大の懸案事項であった。また、都市計画道路の指定区間では、建物の修景事業が実施できなかった背景から、都市計画道路の廃止を契機に修景事業の増加が期待されることから、他の活性化施策との総合的な取組に結びつけることが課題である。

②歴史的風致と街なみ景観の保全・活用

⇒竹田市の中心市街地は、城下町として発展した経緯から、町割の街区が現存し、武家屋敷跡や伝統的な商家の建物が各所で連なり、白漆喰、切り妻造りの建物など、風情のある町屋が点在・連担しており、歴史的風致の重要な要素となる街なみ景観の保全・活用を進めていくことが課題である。

③城下町の風情ある街なみを歩いて楽しめる場所の形成

⇒中心市街地には、多くの歴史的文化資源があるものの、資源相互を結ぶ回遊性が弱く、時間消費型のまちなかになっていないため、通り抜け路地、街路灯などによる、夜間の歩きやすさや回遊したくなる楽しい仕掛けづくりを行い、街なみを歩いて楽しめる場所を形成していくことが課題である。

④都市基盤整備や都市機能の集約による利便性の高い居住環境の形成

⇒中心市街地人口は、市平均より減少傾向が著しく、今後さらに活力やコミュニティの衰退進行が危惧されており、都市基盤の整備や都市機能の集約等によって、居住地としての魅力を高めることが課題である。

⑤地域住民が交流できる施設の充実による地域コミュニティの維持・形成

⇒地域コミュニティの維持・形成を図る上で、公民館竹田分館や社会福祉センター、水琴館等の既存施設の役割分担を明確にし、地域住民相互の交流ができる施設の充実が課題である。

⑥既存ストックの有効活用による街なかへの居住誘導の推進

⇒中心市街地内は、共同住宅の少なさ、戸建て住宅をはじめとする空き家の増加、未利用地の少なさといった問題があり、空き家の再生や建物の共同化など既存施設の有効活用による住宅供給量を確保することが課題である。

⑦空き地や空き店舗の発生防止に向けた商業地としての活力と魅力の向上

⇒中心市街地では、商業活力の低下とともに、空き家や空き店舗が増加している。特に、JR豊後竹田駅からのゲートとなる古町地区の商店街では、販売額、商店数、売場面積のいずれも他の商店街に比べ、大きく落ち込んでおり、商業地としての活力と魅力の向上が課題である。

⇒市民意向において、観光地としての魅力と日常的な買物場所への両面の期待されていることや、市内購買需要の減少と観光客の来街者割合が5割を超えたことを踏まえ、観光客の購買ニーズに対応した商業経営、商業戦略への転換が必要となっている。特に、観光客からは店舗の内容などソフト面に対する評価は高くなく、観光客をもてなす戦略を講じる必要がある。

⑧高齢者や障がい者をはじめとした誰もが利用しやすい市街地環境の形成

⇒中心市街地には多くの公共公益施設が立地するが、案内施設や休憩所が不足し、訪問客が街なみや史跡を回遊し難い環境であるため、高齢者や障がい者が生活及び回遊しやすい市街地環境の形成を行うことが課題である。

【5】 中心市街地活性化の基本的な方針

(1) 旧法に基づく取組の総括

旧法に基づく中心市街地活性化の展開は、3つ柱を基本としてその方向付けを行っている。一つ目に『市街地中心部の定住化の促進』を掲げ、市街地中心部の人口流出を食い止め、中心市街地に居住する住民の利便性を高めることを目的として、具体施策に生活環境の改善や空き店舗対策事業、また、都市との情報格差をなくす高速情報通信網の整備等を計画した。

2つ目に、『市街地周辺部に対する拠点性の強化』を計上、市街地周辺とのアクセスを強めるための道路整備や駐車場整備を行うとともに、市街地の拠点となる「温泉館花水月」をはじめとする施設等を活かし、回遊性のある街並み整備などの施策を計画した。3つ目に、『大都市圏との交流の促進』を挙げ、歴史的街なみの魅力アップや観光案内板の整備、誘導案内の強化、中心市街地の拠点施設におけるインフォメーションの充実などを施策として計画した。

成果としては、空き店舗対策事業の実施（U・Iターン者などによる新しい店舗展開で、平成22年度2件、平成23年度6件）、歴史的街なみ景観形成事業（新築・改築する場合の補助制度で、城下町としての歴史的な街なみ維持を目的とする）、情報ネットワーク整備事業（都市との情報格差是正のため高速通信網（FTTH）整備を行い、人口流失を防止し定住化を図り、新たなビジネスの展開誘導を促進している。平成24年3月末でテレビ7,609世帯・インターネット1,665世帯が加入）、コミュニティバス・回遊バス運行事業（周辺地域の弱者対策としてバスの運行を継続、内容は平成18年度からコミバスが9路線16系統、乗合自動車2路線2系統、豊後大野市をまたぐ路線5路線8系統を実施している）、中九州地域高規格道路の整備（国事業で大分市から豊後大野市まで開通）、国道502号改良整備（県事業）、観光案内板や誘導案内等の整備（城下町に融合したデザイン案内板の設置）、商家風景づくり事業（歴史的な街なみの雰囲気醸成する日除け幕を設置）などを実施し、少なからず市街地の利便性や生活環境の改善を図ることができた。

しかしながら、市街地整備改善のための多くの事業が実施できていない。原因としては、少子・高齢化等による近年の人口減少、市の財政上の課題、ハード事業等の遅延などが挙げられ、その他の要因として、イベント等の縮小により、当初の想定よりも効果が見込めなかったことなどがある。

また、最も大きな要因として指摘されるのは、TMO（タウンマネジメント機構）の育成ができなかったことであり、結果として中心市街地の一体的な整備を行うには至らなかった。

こうした旧法に基づく計画の総括から、今回策定しようとする1期計画では、重点的な事業に絞り込み、行政、中心市街地の関係者等と連携を密にし、より大きな効果を生み出すよう取り組みたい。



情感まちづくり

わたしたちが考える情感まちづくり
情感は、みんなが共感できるものやこと
竹田にある情感のひとつひとつをきちんと育てていけば
きっと竹田にしかない、竹田のみなさんならばこそ共有できる風景になります
竹田は、みんながいつか見たような風景になりうらうと思うのです

(参考) 東京大学景観研究室資料

本市の中心市街地には、城下町の歴史的街並みや瀧廉太郎に由来する音楽文化、竹田田楽や手打ちそば、鳥天などの食文化、竹細工などの工芸文化などの体で感じられる様々な素材を有している。このような竹田独自の魅力を最大限活用し、城下町の風情と文化を体中で感じていただけるような街を創出し、市民や観光客に末永く愛される中心市街地を形成するため、活性化に向けたコンセプトを以下のように設定する。

「城下町の風情が五感に響く “竹田情感まちづくり”」

②基本方針

■基本方針 1

城下町の風情を活かした歩いて楽しい観光拠点づくり

- ・歴史や文化に育まれた城下町の特色を活かし、風情と魅力づくりを住民や商業者、行政が一体となって城下町の風情を生かした観光拠点づくりを進める。
- ・中心市街地までの交通案内や駐車場の配置などを戦略的に行い、観光客が中心市街地にアクセスしやすい交通環境を整える。
- ・城下町の風情を残す中心商業地への進入車両の抑制、歩行者の安全確保に努め、安心して快適に散策できる道路環境と賑わいづくりを進める。

■基本方針 2

快適な居住環境の整備と市民が日常的に利用できる中心市街地づくり

- ・若年層世代に限らず、高齢夫婦や若者の単身者なども含め、幅広い世代が居住できる利便性の高い安全な居住空間を提供する。
- ・様々な都市機能が集積する場所として、市民が日常的に利用できる親しみやすく身近な中心市街地づくりを進める。
- ・中心市街地に商業・業務施設や公共公益施設を集積させ、中心市街地の利用機会の向上を進める。

③中心市街地再生の3つの戦略

基本方針を実現するための施策を展開するにあたっては、「観光客を中心市街地に誘導するための戦略」「まちなかを回遊させるための戦略」「来街者のもてなし戦略」の3つの戦略に基づいて実施していく。

【戦略1：観光客を中心市街地に誘導するための戦略】

中心市街地の特徴としては、トンネルを通らなければ市街地内に車で入れないといった特徴があり、車での進入経路は限定され、通過交通の進入は少ない。このため、中心市街地の入り口に駐車場を設けるなど、市街地内への車の通行を制限することによる交通への影響は少ないと考えられる。

観光客を中心市街地に誘導するためには、各方面の玄関口を設置し、中心市街地に誘導する手段や対策を戦略的に行う。

骨格構成	整備の方向
広域交流拠点	広域からの利用者を対象として、観光客や市民が交流できる空間を形成する。
エントランス拠点	岡城跡へのエントランス空間として、案内や休憩場所として活用する。
ふれあい交流拠点	市民と観光客がふれあえる場所として活用する。
地域交流拠点	地域住民や市民の交流活動の場として活用する。
歴史・観光資源	歴史文化施設であり、観光活用できる整備を行う。
視点場・憩い空間	中心市街地の癒しのスポットとして観光利用に生かす。
交通エントランス	観光客の交通拠点として、駐車場や公共交通への乗り換えなどの整備を行う。

【戦略2：まちなかを回遊させるための戦略】

竹田の中心市街地の魅力は、竹田の街を歩くことで感じる情感を伝えることであるため、まちなかを回遊させるための戦略を検討する。

市民や観光客が街なかを散策できるようなルート及び拠点を設け、街なかを回遊する対策を講じる。

骨格構成	整備の方向
歴史回廊軸	竹田の風情を感じられる回遊軸として、歩行者空間の整備や案内整備を充実する。
自然回遊軸	自然を満喫し、街なみや歴史を感じながら、日常的に散策できる歩行者空間とする。

【戦略3：商店街のもてなし戦略】

1) 商店街の今後の方向性

○賑わい拠点の形成

中心市街地の中心に位置づけられた広域交流拠点においては、コミュニティセンターの建設が予定されていることから、商業施設を中心とした「まちの駅（仮称）」を整備することで広域交流拠点としての機能強化を行い、商店街における賑わいの拠点を創出することで、周辺の空き店舗の活用や新たな店舗の出店などを促す。

○医商連携によるまちづくり

古町に集積する医療・福祉施設には、通院者が多く来街しており、施設に勤務する従業者を含めると、来街者の割合の多くを占める。しかし、現状では、商店街での買物をされる方は少なく、商店街利用の潜在需要の可能性がある。

このため、通院者需要に応じた個店の充実や待ち時間の買物利用を促すなど、医療施設と商店街との連携を図ることで商業の活性化を図る。

○新たな文化発信

中心市街地は、商店街で展開されるアートプロジェクトなどによる地域で活躍する若手アーティストの活動舞台としての役割を担っており、既存の瀧廉太郎記念館や武家屋敷などの歴史風致を合わせて、竹田のアートカルチャーが融合する文化発信の重要な拠点を形成していく。

2) 導入機能の検討

問題点	課題	導入機能
中心市街地における急速な人口減少	<ul style="list-style-type: none">若い世代のニーズに対応した利便性の高い賃貸住宅の整備まちなか居住の推進買物が便利な生活しやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none">居住施設学生寮子育て支援施設
超高齢社会、高齢者の単身世帯の増加	<ul style="list-style-type: none">中心市街地及び周辺に居住する高齢者への対応一人暮らし高齢者の受け皿となる介護支援施設の不足	<ul style="list-style-type: none">宅配サービス福祉施設高齢者レストラン
情報機能・案内機能の不足	<ul style="list-style-type: none">散策途中の休憩場所の確保観光案内、情報発信拠点の形成案内板の設置	<ul style="list-style-type: none">観光交流施設アンテナショップ
回遊性、滞留要素の不足	<ul style="list-style-type: none">回遊性を高めるための休憩場所の確保滞留時間を長くするための施設の充実と連携	<ul style="list-style-type: none">軽食・カフェ竹田ご当地グルメ（食選館）
商店街の新陳代謝の向上（若者、女性の活用）	<ul style="list-style-type: none">出店希望者と地主のマッチング機会の向上若者や女性が働きやすい環境の確保	<ul style="list-style-type: none">まちづくり活動拠点の形成一時保育施設

2章 中心市街地の位置及び区域

[1] 位置

○位置設定の考え方

本市中心市街地は、JR 豊後竹田駅から岡城跡入口道路までの約 700mの間に形成された城下町を中心に、城下町の面影を残す商業地や公共公益施設等の都市機能が集積し、周囲は丘陵に囲まれ、徒歩圏内に建物が密集する位置とする。

